

平成22年度（平成21年度対象）

逗子市教育委員会 点検・評価に関する報告書

逗子市教育委員会

【目次】

○はじめに

1 報告書作成の趣旨	1
2 点検・評価の対象等	1
3 点検・評価の記載方法	1
4 報告内容の構成	2

○ 点検及び評価の結果

逗子市学校教育総合プラン 21世紀を生きる逗子の子どもの育成 「未来を切り拓く子どもの成長を支えるために」	
自ら考え 心豊かに たくましく生きる子ども	頁
I 子どもたちの学力向上	3
1 個に応じた指導の充実	3
① 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実	3
② 読解力向上の取り組みの推進	6
③ 読書活動の推進	8
④ 支援教育の充実	10
〈教育委員会分析結果〉	12
〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	15
2 健やかな心と身体の育成	17
① 基本的な生活習慣の育成	17
② 豊かな心を育む教育の充実	19
③ 豊かな体験活動の推進	21
④ 健康教育の推進	23
〈教育委員会分析結果〉	25
〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	27
II 課題に迅速に対応する学校づくり	29
1 多様な教育的課題への対応	29
① 子どもの安全と安心の確保の推進	29
② いじめ・不登校等への対応の推進	32
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	34
④ 国際理解教育の推進	36
⑤ キャリア教育の推進	38
⑥ 福祉教育の推進	40
⑦ 環境教育の推進	42
⑧ 情報教育の推進	44
〈教育委員会分析結果〉	46
〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	49
2 地域に関われた学校づくり	51
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	51
② 地域教育力の活用	53
③ 学校評価を生かした学校の改善	55
〈教育委員会分析結果〉	57
〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	59

Ⅲ	教員の指導力向上	61
	1 教員研修・研究の充実	61
	① 授業研究の充実	61
	② 授業評価の活用	64
	③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	66
	④ 研修事業の充実	68
	〈教育委員会分析結果〉	70
	〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉	72

・平成19年度～平成21年度 学校による点検及び評価の推移

逗子小学校	75
沼間小学校	79
久木小学校	83
小坪小学校	87
池子小学校	91
逗子中学校	95
久木中学校	99
沼間中学校	103

○参考資料

・平成21年度の教育委員会の活動状況	107
・逗子市学校教育総合プラン全体図	110
・地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）	111
・地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（抜粋）	112

はじめに

1 趣旨

逗子市教育委員会では、「21 世紀を生きる子どもの育成、未来を切り拓く子どもの成長を支えるために」を基調に、逗子の公立学校の取り組む方向性を示す「逗子市学校教育総合プラン」を平成 18 年度に策定しました。この「逗子市学校教育総合プラン」は、さらなる学校教育の充実に向け、これまでの本市の教育施策や各学校の取り組みを整理するとともに、理念的なプランではなく、「子どもたちの学力向上」「課題に迅速に対応する学校づくり」「教員の指導力向上」と大きく三つの柱を立て、これからの子どもたちに培う力、そのための学校教育の進め方などについて具体的・実践的なプランとして策定したものです。

この三つの柱を中心に、基礎学力の定着、豊かな体験活動の推進、健康教育の推進、地域全体で学校を支援する体制づくりなどに重点をおき、逗子の教育の一層の充実に取り組む必要があります。

このたび取りまとめた「平成 22 年度（平成 21 年度対象）逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書」は、このような逗子の教育の特色ある施策の報告とともに、平成 21 年度逗子市教育委員会の活動状況についてもお知らせをするものです。

今後も広く市民の皆さんに本市の教育施策の実施状況をお知らせすることにより、学校と行政、そして保護者、地域と互いに携えあって「いきる力」を育み、逗子のよりよい教育施策の実現に資するよう努めてまいります。

2 点検・評価の対象等

点検・評価の対象は、「逗子市学校教育総合プラン」実施計画の平成 21 年度の取り組み状況としています。

*本市の点検・評価に関する報告書については、予算や決算審査では見えにくい各学校の教育活動に焦点をあて、「逗子市学校教育プラン」の平成 21 年度における取り組みを点検・評価とするものです。

なお、平成 19 年度から 3 ヶ年の行動プランを示した「逗子市学校教育総合プラン」は 21 年度で最終年度を迎え、22 年度からは「逗子市学校教育総合プラン」（第Ⅱ期）に基づく取り組みが始まっています。

3 点検・評価の記載方法

(1)「逗子市学校教育総合プラン」の三つの柱に基づいて定めた各行動プランについて、平成 21 年度に各小・中学校が取り組んだ状況を明らかにするとともに、教育委員会が各小・中学校が取り組んだ事項を総合的に分析した結果を記載しています。

(2) 点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方の意見、助言を記載しています。

意見をいただいた方々のお名前は、次のとおりです

高木 展郎 氏（横浜国立大学教育人間科学部附属教育デザインセンター教授）

久保田 貢 氏（元鎌倉女子大学非常勤講師 元鎌倉市立西鎌倉小学校長）

4 報告内容の構成

(1) 項目

点検・評価の対象を「逗子市学校教育総合プラン」の「三つの柱」をさらに次の五つに分けた項目ごとに点検・評価を行っています。

ア 個に応じた指導の充実

イ 健やかな心と身体の育成

ウ 多様な教育的課題への対応

エ 地域に開かれた学校づくり

オ 教員研修・研究の充実

(2) 目標

項目及び行動プランごとの目標を掲げています。

(3) 各小・中学校の実施計画取り組み概要

各小・中学校ごとの行動プラン「平成21年度の取り組み目標」と「評価と課題」をまとめています。

{評価基準} S—行動プランの水準を上回ることができた

(①次年度の行動プランを先行実施できた、②行動プランが詳細にわたって充実できた、のいずれかが、クリアできている状況)

A—行動プランの全体を水準まで進めることができた

B—行動プランの一部を水準まで進めることができなかった

C—行動プランの全体を水準まで進めることができなかった

(4) 教育委員会分析結果

各小・中学校の取組の進捗状況などを踏まえ、教育委員会が評価を行い、今後の課題や対応の方向をまとめています。

(5) 学識経験を有する者の意見、助言

外部からいただいた意見を掲載しています。

* 最後に、過去3年間の各学校の取り組み内容の一覧を添付しています。

○ 点 検 及 び 評 価 の 結 果

I 子どもたちの学力向上

<目 標>

学校が、子ども達の学力向上を果たすために、子どもの実態を踏まえた教育課程を編成し、個に応じた指導の充実を図り、指導法・評価活動の工夫を進めるとともに、基本的生活習慣の育成を家庭とともに連携し、進めていきます。

1 個に応じた指導の充実

① 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実

【 目 標 】

学校が担う役割の一つは、子どもたちが他者との関わりの中で生きていく力、すなわち集団生活における社会性を身につけることです。その過程で、生きていくために必要な様々な力を習得していきます。

しかし、生活様式や価値観が多様化している現代において、画一的な一斉授業だけでは基礎学力を定着させることは難しい状況になっています。

そこで本市では、学校の機能や教員の能力を最大限に活用し、子どもたち一人ひとりにあった学びに配慮し、指導の充実を図っていきます。具体的には教材や指導方法の工夫・改善に取り組み、発展的・補充的扱いを配慮した指導を行い、指導と評価の一体化を図ることで、学びの質の向上を目指します。

また、家庭学習においても予習・復習を促し、学校での学習活動を進める連携を図ります。

1 各小中学校における平成21年度の取り組み目標

- 逗子小学校 確かな学びを身につける。
- ・少人数指導やチームティーチングの工夫・改善を進める。
 - ・反復学習や補充指導に取り組む。
 - ・確実な習得を図るための家庭学習に取り組む。
 - ・保護者に学習状況を丁寧に伝える。

- 沼間小学校
- ・夏季休業期間中に児童実態に応じて学習についての支援を行う。
 - ・家庭と連携を図り家庭学習の充実を図る。
 - ・学年ごとの到達目標を明確化して取り組む。

- | | |
|-------|--|
| 久木小学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習環境の充実整備 ・ 少人数指導やチームティーチング、小集団など多様な学習形態を充実 |
| 小坪小学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数指導やチームティーチング指導方法の取り組みの総括 ・ 児童が自主的に課題学習の課題を持って取り組み、定着が図れるように指導する。 ・ 自ら課題に取り組む学習方法の定着を目指す。 ・ 分析に基づいて、テスト内容の適否を検証する。 ・ 活用を年間の教育課程に位置づける。 |
| 池子小学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 20年度の取り組みとその成果を踏まえ、指導法の改善を図る。 ・ 学習評価や学習状況の伝え方を一層工夫し、学習支援に生かしていく。
特に、支援の必要な児童には、学習支援日等を設定し、取り組みを進める。 ・ 単学級への対応、児童指導支援部との連携を進める。 |
| 逗子中学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数指導の充実 ・ 学習支援シートを活用した評価の充実 ・ 授業力の向上の研修・研究と子どもが主体的に学習を進めていけるような学習環境整備 |
| 久木中学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導方法の工夫・改善を継続する。 ・ 理科の1年生一部のチームティーチング授業の実施をする。 ・ 個人用のカルテを活用する。 ・ 放課後の補習、学習相談を実施する。 ・ 評価基準を明確にし、指導の一体化を図る。 |
| 沼間中学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 全校生徒一人ひとりの3年間継続の個人学習支援シートを作成し、9教科を総合的に捉えた学力の向上を図る。→読解力、思考力、発表力等 |

2 各小中学校における平成21年度の評価と課題

- | | |
|-------|---|
| 逗子小学校 | <p>モジュールの時間を漢字の読み書きに絞って繰り返し取り組み成果を得た。算数についても取り組む必要がある。
(自己評価・B)</p> |
| 沼間小学校 | <p>学力を育む基本は授業であることを大切にされた教育実践を進める。さらに重点を絞った取り組みを進め、授業の工夫を進める。(自己評価・A)</p> |

- 久木小学校 担当学年で連携を図り、教材教具、施設設備の改善・学習形態の工夫に計画的に取り組むことができた。(自己評価・・・A)
- 小坪小学校 一人学びの推進。(自己評価・・・S)
- 池子小学校 児童指導支援体制の充実により支援の必要な児童への対応が進められた。単学級の学年へ多くの教師が関わる体制を一層進める。(自己評価・・・S)
- 逗子中学校 少人数指導のさらなる充実。学習支援シートを改善し、教科指導・教育相談に役立てる。生徒の意欲の深化を図る。(自己評価・・・S)
- 久木中学校 日常的及び長期休業中の計画的な補習体制が必要である。更なる指導法の工夫と改善が必要である。(自己評価・・・A)
- 沼間中学校 個人学習カルテの改善と個別学習支援は充実できたが、休業中の補充学習には改善すべき点も残った。(自己評価・・・A)

② 読解力向上の取り組みの推進

【 目 標 】

学習活動を行っていく上で、文章や資料を読み解き、自分の意見を筋道を立てて述べることは大切です。このことは教科学習に限ったことではなく、社会生活を送っていく上でも、物事を考え自分の考えを発信していく力は不可欠です。

携帯電話をはじめ、様々な機器が出現し、その便利さと裏腹に、きちんとした文章を読んだり書いたりする機会が減少している昨今、読解力の向上が、子どもたちの学力の向上のために急務であると考えます。これからの学力は知識の量から知識を活用する能力へと質的な学力向上が求められています。一朝一夕に身に付く力ではありませんが、逗子市では先に策定した『逗子市読解力向上プラン』をもとに、子どもたちの読解力の現状把握と分析を進め、読解力の向上を推進します。

1 各小中学校における平成21年度の取り組み目標

- | | |
|-------|--|
| 逗子小学校 | 確かな学びを身につける。 <ul style="list-style-type: none">・音読を通して言語の情報の正しい理解を図る。・資料の意図や意味を理解する活動を充実する。・要約・説明・報告などの論理的な文章作成技術の取得を図る。 |
| 沼間小学校 | <ul style="list-style-type: none">・市教育研究所主催の授業力向上研修会への教員派遣・国・県学習状況調査の客観的なデータ分析に基づいた授業改善を図る。・上記調査データの活用の工夫を図る。 |
| 久木小学校 | <ul style="list-style-type: none">・自分の考えを述べたりする機会を充実し、コミュニケーション能力を高める。 |
| 小坪小学校 | <ul style="list-style-type: none">・学校独自の図書資料の作成を行う。・授業に活用しやすい図書資料一覧を作成する。・コミュニケーション力の向上が図られているか検証の在り方を検討し、総括する。 |
| 池子小学校 | <ul style="list-style-type: none">・洗い出された学習面の課題を踏まえ、「逗子市読解力向上プラン」をもとに各教科・総合的な学習の時間を通して実践を行う。・新指導要領に示された言語活動の充実を目指す。 |

- 逗子中学校

 - ・文字文化の奨励・発展
 - ・横浜中との連携・継続研究
 - ・音読活動の重視の継続
 - ・N I E（教育に新聞を）活動の充実

- 久木中学校

 - ・「読解力向上プラン」をもとにした各教科・総合的な時間の読解力向上のための実践をする。
 - ・一人ひとりの学習状況を把握し改善を生かす。

- 沼間中学校

 - ・読解力向上について、さらに発展と向上を図る。

2 各小中学校における平成21年度の評価と課題

- 逗子小学校

授業研究に言語活動を取り入れた結果、要旨をとらえる力に向上が見られた。学年の系統性を持った取り組みが必要である。(自己評価・B)

- 沼間小学校

さらに重点を絞った取り組みを進め、授業の工夫を進める。(自己評価・A)

- 久木小学校

研究会や外部からの講師を招き、言語活動の充実を図り、総合的にコミュニケーション能力を高めた。(自己評価・A)

- 小坪小学校

図書資料は活用したが、一覧の作成には至らなかった。(自己評価・A)

- 池子小学校

新指導要領のねらいを踏まえた校内研究の推進により言語活動の充実に向け成果があった。この取り組みを継続する。(自己評価・A)

- 逗子中学校

言語活動との結びつきをさらに深めていく。(自己評価・A)

- 久木中学校

全教科において言語活動の充実を実践できる授業実践が必要である。(自己評価・A)

- 沼間中学校

新学習指導要領を考慮し、1年で国語の少人数指導を試行した。また、各教科言語活動の指導を授業に取り入れる等、完全実施に向けて取り組んだ。(自己評価・A)

③ 読書活動の推進

【 目 標 】

子どもの活字離れが言われている今日ですが、本に接し読書に親しむことは、いろいろな考えに触れ、知識を蓄え、豊かな心を育むことの基盤となります。

学校においては、読書活動につながる教育内容・指導方法の工夫により、子どもたちに読書の楽しさを伝えるとともに、「朝の読書」「読み聞かせ」など読書の習慣づけを促進することが大切です。

また、学校生活をおくる子どもたちにとって、学校図書館は読書活動の重要な拠点と言えます。子どもの読書習慣の定着と読書意欲の向上のために、学校図書館を核として、市立図書館や地域の方々との連携を図り、子どもたちが活発に図書館を活用し読書に親しむことができるようネットワークの充実を図る必要があります。

1 各小中学校における平成 21 年度の取り組み目標

- | | |
|-------|--|
| 逗子小学校 | 確かな学びを身につける。 <ul style="list-style-type: none">・全学年で一斉に読書にふれあう時間を設ける。・読書推進計画の見直しを行う。・市立図書館を活用した読書活動を進める。・ボランティアの活用を一層進める。 |
| 沼間小学校 | <ul style="list-style-type: none">・保護者による読み聞かせボランティアの充実を図る。・市立図書館との連携を進める。 |
| 久木小学校 | <ul style="list-style-type: none">・図書室を整備していく。・第二図書室を充実させる。・前年度の活動を見直して、充実させていく。 |
| 小坪小学校 | <ul style="list-style-type: none">・小坪小の特色であり、日常活動を通して継続充実に努める。・関係機関との取り組みの中で、読書活動の定着を図る。・活用事例を冊子にまとめる。・蔵書の充実を図る。 |
| 池子小学校 | <ul style="list-style-type: none">・学校図書館と市立図書館との連携を深めたり、保護者・地域との連携を深めたりしながら、読書活動のネットワークを広げる。 |

逗子中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・逗子中学校読書基本計画の継続実施 ・朝読書の継続 ・読み聞かせなどの工夫 ・集団読書の充実
久木中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA と図書委員会との共同活動の定着化を図る。 ・授業での図書室利用を含めた読書活動の充実をめざす。 ・読書記録カードの活用をめざす。 ・地域やPTA 等を活用した読み聞かせを実施する。
沼間中学校	<p>読書週間を中心に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書を生徒自らの活動で充実させる。 ・朝読書を充実させるためにブックトークの取り組みも積極的に取り入れる。

2 各小中学校における平成 21 年度の評価と課題

逗子小学校	ボランティアの取り組みや担任の読み聞かせなど全校的な取り組みとなった。読書推進計画に基づく取り組みが必要である。(自己評価・・・B)
沼間小学校	今後もさらに市立図書館との連携を進める。(自己評価・・・A)
久木小学校	おはなし会のボランティアの方と連携や引継ぎを密にし、計画的に進めることができた。(自己評価・・・A)
小坪小学校	読書活動推進に児童の発想を生かしていきたい。(自己評価・・・A)
池子小学校	池子お話会の活動の他、保護者が朝の時間等に読み聞かせを行うボランティアの活用も進めることができた。継続した取り組みを進める。 (自己評価・・・S)
逗子中学校	教科での図書館利用の促進を通して計画的な利用を図る。(自己評価・・・A)
久木中学校	学校支援ボランティアやPTA を活用し学校図書館の機能を活性化し、読書の推進をすすめる。(自己評価・・・A)
沼間中学校	読書週間期間及び昼休み等を使い、読書活動や読み聞かせ等を行った。さらに充実を図りたい。(自己評価・・・B)

④ 支援教育の充実

【 目 標 】

支援を必要としている子どもたちに対して、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、学校を中心とした総合的な支援体制の構築が、今、求められています。

それに応えるために、学校では校内組織の充実を図り、教育相談コーディネーターの活用を進めていくとともに、校内の支援体制の充実と外部の専門機関との連携を図る必要があります。

さらに、子どもたちの心の問題に迅速に対応できるよう、相談体制を充実させるとともに専門家や専門機関と連携し、協働することが大切です。

よりよい支援を行うために「支援シート」を活用し、子どもたちのライフステージを見通した指導の継続と様々な機関との連携による「縦」と「横」の支援が必要です。

1 各小中学校における平成21年度の取り組み目標

- | | |
|-------|---|
| 逗子小学校 | 保護者への周知と支援対応の充実 <ul style="list-style-type: none">・支援シートに基づく学習支援の実施・全教職員による支援体制の構築・中学校と支援シートに基づく連携を進める。・具体的なプログラムを示した保護者との面談 |
| 沼間小学校 | <ul style="list-style-type: none">・支援を必要としている児童の実態調査を進め、支援の具体的対応の検討をする。・外部機関等の専門機関と連携を進める。・支援教育を推進するための教育ボランティアの活用を図る。・校内支援教育部中心の支援教育体制の充実を図る。 |
| 久木小学校 | <ul style="list-style-type: none">・校内組織及び、支援体制の機能を充実させていく。 |
| 小坪小学校 | <ul style="list-style-type: none">・対外機関との連携の在り方を検討する。・特別支援学級の児童との交流の機会を増やす。 |
| 池子小学校 | <ul style="list-style-type: none">・引き続き校内児童指導支援体制の充実を図る。・幼保小中の連携を深め、一貫した視点で児童の指導に当たれるよう情報交換を密にする。 |

逗子中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援体制の強化・見直し ・ 教育相談・ケース会議の見直し ・ 補習体制の見直し ・ 学習支援シートの活用
久木中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談コーディネーターを中心とした校内体制による支援教育を推進する。 ・ 一人ひとりの実態把握に努め、ケース会議開催を定期化する。 ・ 個人用カルテの活用をする。 ・ 支援教育研修会の開催し、教職員、保護者の共通認識を図る。 ・ 学校全体で教育支援の取り組みをする。
沼間中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別に支援が必要な生徒への具体的な支援方法を学習面、メンタル面両輪で体系的に実践する。

2 各小中学校における平成 21 年度の評価と課題

逗子小学校	保護者の満足度が上昇してきた。具体的な人的な学習支援が必要である。 (自己評価・・・A)
沼間小学校	今後も体制づくりや研修等を充実させていく。(自己評価・・・A)
久木小学校	教育相談コーディネーターや関係機関との連携を円滑に図り、チーム体制を充実し機能的に活動できた。(自己評価・・・A)
小坪小学校	普通級における支援を今後も検討していく。(自己評価・・・A)
池子小学校	学校運営の大きな柱として支援教育を位置づけ、教育相談コーディネーターを中心に支援体制の充実を継続的に進める。(自己評価・・・S)
逗子中学校	支援教育委員会を中心として校内と校外を連携をすすめていく。 (自己評価・・・A)
久木中学校	生徒の正しい見立て方、状況に応じた支援・指導の仕方の研究・研修を引き続き行う。(自己評価・・・A)
沼間中学校	支援委員会で検討された事項を全体会で報告し全職員に共通理解を図った。また、外部講師による校内研修会を実施する必要がある。 (自己評価・・・A)

〈教育委員会分析結果〉

1 平成21年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な実施事業

- 県学習状況調査
- 少人数指導教員派遣事業（11人）
- 学校教育支援ボランティア事業（411人）
- 研究推進委託事業 小坪小学校⇒コミュニケーション力向上
逗子中学校⇒学ぶ意欲、自ら学び考える力の育成
- 授業研究委託事業 沼間小学校⇒自分の考えを表現できる子
池子小学校⇒子ども同士が学びあう学習の創造
久木小学校⇒外国語（英語）活動を通しての学び
- 特色ある学校づくり事業
逗子小学校⇒学級集団の科学的診断に基づく学級経営の充実
沼間小学校⇒地域人材を活用した環境教育
池子小学校⇒郷土資料室整備・活用を通じた地域性を活かした学習
づくり
久木中学校⇒国際教育の充実・推進
- 学校図書館指導員派遣事業
- 日本語指導講師派遣事業（4人）
- 特別支援教育充実事業
（学習支援員38人、特別支援補助教員3人、ことばの教室補助指導員1名）

(2) 主な指導内容

- ▲県学習状況調査、全国学力・学習状況調査等、客観的データに基づいて子どもの実態を把握し、個にかえる指導実践
- ▲「読書活動推進計画」の実施
- ▲教育相談コーディネーターを中心とした校内児童・生徒支援体制の確立
- ▲校内支援体制の構築に向けた各校の課題把握
- ▲教育相談コーディネーター、心の教室相談員、学校図書指導員等への研修会の実施

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果

(1) 市立全校の実践評価 [A]

(2) 主な成果等

【基礎学力】

- ・少人数授業では、中学校は国語(1校)・数学(3校)・英語(3校)・理科(2校)をいずれも習熟度別グループで実施した。小学校は、算数(5校)・国語(2校)を実施した。
- ・昨年に引き続き中学校3校と小学校4校で夏季休業中に児童生徒の実態に応じた補充的学習の取り組みを、学校体制として実施した。

【読書】

- ・地域住民や保護者のボランティアとの連携で、読み聞かせやお話会など、読書の習慣づけのきっかけになる活動を積極的に行った。
- ・学校図書館指導員は司書教諭と連携して、学校図書館が子どもの学習環境として望ましい環境となるように整備や研修に努めた。

【支援教育】

- ・心理臨床の専門家を講師とした教育相談コーディネーター担当者会および学校訪問による研修を年間を通して行い、各学校の実態に合った支援の在り方を実践的に研修した。
- ・支援の必要な児童生徒の把握と情報共有を教職員間で行うことができた。
- ・外部の専門機関との連携を深めることができた。
- ・教育相談コーディネーターを中心とした校内児童・生徒支援体制を活用し、組織的取り組みをすすめた。
- ・外部ネットワークづくりと教育相談・ケース会議の充実を図った。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

(1) 教育委員会の自己評価 [A]

コメント 個に対応した学習指導の充実を図ることができた

(2) 主な成果等

【基礎学力】

- ・県学習状況調査、全国学力・学習状況調査等共に市の分析結果を前者は9月に、後者は10月に生じた。学校が客観的データに基づいて子どもの実態を把握し、分析結果が生かされる指導が行えた。
- ・今年度も夏季休業中における補充学習の継続が各学校にて実施されたが、普通教室の

エアコン整備を全校にて22年度夏季休業中に設置することで、学習環境の改善が図れた。

【支援教育】

- ・特別支援教育充実事業において、校内支援体制の構築に向け、専門講師による年間14回の教育相談コーディネーター担当者会等及び各学校において（8校にて年間計36回）の学校の実態に合わせた研修を実施した。
- ・幼・保・小連携推進委員会における幼・保・小それぞれの授業・活動の参観、小学校・中学校教員による就学・進学前の児童観察、職員間での情報交換、指導主事による就学相談および教育研究所の教育相談などを通じて、小1プロブレムや中1ギャップ解消に向けて取り組んだ。

4 平成22年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

（1）基礎学力

- ・国の全国学力・学習状況調査が悉皆から抽出に変わり、県の学習状況調査も教科数の減・隔年実施と変化したことを受けて、本市では抽出校のみ参加とした。そこで、児童生徒の学力把握と指導の改善を各学校が日常的にきめ細かく行うよう指導していく。
- ・教職員の職務の合理化を図り、児童生徒に直接向き合う時間を確保する。

（2）読書

- ・小学校、中学校それぞれの実態に即して、読書活動の推進を行う。

→学校図書室蔵書貸し出し数の推移

（H21年度 小学校 年間平均26冊／人、中学校6冊／人

H20年度 小学校 年間平均27冊／人、中学校7冊／人

H19年度 小学校 年間平均24冊／人、中学校7冊／人）

（3）支援教育

- ・一人ひとりの教職員が共通理解を持ち、児童生徒・保護者に対し適切な対応が図れるためにも、校内支援体制やフロー図が有機的に機能できるように、人的配置や研修が必要である。
- ・小・中学校9年間の支援教育が一貫性を持ち、小学校入学時および中学校卒業時における接続期の機関連携を含めて、児童生徒・保護者が安心して学校生活を過ごすことができるよう個に応じた支援や予防的な関わりを目指し、子育て支援課をはじめとする関係機関との連携を含めた環境調整を行い問題の未然防止を図る。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈高木展郎 氏〉

「基礎学力定着のための個に応じた指導の充実」について、問題になってきているのがコミュニケーションの問題で、個と集団の関わりが問われています。集団をダウンサイズして一人ひとりを切り離して教育するというよりも、集団の中でどのように個を育てていくかということが重要です。その点で、「画一的な一斉授業ではなく、子ども一人ひとりにあった学びに配慮し、学びの質の向上を目指す」という目標はよいと思います。

「読解力向上の取り組みの推進」について、国が示している「読解力」とはPISA型読解力（リーディング・リテラシー）のことであり、新学習指導要領にはどの教科にも基本的に埋め込まれていますので、「読解力（リーディング・リテラシー）」を新学習指導要領との関係の中で考えていくことが必要です。特に、言語活動を取り入れた授業実践ということでは、これがPISA型読解力を育てることになります。小学校においては、平成22年12月までに文科省より「実践事例集」が出ますので、それを参考にすると良いと思います。

「読書活動の推進」については、地方交付税の中に「学校図書購入費」が組み込まれていますので、きちんと読書活動に充てる必要があります。活動についてはそれぞれの学校が工夫して行っていますが、読書については学校図書館の蔵書数が大きなポイントになります。

「支援教育の充実」については、教育的ニーズのある子どもが増えてきていることから、特別支援に関する教員の配置が必要になってきます。ある自治体では小学校1年生に特別加配して、「小1プロブレム」等に効果をあげていますので参考にするとよいと思います。教員免許を持っていない補助員でも効果が期待できます。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田貢 氏〉

逗子市教育委員会による教育総合プランが実施されて3年が経過し、各学校における子どもたちの学力向上に向けた取組も、実施当初よりは相当充実した中身なっています。評価については、学校によって捉え方の差違はありますが、概ねよい方向にあります。これも、目標達成に向けて、管理職を中心に教職員一人ひとりが全力で取り組んできた成果と言えます。ただ、目標自体相当高いレベルのものであり、一朝一夕には達成できません。

今後とも、評価の観点を明確にし、何が達成したのか、何に力を入れるのかを明確にし、継続的に検証と分析をする必要があります。

今回の改訂学習指導要領では、前回と同様「生きる力」の育成という理念を実現するために、より一層「確かな学力」の育成に重点を置いています。即ち、基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視した上で、思考力・判断力・表現力等を育み、「生きて働く学力」の形成を目標としています。子どもが「分かる・出来る喜び」を実感できるような学習活動を推進する必要があります。このことが子どもの学習意欲の増進、学習習慣の定着に繋がると言えます。

そのためには、各学校が目標に掲げている指導方法や指導形態はもとより、学習の個別化・個性化にも目を向ける必要があります。

また、各教科等における言語活動や体験活動の一層の充実を図る必要もあります。課題と評価を読む限り、言語活動への取組が必ずしも十分とは言えない感じがします。

各学校が捉える「基礎学力」とは何かを明確にし、子どもの学力保障に向けた更なる取組を期待するものです。

学校における読書活動の推進は、生の活字を通じて読解力を育てる上で重要です。教育委員会や学校の努力により、ボランティアの方も年々増え、活動内容も充実してきている感じがします。電子ブック等の普及により、活字離れ、書字力の低下等が指摘されている中、今後とも、ハード面とソフト面を整備し、更なる充実をと思います。

2 健やかな心と身体の育成

① 基本的な生活習慣の育成

【 目 標 】

社会の変化に伴い、地域のつながりが薄くなり、家族の暮らし方の変容が進む中、学校が子どもの教育に果たす役割は日増しに大きくなってきています。

子どもたちに規則正しい生活習慣を身に付けさせ、健全な規範意識を育て、学校という集団生活の場での基本的な生活習慣を育成するために、家庭・学校・地域が協力して子どもに関わる必要があります。

具体的には、「決められたルールや時間を守る」「目上の人に対する適切な言葉遣いができる」「人に親切にする」「公共物を大切に使う」など、どこでも・誰でもが子どもたちの行動に関心を向けるよう取り組みを進めてまいります。

1 各小中学校における平成 21 年度の取り組み目標

- | | |
|-------|--|
| 逗子小学校 | 学習にきちんと取り組む姿勢を育てる。 <ul style="list-style-type: none">・系統的な目標と手立てに基づき、全学年で取り組む。・家庭の協力を得るために、各家庭に「学習の約束」を作成し、配布する。 |
| 沼間小学校 | <ul style="list-style-type: none">・学校だより、保健だより、給食だよりを発行して、規則正しい生活習慣の大切さの啓発に努める。・かぐのみ幼稚園、沼間愛児園も含めた連携と研修会を開催する。 |
| 久木小学校 | ・「決められたルールや時間を守る」「公共物を大切に使う」などの学校という場での基本的な生活習慣について学校から発信し、保護者と連携を図りながら取り組む。 |
| 小坪小学校 | <ul style="list-style-type: none">・発達段階に応じた指導の工夫を図る。・言葉遣い全体について考えて、検討してみる。・言葉遣いについての指導の評価を行う。・行動目標に関する保護者・地域への広報を積極的に行う。・保護者、地域との双方向の取り組みを目指す。 |
| 池子小学校 | <ul style="list-style-type: none">・学級指導の中で基礎的な生活習慣習得の指導を行うと共に保健だより・給食だより等により学校から情報発信を行う。・学級懇談・個人面談等の機会を利用し、保護者との連携を深める。 |

- 逗子中学校
 - ・ 基本的な生活習慣についての地域連携・協働の実践
 - ・ 新標準服導入二年目

- 久木中学校
 - ・ 家庭、地域、学校がそれぞれの役割分担を決め活動をする。
 - ・ 授業規律の確立・集団生活のルールを守る等の基本的態度の育成を徹底する。
 - ・ 学年や分掌での組織的な取り組みや手立ての工夫をする。

- 沼間中学校
 - ・ 服装、食生活、時間、マナー面等、義務教育終了後、規範意識の高い社会人の育成を目指す。

2 各小中学校における平成 21 年度の評価と課題

- 逗子小学校

基本的な学習態度は学年や学級の取り組みにより、概ね達成したと評価した保護者は 83%、教職員は 95%であった。(自己評価・・・A)

- 沼間小学校

保護者との連携を意識的に進める。(懇談会の工夫、家庭訪問等を有効に活用した保護者とのコミュニケーションの充実)(自己評価・・・A)

- 久木小学校

児童指導支援部が中心となり児童への呼びかけを図るとともに、PTA運営委員会、学校だより等でも話題として取り上げ、地域、保護者、学校と連携を図りながら進めることができた。(自己評価・・・A)

- 小坪小学校

家庭の役割を積極的に提言したい。(自己評価・・・A)

- 池子小学校

食育への取り組みが進んだ。保護者との連携を密にし、生活習慣改善を行う。(自己評価・・・A)

- 逗子中学校

地域との協働により生徒の基本的な生活習慣について改善する。(自己評価・・・B)

- 久木中学校

生徒指導マニュアルの見直しを行い全職員の共通理解が必要(自己評価・・・A)

- 沼間中学校

生徒会、保護者、地域の方、職員で登校指導を行ったが、服装、マナー面の指導について徹底できなかった。(自己評価・・・B)

② 豊かな心を育む教育の充実

【 目 標 】

小・中学生のいじめや自殺等の問題が、大きく伝えられている現在、学校だけにとどまらず、社会や家庭生活において、人を思いやったり、相手の立場に立って考えたり、目上の人を敬い自分より小さい子を大切にする心を育てるとともに、規範意識や忍耐力や協調性などの社会性を身につけさせることは必要です。

「普通の子」といわれている子どもたちが、大きな問題をおこしたりする現代において、「豊かな人間性」を育むためには、学校・家庭・地域が一層連携を深め、子どもたちとの関わりを大切にするにより、集団生活を送る上でのルールやマナーを守る態度や、心の耐性などを育てていくことが、今まで以上に必要になってきています。

1 各小中学校における平成 21 年度の取り組み目標

- | | |
|-------|--|
| 逗子小学校 | 異年齢の関わり、あいさつなどの重点化
・逗子小子どもまつりの内容の充実
・全校でのあいさつを広げるため、学級や児童会で取り上げ行動する。 |
| 沼間小学校 | ・縦割り活動を通して異年齢交流を進める。
・家庭・沼間中学校と一体となった挨拶運動を推進する。
・中学校・地域と連携した奉仕活動の取り組む。 |
| 久木小学校 | ・学校行事・児童会行事を通して学校内における縦割り集団を活用し、異年齢交流を進める。
・学校行事・児童会行事を通して児童のよりよい人間関係づくりに取り組む。
・地域の教育力を活用して、地域・保護者・児童の交流を深める。 |
| 小坪小学校 | ・前年度の反省を生かしながら、今年度の具体的方法を考える。
・コミュニケーションを高めるための具体的な手だてについて実践する。
・行動目標に関する保護者・地域への広報を積極的に行う。
・保護者、地域との双方向の取り組みを目指す。
・児童一人ひとりのあいさつ運動の具現化に取り組む。 |
| 池子小学校 | ・20年度までの実践を踏まえ、より豊かな人間関係づくりを目指す取り組みを推進する。
・あいさつ運動を継続して積極的に行う。 |
| 逗子中学校 | ・道徳の時間の工夫 |

- ・家庭・地域との連携
- ・逗子中あいさつ一新運動
- ・人権学習実施

久木中学校

- ・学級活動・生徒会活動また、行事におけるブロック活動の充実をめざす。ブロック活動の定着化を図る。
- ・あいさつ運動の定着化を図る。
- ・ブロック活動の発展として、奉仕活動の充実を図る。

沼間中学校

- ・人権問題の課題を日常生活の中に見つけ、その解決に向けて行動できる力を生徒が身につけられるよう支援する。

2 各小中学校における平成21年度の評価と課題

逗子小学校

概ね達成したと評価した保護者は76%、教職員は55%であった。昨年より向上した。(自己評価・B)

沼間小学校

家庭・沼間中学校・地域での挨拶運動を定着させる。(自己評価・A)

久木小学校

昨年度に引き続き、地域教育力や外部教育力を活用し、地域・保護者・児童の関係の交流を深めることができた。(自己評価・A)

小坪小学校

保護者、地域への働きかけの継続(自己評価・A)

池子小学校

ふれあい活動の成果が見られた。よりよい人間関係づくりのため取り組みの充実を図る。(自己評価・A)

逗子中学校

地域講師による全校道徳を定期開催する。(自己評価・A)

久木中学校

教科と道徳の関連性を進める。体験学習に地域講師の活用を進める。(自己評価・A)

沼間中学校

1学年はCAP(子どもへの暴力防止)プログラムの実施。外部講師の全学年対象の人権講話も実施した。(自己評価・A)

③ 豊かな体験活動の推進

【 目 標 】

近年、少子化や地域社会における人間関係の希薄化などが進む中で、子どもたちの豊かな成長に欠かすことのできない多くの人々との出会いや社会・自然・芸術などと直接触れ合う様々な体験が乏しくなっています。その一方で、家庭に居ながらにして様々な情報を手に入れることができ、またシミュレーションも体験できる高度な情報化が進み、間接体験・疑似体験が増えてきました。

体験活動は文字どおり、自分の身体・五感を通して実際に経験する活動のことです。子どもたちが、学校・家庭・地域社会を含めた生活空間の中で、豊かな体験することが必要です。

また、子どもたちが自分自身の体験の中から課題を見つけ、その課題解決に向けて自主的に取り組んでいけるよう、多様な体験活動の充実を図ることが大切であると考えています。

1 各小中学校における平成 21 年度の取り組み目標

- | | |
|-------|---|
| 逗子小学校 | <ul style="list-style-type: none">・系統性のある体験学習を研究する。事前学習→体験→事後学習を通して価値づけや意味づけを明確にする。活動の成果や結果について話し合いや発表を通して体験を共有しあう。 |
| 沼間小学校 | <ul style="list-style-type: none">・地域行事に直接・間接参加することにより奉仕活動に取り組む。・校内において芸術鑑賞会を開催する。・沼小祭りを通して地域の伝承遊びを知る。・学校支援地域本部を立ち上げる。 |
| 久木小学校 | <ul style="list-style-type: none">・様々な人々との交流場面を設定し、場面に応じた対応などについて学習する場や機会の一層の充実を図る。 |
| 小坪小学校 | <ul style="list-style-type: none">・小坪の自然・人等地域とのふれあい活動の充実を図る。・全校での取り組みの精選を図る。・ふれあい活動を系統立てて整理する。 |
| 池子小学校 | <ul style="list-style-type: none">・20年度までの実践を踏まえ、豊かな体験活動を推進する。 |
| 逗子中学校 | <ul style="list-style-type: none">・自然体験活動の見直し、福祉体験活動の見直し、職場体験活動の見直し交流体験活動の見直し、防災体験活動の見直し |
| 久木中学校 | <ul style="list-style-type: none">・課題を分析し、計画の定着を図る。 |

- ・環境学習＝1年、福祉学習・職業体験学習＝2年、保育士体験＝3年、ボランティア活動、ディベート大会等への積極的な参加を図る。
- ・青少年指導員や地域の団体との連携体制づくりをする。

- 沼間中学校
- ・1年生は、環境教育を年間指導の柱とし逗子海岸での清掃活動等を実施する。
 - ・2年生では、自然体験学習（1泊）において、環境教育に関わる取り組みを計画・実践する。

2 各小中学校における平成21年度の評価と課題

逗子小学校 体験学習の教職員評価は87%の達成率であった。発表等の表現力を身につける指導の充実が必要である。(自己評価・A)

沼間小学校 学校支援地域本部を立ち上げ、地域、保護者、子どもたちを巻きこみ豊かな体験活動を進める。(自己評価・A)

久木小学校 地域の人々をはじめとし、様々な体験をすることができた。また、多くの交流場を設定できた。今年度は計画的・継続的に交流を増やし、充実を図ることができた。(自己評価・A)

小坪小学校 地域行事への積極的な参加をすすめる。(自己評価・A)

池子小学校 文科省の芸術家派遣事業等も生かし、体験活動の充実に取り組めた。一層の充実を目指す。(自己評価・A)

逗子中学校 新教育課程実施に伴う体験活動を見直す。(自己評価・B)

久木中学校 地域との連携による体験的学習を推進する。(保育士体験、ディベート大会、職業体験、避難所訓練等) (自己評価・A)

沼間中学校 2学年対象の自然体験学習（1泊）、職業体験学習（1日）を実施したが、職業体験学習の期間については受け入れ先及び学校事情等が許せば2日間が望ましい。(自己評価・A)

④ 健康教育の推進

【 目 標 】

児童・生徒に培いたい『生きる力』には、学力をつけること・豊かな人間性を養うこと・たくましく生きるための健康や体力を育成することが大切とされています。

近年の子どもを取り巻く社会状況の変化に伴い、基本的な生活習慣の問題・心の健康の問題・食習慣の問題・飲酒や喫煙、薬物乱用などの問題・性に関する情報の氾濫・運動能力の低下など、様々な健康に関する課題が一般社会には生じています。

もちろん、健康の問題は食生活にしても生活習慣にしても、それぞれの家庭が中心となって取り組むべきことですが、今や学校でも機会と場面をとらえ、家庭や地域と連携して推進することが必要です。

未来をになう子どもたちが、これからの社会を生きぬくために、心身の健康に十分配慮した健康教育を進めます。

1 各小中学校における平成 21 年度の取り組み目標

- | | |
|-------|---|
| 逗子小学校 | 遊びや体育での安全指導を徹底する。
・遊びのルールや決まりの作成や児童会での取り組みなど全校で事故を防ぐ機運を醸成する。 |
| 沼間小学校 | ・保護者との連携を図り、性教育、健康教育を推進する。
・学校給食の充実と個に応じた給食の充実に努める。
・食育全体計画を作成する。 |
| 久木小学校 | ・健康の維持増進に向け、基本的な生活習慣の育成や発達段階に応じた健康教育を行う。
・食教育、健康教育などを推進していく。
・食教育の全体計画作成を進めたい。 |
| 小坪小学校 | ・小坪小学校としての健康教育の実践計画をもとに保護者と共に活動を推進する。
・小坪小学校としての食教育の実践計画をもとに保護者と共に活動を推進する。
・ホームページにて「おいしい給食」コーナーを設け広報と啓発を図る。
・内容の工夫改善を図る |

- 池子小学校
 - ・具体的な課題を持って健康教育の推進を図る。
 - ・食育の充実を目指した指導計画を作成する。

- 逗子中学校
 - ・食育全体計画の実施
 - ・イキイキスクールの推進
 - ・体力づくり運動の実施
 - ・救命・救急法講習会実施

- 久木中学校
 - ・指導計画の実施および定着化を図る。
 - ・地域講師による健康教育・安全教育の定着化を図る。（喫煙防止・薬物乱用防止・エイズ教育・不審者対策）
 - ・地域講師を活用した性教育・食育指導の推進をする。
 - ・食育委員会の設置

- 沼間中学校
 - ・健康教育全体計画にしたがって、体系的に実践する。

2 各小中学校における平成21年度の評価と課題

- 逗子小学校

けがの防止については児童会や学級活動で取り組み、昨年度より半減してきた。（自己評価・・・B）

- 沼間小学校

子ども向けアンケートを活用して子どもたちの状況把握を適切に行う。（自己評価・・・A）

- 久木小学校

基本的な生活習慣の育成については、年間を通して実践できるよう保健安全給食部や児童指導支援部より目標を出したり、PTA運営委員会で取り上げたりして内容の充実を図った。（自己評価・・・A）

- 小坪小学校

食育を今後も積極的に推進していく。（自己評価・・・A）

- 池子小学校

21年度、食育の充実に向けた取り組みが大きく進んだ。この成果を生かし、全体計画を基に実践を進める。（自己評価・・・S）

- 逗子中学校

食育全体計画による食育指導の実施、救命救急法講習会の実施
（自己評価・・・B）

- 久木中学校

食育委員会を設置し外部団体と連携のもと食育全体計画を作成・活用外部講師を招いての健康教育の推進と充実（自己評価・・・A）

- 沼間中学校

今年度も食育で地域の方を招いて調理実習を行った。さらに充実を図りたい。
（自己評価・・・B）

〈教育委員会分析結果〉

1 平成21年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

- 就学時健康診断業務委託
- 児童健康管理事業(小学校)
- 生徒健康管理事業(中学校)
- 自然教室推進事業
- 学校教育支援ボランティア事業(411人)
- 学校支援地域本部事業
- 特色ある学校づくり事業
- 芸術鑑賞推進事業
- 学校体育振興事業

(2) 主な指導内容

- ▲食育に関する教育全体計画作成
- ▲健康教育に係る各種研修会の実施
- ▲学校支援地域本部実行委員会の開催

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

(1) 市立全校の実践評価 [A]

(2) 主な成果等

【基本的な生活習慣】

・家庭との連携を図ることにより一定の成果が見られた。今後とも、生活習慣改善のための努力を続ける必要がある。

【豊かな心を育む】

- ・挨拶運動が児童生徒へ定着してきた。
- ・地域と一体となった取り組みが定着してきた。
- ・異学年集団とのふれあい活動が活性化してきている。

【豊かな体験活動】

・小学校・中学校全校で友だち同士の共同生活を通して自然にふれあうことをねらいとした自然体験学習を実施した(1泊5校、2泊が3校)。

【健康教育】

・喫煙防止、薬物乱用防止等について、講演会等の取り組みが定着した。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

(1) 教育委員会の自己評価〔A〕

コメント 水準まで進めることはできたが、この項目は、期待されている内容を多く含むため課題も多く、今後、家庭・地域との一層の連携が必要である。

(2) 主な成果等

【基本的な生活習慣】

- ・家庭と連携して、9年間を見通した習慣づけを進める必要がある。

【豊かな体験活動】

- ・学年ごとに行われる体験学習のねらい、時期の見直しを図り、全体計画を再構築する。

4 平成22年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

豊かな心・体験活動・健康教育

- ・道徳の時間、体験活動及び健康教育において、これまで以上に地域の人材を活用するよう支援していくため、学校支援地域本部事業の活性化を図る。
- ・平成21年度に悉皆で実施した「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」の結果を分析し、本市の児童生徒の体力に係る特徴と対策を指導する。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈高木展郎 氏〉

各小中学校における評価と課題を見ると、学校の自己評価が低め（教員が自分たちに対して厳しい評価）になっています。最近はやっとメディアの学校に対する見方が緩めになり、保護者の評価も高めになっている傾向があります。

生活習慣や心の育成につきましては、どの学校も保護者や地域との協働によく取り組んでいる様子が伺えます。保護者や地域との協働については、学校から積極的に働きかけることはもちろん大事なことです。学校の状況とくに教師の活動の実態をよく知ってもらうことも重要と考えます。

食育に関して、「食育に関する全体計画作成」について教育委員会が指導を行い、各学校においてよく取り組んでいると思います。

健やかな心と身体の育成には、家庭、地域と学校との連携が不可欠です。引き続き、地域全体で子どもたちを育てることについて、学校支援地域本部事業などの組織的な対応に期待したいです。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田貢 氏〉

健やかな心と身体の育成は、「生きる力」を育む上で重要な柱です。子どもたちの学ぶ意欲や規範意識の低下、社会性の不足などが指摘される今日、学校の役割は大変重要になっています。各学校とも具体的な目標を掲げ、全教育活動の中で様々な取組を展開し、評価も概ねよいと言えます。

基本的な生活習慣や心の育成は、学校、家庭、地域社会それぞれが役割を担いながら取り組むことが基本ですが、子どもを取り巻く環境が多様化し、地域や家庭の教育力の低下等が指摘される中、学校の役割はますます重要となります。幼・保・小・中学校が連携を図りながら、子どもの発達段階に応じて何を身に付けさせるか、何が育てばよいかなどの具体目標を掲げ、家庭や地域の教育力を活用しながら、全教育活動を通して、発達段階に応じて系統的・継続的に指導していくことが大切です。

なお、課題と評価に、「子どもの育ちの状況」が明記されると学校の取組の成果がより明確になるかと考えます。

健康教育については、小学校が食育教育を中心に展開し、中学校は安全教育、食育教育に力点をおいて指導にあたり、評価も妥当と言えます。

今後は、小・中学校ともに、食育教育のみならず、喫煙防止教育、薬物乱用防止教育、性教育、体力づくり、危機管理能力の育成等に力点をおいた指導も必要です。また、心の健康についても、心身のアンバランスが顕著になる小学校中学年以降、関係諸機関等との連携の下、適切な指導に努めて下さい。また、こどもの体力の低下が指摘されている今日、食育教育と関連させた体力づくりの指導にも努める必要があります。学校の実情に応じた指導が必要です。

雇用状況の悪化や収入減により、共働きの家庭が増えてきており、保護者のこどもに係わる時間や教育にかかる費用に差異が生じてきている今日、学校の子どもや保護者に対するフォローが増してきています。何よりも、こどもにとって「楽しい学校」「安心できる学校」であるよう、更なる努力が必要かと思えます。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

<目 標>

学校は今、様々な教育課題への対応を求められており、本市では迅速で的確な対応を目指します。また、教育は学校のみで完結するものではなく登下校の安全面なども含め、家庭・地域と連携し、協働参画を進めることによってさらに充実を図ります。

1 多様な教育的課題への対応

① 子どもの安全と安心の確保の推進

【 目 標 】

学校内のみならず、登下校時等いかなる時も、児童・生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、安全対策に努めることが急務とされています。

また、子どもたち一人ひとりが落ち着いて学習活動に取り組むことができるよう環境整備に努め、また、温かい人間関係の中でお互いに相手を尊重しあえる学校・学級経営に努める必要があります。

さらに子どもたちが自らの力で危険を回避することができるよう、その技術や能力の育成を進めることにも取り組みを進めます。

1 各小中学校における平成 21 年度の取り組み目標

- | | |
|-------|---|
| 逗子小学校 | 学校支援地域本部事業に取り組む。 <ul style="list-style-type: none">・1・3年生の交通安全体験学習に取り組む。・全校での不審者対応訓練を実施する。・学校支援地域本部を立ち上げ取り組む。 |
| 沼間小学校 | <ul style="list-style-type: none">・CAP（子どもへの暴力防止）プログラムによる防犯教室の実施・民間警備会社による防犯教室の実施・保護者による通学路の点検・町内会・自治会等による通学路パトロールの実施のための啓発活動・校舎内外の安全点検を実施・町内会・自治会との連携を図る。 |
| 久木小学校 | <ul style="list-style-type: none">・子どもの安全確保のための研修会、防犯訓練等を行い児童、教職員の意識 |

を高める。

- ・地域のパトロール体制に協力する。
- ・児童参加型の不審者対応訓練の実施
- ・地域と連携した防災計画を検討する。

- 小坪小学校
- ・年7回の訓練等を実施し、児童が安全に避難できるようにする。
 - ・訓練内容の工夫改善を図りながら継続的に取り組む。
 - ・マニュアルの徹底を目指す訓練を実施する。
 - ・マニュアルの見直しを行い、実質的なマニュアルを作成する。
 - ・地域の安全マップを利用して、児童自身に危険を回避する力をつける。
 - ・メール配信システムを活用する。

- 池子小学校
- ・防犯教室・不審者対応訓練を行い、児童・教職員の防犯意識を高める。
 - ・交通安全教室・自転車教室を行い、児童・教職員の安全意識を高める。
 - ・保護者・地域と連携し、児童の安全確保に取り組む。

- 逗子中学校
- ・防犯と不審者対策の強化
 - ・CAP（子どもへの暴力防止）プログラムの実施
 - ・地域防災への参画・訓練
 - ・校外防災体験学習の実施
 - ・登下校指導（逗子高と連携）の発展
 - ・安全点検日の充実

- 久木中学校
- ・安全管理マニュアルを活用する。
 - ・授業中、休み時間等校舎巡回をする。
 - ・家庭、地域、関係機関との連携を強化する。
 - ・事故防止研修会を開催する。
 - ・緊急時の対応マニュアルを生徒・職員への周知を図る。

- 沼間中学校
- ・生徒も参加する月末の「安全点検」のより効果的な方法を検討する。

2 各小中学校における平成21年度の評価と課題

逗子小学校 これまでの安全教室の取り組みは進められた。地域本部事業は、継続的・計画的な取り組みが必要である。（自己評価・B）

沼間小学校 学年や発達段階に応じた安全指導を推進する。（自己評価・A）

久木小学校 教師も子ども達も自分の命は自分で守れるように危機回避の方法を知るこ

とができた。今年度は教職員の防犯、防災訓練により、不備な点を整備・改善を図ることができた。(自己評価・・・A)

小坪小学校 メール配信システムの推進。(自己評価・・・S)

池子小学校 今年度進められた不審者対応訓練・サイバー犯罪防止研修・ケイタイ教室等を継続して行い、安全への意識を高める。(自己評価・・・S)

逗子中学校 地域防災行事への参加体制の確立。(自己評価・・・A)

久木中学校 安全教育や防犯教育に積極的に取り組んでいく。市との連携を密とした学校防災計画の見直しが必要。(自己評価・・・A)

沼間中学校 学校の安全確保のため安全点検は不可欠なので、複数職員で点検する日を年間3回実施した。今年度は生徒参加の安全点検までは実施できなかった。
(自己評価・・・B)

② いじめ・不登校への対応の推進

【 目 標 】

いじめや不登校はどの子にもどの学校にも起こり得るものであることを十分認識し、地域・保護者とともにもその未然防止や早期発見・早期対応への取り組みが、今各学校において求められています。

いじめについては「いじめは許されない、いじめる側が悪い」ということを明らかにして、子どもの立場に立った親身の指導を行い、適切な対応を毅然とした態度で行き渡らせる必要があります。

不登校児童・生徒に対しても一人ひとりの教育的ニーズを把握し、学校を中心とした総合的な支援体制の構築が望まれています。

支援を必要としている子どもたちに応えるために、学校では子どもたちの心の問題に迅速に対応できるよう相談体制を充実させるとともに、校内の支援体制の充実と外部の専門機関との連携を図り、協働することが大切です。

1 各小中学校における平成21年度の取り組み目標

- | | |
|-------|---|
| 逗子小学校 | 差別やいじめを許さない学級づくりを進める。 <ul style="list-style-type: none">・児童との信頼関係を強める学級経営に努める。・いじめの早期発見早期解決を組織的に行う。・保護者と連携した取り組みをすすめる。 |
| 沼間小学校 | <ul style="list-style-type: none">・保護者の支援ニーズに対する共通理解を図るための研修会を実施する。・中学校及び専門機関との連携を深めるための研修会を実施する。 |
| 久木小学校 | <ul style="list-style-type: none">・児童指導・支援部を中心とし、個別支援に対応できる体制を整備する。・保護者・他機関との連携を充実させる。・児童の日常の言動を良く観察し、理解を図ると共に、意図的に授業や学級指導に組み入れる。・教育相談コーディネーターを中心とした支援の充実を図る。 |
| 小坪小学校 | <ul style="list-style-type: none">・「いじめチェックリスト」の項目の見直しを検討する。・言葉遣い全体についても考えさせる。・言葉についての指導とその評価を行う。・コミュニケーション力の向上が図られているか検証の在り方を検討し、総括する。・より実効的な取り組みができるように組織図の見直しを図り、改善する。 |

- 池子小学校
 - ・校内児童指導支援体制の充実を図る。
 - ・幼保小中の連携を深め、一貫した視点で児童の指導に当たれるよう情報交換を密にする。
- 逗子中学校
 - ・人権学習
 - ・不登校の予防と早期対応
 - ・行事を利用した人間関係づくり
- 久木中学校
 - ・マニュアルを活用し、迅速に対処する。
 - ・アンケートや個人ノートを活用し、生徒理解を図る。
 - ・全教育活動を通しての人間尊重教育の推進を図る。
 - ・スクールカウンセラー、心の教室相談員、外部機関との連携を図り活用する。
- 沼間中学校
 - ・生徒が学級活動の中で互いに支援し合えるような学級集団を実現する。
 - ・教育相談を必要とする生徒への支援体制の充実を図る。

2 各小中学校における平成21年度の評価と課題

- 逗子小学校

いじめ等の取り組みは各学級で学級指導や各教科の中でも取り上げて指導したが、計画的な人権教育という観点では不十分であった。(自己評価・・・A)
- 沼間小学校

児童理解の充実と問題への迅速な対応をさらに進めていく。(自己評価・・・A)
- 久木小学校

教育相談コーディネーターを中心とした支援体制づくりを進めることができた。(自己評価・・・A)
- 小坪小学校

組織的対応のいっそうの改善と引き継ぎ (自己評価・・・S)
- 池子小学校

今年度、長期欠席ゼロの成果を踏まえ、児童指導支援体制の一層の充実を図る。(自己評価・・・S)
- 逗子中学校

不登校生徒や保護者に手厚く接する。(自己評価・・・A)
- 久木中学校

生徒の規範意識を高め、学校全体でいじめを許さない姿勢で挑む。教育相談コーディネーターを中心に組織的指導体制の確立が必要。(自己評価・・・A)
- 沼間中学校

人権教育の実施、支援員会での支援が必要な生徒の把握、全職員の情報の共有、校内研修等で職員間の共通理解は深まった。(自己評価・・・A)

③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進

【 目 標 】

幼稚園・保育園から小学校に入学した子どもたちが、新しい環境になじめなかったり、授業中に立ち歩いたり騒いだりする問題を「小1プロブレム」といいます。

同様に、中学に入学した際に生じる問題を「中1ギャップ」といい、近年大きな問題となってきました。

これらの問題を解決し、子どもたちが希望に満ちた学校生活が送れるよう支援していく必要があります。

これらの問題を解決するため、幼稚園・保育園・小学校の連携、さらに小学校と中学校の連携を図り、子どもや保護者が、学びや生活が連続していると安心できるよう、相互の教育活動を理解し、協力していくことが大切です。

1 各小中学校における平成21年度の取り組み目標

- | | |
|-------|--|
| 逗子小学校 | 保育園や幼稚園との連携を充実する。 <ul style="list-style-type: none">・園と児童や職員の交流を進める。・支援シートを活用した連携を進める。・担当者及び教頭を中心として中学校との具体的な連携を進める。 |
| 沼間小学校 | <ul style="list-style-type: none">・小・中の授業交流を実施する。・沼間愛児園、かぐのみ幼稚園の園児との交流の機会を設ける。・沼間愛児園、かぐのみ幼稚園、沼間小・中との指導上必要な情報共有と連携に努める。 |
| 久木小学校 | <ul style="list-style-type: none">・幼・保・中と連携し支援教育の推進を図る。・就学前の教育・小学校教育の相互理解を図る。 |
| 小坪小学校 | <ul style="list-style-type: none">・課題解決に向けた教育課程の授業・工夫といった取り組みをする。・教育課程上の関係を検討する。・キャリア教育の充実を図る。・キャリア教育に関する単元開発を行う。 |
| 池子小学校 | <ul style="list-style-type: none">・小中の効果的連携を考え、教職員の交流やカリキュラムの工夫・改善を検討する。・小中連携担当者会の活動充実を図り、連携を具体化する。 |
| 逗子中学校 | <ul style="list-style-type: none">・出前授業の拡大 |

- ・学区内の小中教職員の交流
- ・小中連携担当者会の継続開催
- ・中高連携担当者会の定期開催
- ・部活交流の計画・実践（中高）

- 久木中学校
- ・幼・保・小・中との連携推進をめざし、課題に取り組む。
 - ・引継ぎ支援シートの活用をする。
 - ・各行事や教科における交流を積極的に図る。
（保育士体験・合唱発表・運動会・英語・保体）
 - ・支援シートに取り扱いについて小中の連携と深め、合同の支援会議ができるようにする。
 - ・指導要領の改訂を踏まえて、教科等での連携を図る。
- 沼間中学校
- ・教科毎に連絡会をもち、小中一貫カリキュラムの在り方を模索する。

2 各小中学校における平成21年度の評価と課題

- 逗子小学校
- 年度当初に計画し、園との連携により進めてきた。支援シートを活用した対応の情報交換が必要である。（自己評価・・・A）
- 沼間小学校
- 幼・保・小・中の連携では引き継ぎに関わる連携だけでなく、その後の育ち等について交流場面があるとよい。（自己評価・・・A）
- 久木小学校
- 年度末の情報交換を次年度の学級編成にいかすことができた。また、授業参観や授業交流を積極的に行い、教師間の連携を図れた。（自己評価・・・A）
- 小坪小学校
- キャリア教育の計画作成の取り組みが必要。（自己評価・・・A）
- 池子小学校
- 小中の教職員の交流や授業・行事を通じた交流を進める。（自己評価・・・A）
- 逗子中学校
- 小学校への出前授業を深化させる。連携担当者会を定期的で開催する。部活動の交流の実施（自己評価・・・S）
- 久木中学校
- 義務教育9年間での継続的なカリキュラムの工夫、授業交流などの計画的推進を進める。（自己評価・・・A）
- 沼間中学校
- 沼間小学校小中連携で小学校に出向いて授業を実施した。小中連携の充実（自己評価・・・A）

④ 国際理解教育の推進

【 目 標 】

今日、わが国では様々な面で異文化との接触や国際化が進展し、国際社会に生きる日本人としての資質の向上が重要な課題となっています。

子どもたちは、日本という枠を飛び出して国際的な舞台で活躍している日本人がたくさんいることを知っています。

これからの国際理解教育は、異文化や外国の生活様式の理解等にとどまらず、多文化との共生に向けて、国際社会で生きる力としてはたらく資質や能力を育てることが必要であると考えています。

自分たちが生活している日本と日本以外の国々の現状について自分たちの思いや考えが、子どもたち自ら発信され、伝えられるよう、英語によるコミュニケーション能力の向上に努めます。

*本文中「IEA」は「国際教育指導助手」の略。

1 各小中学校における平成21年度の取り組み目標

- | | |
|-------|--|
| 逗子小学校 | 指導要領本格実施に向け、研究を充実する。 <ul style="list-style-type: none">・英語活動中核教員を中心に実践研究を進める。・英語活動の評価と指導の検討を進める。・中学校英語教員や外部指導者も活用し、英語活動の年間計画を整備する。 |
| 沼間小学校 | <ul style="list-style-type: none">・英語活動の授業を実施・異文化理解・他文化共生のために体験入学者や地域の教育力を活用する。 |
| 久木小学校 | <ul style="list-style-type: none">・担任が中心となり、IEAや英語ボランティアを活かした英語による異文化理解とコミュニケーション能力の育成を図る。・外国語教育の県指定研究を推進する。 |
| 小坪小学校 | <ul style="list-style-type: none">・総合的な学習の中に位置づけ、IEAを活用し英語活動を中心とした国際教育を行う。・英語活動の全体計画の作成に取り組む。・年間指導計画を作成する。 |
| 池子小学校 | <ul style="list-style-type: none">・国際理解教育の年間指導計画作成を行い、実践化する。・指導要領移行期間の英語活動充実に取り組む。 |

- 逗子中学校
 - ・ I E A、地域講師による計画的な授業
 - ・ 異文化理解・教材開発

- 久木中学校
 - ・ 年間指導計画の推進を図る。
 - ・ I E Aを活用しての、少人数英会話授業の充実を図る。
 - ・ ゲストティーチャーによる異文化体験授業を実施する。
 - ・ 国際交流センターの利用した異文化体験学習を計画する。

- 沼間中学校
 - ・ 地域講師（海外在留経験者又は日本に留学生として来られている方々等）を迎えての授業実践をカリキュラムの中に位置づける。

2 各小中学校における平成 21 年度の評価と課題

- 逗子小学校

中核教諭を中心に年間研修時間を確保した。英語活動の内容や方法を検討し、指導計画の内容について一定程度の成果があった。(自己評価・A)

- 沼間小学校

国際理解教育の視点を持って外国語活動を充実させていく。(自己評価・A)

- 久木小学校

校内研究や外部講師を招いての学習会を行い外国語活動の捉え方について共通理解を図ることができた。また、国際理解教育支援員を積極的に活用し異文化理解やコミュニケーション能力の充実を図った。(自己評価・A)

- 小坪小学校

23年度に向け年間計画を完成する。(自己評価・A)

- 池子小学校

授業実践を一層進め、新指導要領本格実施に向け、取り組みを進める。
(自己評価・A)

- 逗子中学校

I E Aによる教材作成をおこなった授業 (自己評価・A)

- 久木中学校

I E A講師の様々な教育活動での積極的な活用を行う。
学習において外国人留学生や団体との積極的な交流を行う。(自己評価・A)

- 沼間中学校

今年度は特に海外在留経験者等の講師を迎えての授業は実施できなかった。
来年度は実施したい。(自己評価・B)

⑤ キャリア教育の推進

【 目 標 】

ニートやフリーターが増加する中、文部科学省が打ち出したキャリア教育に関する方針を踏まえ、逗子市でも児童生徒それぞれの発達段階に応じて、学校・家庭・地域などが協働してキャリア教育に取り組んでいきます。

キャリア教育は職業学習だけでなく、将来を見据えた「生き方の教育」であり、子どもの発達に応じたさまざまな生き方の学習に取り組んでいきます。

小学校では保護者の仕事や小さかったころの夢などを聞いたりして、子ども自身が、自分の未来についてビジョンを描くこともその中に含まれています。

中学校では、すでに地域・保護者による講師を活用した授業、さらに地域での職業体験の実施などに取り組んでいます。

1 各小中学校における平成21年度の取り組み目標

- | | |
|-------|---|
| 逗子小学校 | 地域の教育力を活用した実践研究の実施
・資料等を積極的に配布しその意義を周知する。
・全体計画を作成し、関連する教科で試行する。 |
| 沼間小学校 | ・子どもによる沼小祭りにおけるショップ出店を増やしたり職業体験をさせ、さらに取り組みを発展させる。
・「能力・態度」の育成を軸とした学習プログラムの再検討に努める。
・勤労生産・奉仕の活動の充実を図る。 |
| 久木小学校 | ・子どもの発達段階に応じて、将来の生き方についての学習計画をより充実させる。 |
| 小坪小学校 | ・キャリア教育の視点で単元開発を行う。
・単元を授業実践していく。
・地域の人材を生かしながら、生き方の指導を行う。 |
| 池子小学校 | ・児童の発達段階に応じたキャリア教育の視点を教科、総合的な学習の内容に入れながら実践する。
・キャリア教育に関わる研修等に参加し、理解を深める。 |
| 逗子中学校 | ・地域講師による計画的な授業 |

- ・職場体験活動地域の拡大
- ・自己理解・職業学習
- ・進路選択・決定

久木中学校

- ・進路学習の計画的実施と指導内容の充実を図る。
- ・地域講師の活用を意図的計画的に行う。
- ・職業・進路講演会の充実を図る。
- ・職業体験日数の検討をする。
- ・職業体験学習の時期の検討を始めていく。

沼間中学校

- ・職業体験学習では内容の充実を図ることと生徒に日程及び内容の選択を広げる。

2 各小中学校における平成 21 年度の評価と課題

逗子小学校

担当部が職員会議で取り組みの必要性や具体的な取り組みを資料を基にして職員に周知した。(自己評価・B)

沼間小学校

キャリア教育の共通理解を図るために、キャリア教育の研修を進める。(自己評価・B)

久木小学校

清掃等の当番活動、委員会活動の活性化を図ると共に、学年では子ども達の発達段階に応じた内容の将来の生き方についての話を進めた。(自己評価・A)

小坪小学校

教員にキャリア教育の実施を意識させる。(自己評価・A)

池子小学校

キャリア教育の視点を学習内容に取り入れた実践を行う。(自己評価・B)

逗子中学校

キャリア教育のプログラム化をおこない、実施する。(自己評価・S)

久木中学校

「生き方の学習」について3年間を見通した指導計画が必要。(自己評価・A)

沼間中学校

新型インフルエンザ及び学級閉鎖による授業時数確保のため、職業体験を今年度は、1日で実施した。次年度以降2日日程で実施したい。(自己評価・B)

⑥ 福祉教育の推進

【 目 標 】

私たちの周りには、障がいを持つ人や高齢の方々が多く、ともすると福祉とはそのような方々のために何かをすることと子どもたちはとらえがちです。しかし、福祉は特別な人の、誰かのためのものということではなく、一人ひとりの

「 だんの らしの あわせ 」

を願うものという観点で福祉教育を進める必要があります。年齢の違い、障がいの有無にかかわらず、お互いに相手の立場を思いやり、声をかけ合える温かい人間関係をつくり、心を育てる教育を進め、住みやすい社会をつくる担い手を育成していくことが大切です。

1 各小中学校における平成 21 年度の取り組み目標

- | | |
|-------|--|
| 逗子小学校 | 全体計画・指導計画に基づき実践する。 <ul style="list-style-type: none">・低学年では福祉に関わる読書を進める。・3年生以上は総合的な学習において取り扱う。・地域との関わりを大切に福祉活動を実施する。 |
| 沼間小学校 | <ul style="list-style-type: none">・人権教育を推進するために、社会福祉協議会の協力を得て、体験活動を進める。・総合学習の時間等を活用して福祉教育を推進し、充実させる。 |
| 久木小学校 | <ul style="list-style-type: none">・人権・福祉に関する取り組みについて見直し、さらに子ども達の生活に根ざした福祉教育を検討し開発していく。・地域講師活用の推進を図る |
| 小坪小学校 | <ul style="list-style-type: none">・小坪の自然・社会・人的環境を生かして、学年に応じた取り組みを行う。・全体計画作成に取り組む。 |
| 池子小学校 | <ul style="list-style-type: none">・学校支援ボランティアの積極的活用を進め、福祉教育の充実を図る。 |
| 逗子中学校 | <ul style="list-style-type: none">・福祉体験学習の充実（小学校との連携）・福祉作文・人権作文・福祉施設との交流 |
| 久木中学校 | <ul style="list-style-type: none">・福祉に対する理解と関心を高める学習会を開催し意識の向上を図る。・福祉体験学習の充実を図る。 |

- ・コーディネーターを活用する。
- ・実施学年や本校としての狙いなどを明確にした教育課程の編成をする。

沼間中学校 ・全校の発表の場を設け、福祉体験を共有していく。

2 各小中学校における平成21年度の評価と課題

逗子小学校 福祉学習は学校・学年のねらいを明確にして取り組み、本校の進め方について共通理解を図った。(自己評価・・・A)

沼間小学校 総合学習の時間等を活用して福祉教育を推進し、教育課程を充実させる。(自己評価・・・A)

久木小学校 子ども達の発達段階に応じた福祉教育や人権教育に計画的な学習が行えるよう、関係諸機関との連携や協力を仰ぎ内容の充実を図った。(自己評価・・・A)

小坪小学校 取り組みの記録を充実させ、継続を図る。(自己評価・・・A)

池子小学校 学校支援地域本部事業の活性化を図り、ボランティアの活用を一層進める。(自己評価・・・A)

逗子中学校 福祉体験学習と総合的学習の時間のリンクをはかる。(自己評価・・・A)

久木中学校 教育活動全体において計画的な福祉教育や人権教育を進める。地域と連携した体験学習を通じて、人を思いやる心、温かい人間関係を築く心を育てる。(自己評価・・・A)

沼間中学校 今年度の福祉体験学習は個人選択で夏休みに実施 (自己評価・・・B)

⑦ 環境教育の推進

【 目 標 】

逗子市では、今日、世界的に大きな課題となっている環境に関する諸問題の解決に向けて、逗子市環境基本計画がつくられています。

逗子市立の小・中学校においても、一人の市民である子どもたちの明るい未来のために、身近な環境について自ら考え取り組んで行こうとする態度を育て、子どもたちが自然に環境にやさしい行動が取れるようになることを目指して環境教育に取り組んでいきます。

環境教育の取り組みは、子どもたちだけの活動にとどまらず、各家庭・各地域へと広がっていくことを目指しています。地域・保護者の方も、機会を見つけて小・中学生とともに活動できるような取り組みを進めます。

1 各小中学校における平成 21 年度の取り組み目標

- | | |
|-------|--|
| 逗子小学校 | 新たな目標を設定し、全校を挙げて取り組む。 <ul style="list-style-type: none">・ 全学年で環境保護の大切さを取り上げた学習や活動を行う。・ 児童会活動（環境委員会）でも取り組む。・ 3年生以上は総合的な学習で取り扱う。 |
| 沼間小学校 | <ul style="list-style-type: none">・ 環境教育を推進するために、学年に応じた体験活動を進める。・ 田んぼ、ビオトープの維持管理をする。・ 「特色ある学校づくり」の市委託を受け、実践していく。 |
| 久木小学校 | <ul style="list-style-type: none">・ 環境教育の年間計画を作成する。・ 小中学校担当者による情報交換・ マイアジェンダの登録 |
| 小坪小学校 | <ul style="list-style-type: none">・ 整理して実践事例を資料に残していく。 |
| 池子小学校 | <ul style="list-style-type: none">・ 課題に基づき環境教育を進めると共にその成果を地域に発信する活動を検討する。・ 逗子市の施策を環境教育に生かす。 |
| 逗子中学校 | <ul style="list-style-type: none">・ 逗子市学校版環境ISO取得・ 「蛍の里づくり」運動の取り組み |
| 久木中学校 | <ul style="list-style-type: none">・ 地域の環境問題に関心を高める。 |

- ・生徒会が中心となつての身近な環境について取り組む。
(ミックスペーパーの回収・用紙のリサイクル見学・生徒大会での取り組み等)
- ・ディベート等で環境問題を考える。
- ・指導要領の改訂を踏まえて、本校における考え方やねらい、実施学年など明確にする。
- ・グリーンカーテンの取り組みから意識の高揚を図る。

沼間中学校 ・学校版 I S O 取得に向け環境局を中心に全校で取り組む。

2 各小中学校における平成 21 年度の評価と課題

逗子小学校	環境委員会が継続的に取り組み、児童朝会でその成果を発表した。学校全体としての広がりを模索しつつある。(自己評価・A)
沼間小学校	環境教育を推進するために、学年に応じた体験活動を充実させる。 (自己評価・A)
久木小学校	紙の裏面使用や節水節電は学校でおおよそ浸透してきている。今後も環境教育の年間計画等作成について充実を図っていきたい。(自己評価・B)
小坪小学校	活動の精選と充実 (自己評価・A)
池子小学校	今年度の取り組みを継続し、児童の環境への意識を高める活動を行う。 (自己評価・A)
逗子中学校	学校地域支援本部と生徒会を中心とした生徒全員での取り組みとする。 (自己評価・A)
久木中学校	生徒会中心に身近な環境保護の実践活動を実施する。地域講師による環境学習の実施 (自己評価・A)
沼間中学校	生徒会(総務会)、環境局等で取り組んだが、ISO 取得には至っていないので、引き続き取り組む必要がある。(自己評価・B)

⑧ 情報教育の推進

【 目 標 】

情報機器の急速な進歩に伴い、ますます便利な生活が送れるようになりつつあります。一方、インターネットが家庭に普及し、また携帯電話を持つ小・中学生が増加してきたことで、様々なトラブルに巻き込まれるケースも出てきています。

情報機器を活用する力は、現代では必要不可欠です。その能力の育成を行うとともに、情報が氾濫する情報化社会の中で、ネット上の情報に惑わされず、自分自身に必要な情報を正しく取捨選択し、なおかつ自分の考えや情報を発信する情報リテラシーの育成やネット上でのエチケットやモラルの教育も重要になってきています。

1 各小中学校における平成 21 年度の取り組み目標

- | | |
|-------|---|
| 逗子小学校 | パソコンについてのスキルの向上を図ると共に、情報モラルの育成に取り組む。 <ul style="list-style-type: none">・情報教育の指導法についての研修を実施する。・系統性を踏まえた情報教育の活用を図る。・情報モラルの指導計画を作成し取り組む。 |
| 沼間小学校 | <ul style="list-style-type: none">・機器更新を機会に、校内LANの研究に着手する。・情報リテラシーの育成やモラルの教育に努める。・個人情報保護の周知徹底を図り、事故防止に努める。 |
| 久木小学校 | <ul style="list-style-type: none">・情報リテラシーの育成に向けてパソコン環境の整備を行い、情報教育の授業を充実させる。 |
| 小坪小学校 | <ul style="list-style-type: none">・学年の段階を踏まえた年間計画を工夫する。 |
| 池子小学校 | <ul style="list-style-type: none">・発達段階に応じた情報機器の活用を行う。・情報リテラシーの育成に向けてパソコン環境の整備を行うと共に情報モラルの育成も図る。 |
| 逗子中学校 | <ul style="list-style-type: none">・情報モラルの推進・普通教室へのLAN配線・情報活用能力の充実（映像を活用したプレゼンテーションの充実） |
| 久木中学校 | <ul style="list-style-type: none">・3学年を見通した、情報モラル教育の充実を図る。 |

- ・情報活用能力を高める実践の工夫をする。
- ・教職員の情報教育モラル向上のための研修会を開催する。
- ・管理マニュアルを作成し活用する。

- 沼間中学校
- ・情報モラル等についても生徒に課題を投げかけながら、日常の授業に生かしていく。
 - ・情報モラル向上を図りつつ、インターネットを含めた情報機器の活用を広げる。

2 各小中学校における平成21年度の評価と課題

- 逗子小学校 活用方針について取り組みは進められた。モラルに関する研修や具体的な実践が必要である。(自己評価・・・B)
- 沼間小学校 各教室配置になった情報機器を有効に活用し、授業効果を高める。(自己評価・・・A)
- 久木小学校 情報機器を積極的に授業や行事に活用しようと様々な場所に工夫が見られた。さらに充実させていきたい。(自己評価・・・B)
- 小坪小学校 リテラシー獲得のための指導の充実 (自己評価・・・A)
- 池子小学校 情報リテラシーの育成を目指し、取り組みを充実させる。(自己評価・・・A)
- 逗子中学校 映像を使ったプレゼンテーション能力を育成する。(自己評価・・・A)
- 久木中学校 「情報活用能力」育成のための指導計画の育成。ICTを活用した指導法の研究。(自己評価・・・A)
- 沼間中学校 情報モラルについて、技術・家庭科の授業で実施。インターネットのマナー等 (自己評価・・・A)

〈教育委員会分析結果〉

1 平成21年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

- CAP（子どもへの暴力防止）プログラム事業
- 教育相談事業
（非常勤職員3人、スーパーバイザー4人）
- 適応指導教室運営事業（非常勤職員2人）
- 〔文部科学省研究委託〕問題を抱える子ども等の自立支援事業（巡回指導員2人）
- 心の相談・援助事業（うるおいフレンド各校1人 非常勤職員）
- 国際教育推進事業（国際教育指導助手4人）
- 教育用コンピュータ維持管理事業（コンピュータリース）
- 教育用コンピュータ整備事業
- 学校ICT環境整備事業
- 学校施設生ごみ処理機設置事業（池子小）

(2) 主な指導内容

- ▲教育相談コーディネーターを中心とした解決に向けた校内体制づくり
- ▲小学校外国語活動の授業案づくり
- ▲「逗子市学校防災計画」の作成

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

(1) 市立全校の実践評価 〔B〕

(2) 主な成果等

【子どもの安心・安全】

- ・防犯教室を全小・中学校で行った。
- ・小学校3年と中学校1年の市内全クラスにおいてCAPワークショップを実施した。
- ・防災訓練や地域防災（避難所訓練）の取り組みを行った。

【いじめ・不登校】

- ・教育相談コーディネーターを中心に外部機関と連携した取り組みを進めることができた。

【幼・保・小・中の連携】

- ・小学校…幼・保・小連携推進委員会において、幼・保・小それぞれの授業や活動を参観し理解を深めた。また、年度末に関係幼稚園・保育園・中学校との情報交換を実施し、学びの連続性を意識した情報連携を図った。

- ・中学校・・・小中の連携を図るため、合同研修会や情報交換、出前授業や部活体験（クラブ指導）等を実施した。

【国際理解教育】

- ・新学習指導要領で示された小学校外国語活動の導入に向けた、組織的な取り組みをすすめることができた。
- ・単なる語学の指導に終わることなく、コミュニケーションや人権、異文化理解に発展させることができた。

【キャリア教育】

- ・中学校における職業体験は定着しており、生徒にとって地域教育力を活用した貴重な体験となっている。（1日実施・・・2校、2日間実施・・・1校）

【福祉教育】

- ・各教科・生活科及び総合的な学習の時間の中で計画的に実践が行われた。
- ・社会福祉協議会（地域の教育力）との連携が定着しており、各校ごと児童・生徒の実態に応じた取り組みが行われた。

【環境教育】

- ・グリーンカーテンの取り組みを通して、環境学習への意識を高揚させることができた。
- ・地域教育力を活用した環境学習授業を行い、子どもたちの環境に対する意識を高めることができた。

【情報教育】

- ・情報教育担当者会において、「情報活用能力の向上や情報モラル等情報教育に関わる指導力の向上」を目指した研修を実施した。
- ・市内全8校にて授業研究を実施し、その内の2回（小・中学校各1校）については指導助言の講師を招聘し、研究会を実施した。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

（1）教育委員会の自己評価〔B〕

コメント それぞれの学校が創意工夫により課題を明らかにし、それぞれの学校ごとに課題への対応をしている。したがって全体の評価としてB評価とした。「いじめ・不登校」については、委員会としても継続的な支援を行っていく。

（2）主な成果等

【いじめ・不登校】

- ・「問題を抱える子ども等の自立支援事業」（文科省研究委託）を受け、2名の巡回指導員による支援体制のコーディネート、教員へのコンサルテーション等積極的な活用を行った。

- ・校内の情報共有の徹底と、適切な指導に向けた教員個々の指導力向上を引き続き目指す。

【環境教育】

- ・環境教育に関わる諸機関との連携を密に行うことができた。

【情報教育】

- ・情報教育担当者会で「ICTを活用した授業づくり」について研究・研修を深めた。
- ・情報セキュリティの研修会を実施し、情報モラル等に関する意識向上に取り組んだ。

4 平成22年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

(1) 子どもの安心・安全

- ・市立小中学校において、「逗子市学校防災計画」にそって共通理解のもと、対応していくことが必要である。

(2) いじめ・不登校

- ・教育相談コーディネーターを中心としたと校内支援体制を構築するため、特別支援教育充実事業（教育相談コーディネーター担当者会および各学校での研修）を充実させる。
- ・各校における教育研究所や児童相談所等の関係諸機関との有機的連携を進める。
- ・不登校の未然防止に向けた具体的な手立てを講じ、出現率の低下に努めるため、各学校の教育相談体制を充実させる。

(3) 幼・保・小・中の連携

- ・新学習指導要領への移行期であることに鑑み、幼・保・小連携推進委員会の内容の充実が必要となる。

(4) 情報教育

- ・逗子市立小中学校ICT支援員派遣事業において、教員に対する学校ICTに係る操作や学校ICTを活用した授業等の企画や準備の技術的サポートを実施する。
- ・新たに導入したICT機器（PC、電子黒板、プロジェクター）の授業における活用を推進する。
- ・「情報モラル」についての一貫性を持った指導が必要である。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈高木展郎 氏〉

学校支援地域本部事業については、各学校に地域本部が立ち上がりそれぞれに取り組んでいますが、ボランティアの関わりにつきましては、ボランティアに教員の仕事を手伝ってもらうようなスタンスでいることが大切です。教育委員会として考えることはシステムをどうするかでありますから、地域が学校に対して「何ができるか」ではなく、「何をしてほしいか」を学校から地域に発信していくこと、このことを組織的にどうしていくかが問われていると思います。

いじめ・不登校につきましては、引き続き丁寧な対応を続けていってください。いじめについては、「あってはならないこと」ではありますが「必ずあること」であり、“教室の中での、個の集団の中での関わり方”が問われています。これは学力向上にも大きく影響するものです。

国際理解教育の推進につきましては、IEA及び地域講師の活用に取り組んでいますが、逗子には米軍住宅がありますので、子ども同士の交流や米軍住宅の人材の活用も有効であると考えます。

情報教育につきましては、電子黒板が整備されましたので、その有効活用を考えることが大切です。このことについては、特に電子黒板用ソフトについての予算措置を講ずる必要があります。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田貢 氏〉

子どもを取り巻く環境が複雑化・多様化し、教育課題が山積する中で、各学校が具体目標を掲げ、目標達成に向けて真摯に取り組み、成果をあげていることを評価します。

危機管理対策，安心・安全な学校づくりは，健全な子どもを育てる上で大事なことです。特に，不審者や児童虐待への対応は緊急課題として受け止め，地域社会や関係諸機関等と連携を図り，マニュアルを作る必要があります。

いじめ，不登校については減少傾向にありますが，校内暴力が増加しつつあり，特に，小学校でその傾向が見られます。各学校ともに，教育相談コーディネーター，スクールカウンセラー，心の教室相談員，うるおいフレンドなど様々な関係者等と連携しながら子どもの支援体制を整え，成果を挙げていますが，さらに，子どもが「登校することの意義」「誰からも認められる喜び」等が味わえるような学級・学校づくりに努めていくことが大切です。そのためにも，子どもとの信頼関係を構築した学級経営や分かる授業に努めた教科経営の充実に取り組んで欲しいと願います。

幼・保・小・中学校の連携は，人間づくり，個別支援などの視点からますます重要です。今回の幼稚園教育要領，学習指導要領の改訂の機会に，さらに連携を深めていただきたいと思います。

国際理解教育，福祉教育，環境教育への取組は，質の高い取組をされています。今後とも，家庭や地域社会の教育力を活用し継続的に実践するとともに，人権・同和教育にも積極的に取り組み，心豊かな子どもの育成にあたって欲しいと願います。

情報教育については，全教育活動を通して情報リテラシーの指導の充実を図るとともに，子どもを悪質な情報からいかに守るか，保護者，地域社会等とも連携を図り，対応を図ることが必要です。

キャリア教育は，改訂学習指導要領にも明確に位置づけられました。子どもの自立心，自己教育力を育てる上で大事なことであり，発達段階に応じて，全教育活動を通して，適切に指導することが大切です。

2 地域に開かれた学校づくり

① 地域への情報発信と学校公開の工夫

【 目 標 】

学校が様々な教育課題の解決に向けて取り組むとき、家庭や地域社会との連携はますます重要になってきています。学校教育目標や重点課題等を積極的に公開し、開かれた学校運営を図ることや、地域保護者への学校説明会や授業公開日の定例化を進め、学校を地域に十分に開くよう取り組みを進めていきます。

また、個人情報保護に十分注意しつつ、学校からの情報発信をすることにより、地域と学校とが適切な相互理解を深め、具体的な地域協力を得ながら地域とともに子どもを育てる協働による学校運営を推し進めていきます。

1 各小中学校における平成 21 年度の取り組み目標

- | | |
|-------|---|
| 逗子小学校 | 説明責任を明確にして、開かれた学校づくりを一層進める
・学校経営方針を全家庭に配布する。
・学校だよりを必要な地域に配布する。
・担当者を位置づけホームページの改善に努める。 |
| 沼間小学校 | ・地域行事へ、作品による参加とともに人的参加をする。
・ホームページの毎週更新をする。
・授業参観を活用して家庭と連携を図る。
・ホームページを充実させる。 |
| 久木小学校 | ・学校便り等で情報発信を進める。
・ホームページを充実させ情報発信を進める。
・個人情報に十分留意しつつ情報発信を進める。
・家庭、地域社会との連携を深める。 |
| 小坪小学校 | ・ホームページの内容について検討し精選を図る。
・行動目標が保護者・地域の協力を得た取り組みになるよう工夫する。
・地域の方々の学校への意見を取り入れる方法を工夫する。 |
| 池子小学校 | ・学校だよりやホームページ等を通して、学校の情報を広く伝える。
・定期的な授業参観日・学校へ行こう週間・休日参観を通して、学校の様子を保護者・地域に公開する。
・ホームページ・学校だよりの一層の充実を図る。 |

逗子中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページに「保護者の声コーナー」の設置 ・ 学校へ行こう週間の充実 ・ 個人情報保護の基本方針の検討 ・ 保護に関する規定の検討
久木中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 久中だより、ホームページについて時期、内容、目的等を調査し、充実した情報発信に生かす。 ・ メーリングサービスの体制づくりと実施をする。 ・ 学校説明会・授業参観・学校へ行こう週間等で地域や家庭への学校経営について情報提供・公開をする。 ・ ホームページの計画的な更新を図る。
沼間中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校へ行こう週間や公開日を利用して保護者・地域来校者の増加を図る。研究会は地域、保護者の参加を募り、意見反映を促す。

2 各小中学校における平成21年度の評価と課題

逗子小学校	<p>年度当初に全家庭に経営方針のパンフレットを配布すると共に校長との懇談会で経営方針を説明し、年度末には学校評価に基づく改善点を説明した。 (自己評価・・・A)</p>
沼間小学校	<p>学校評価の公開や説明会を実施していく。(自己評価・・・A)</p>
久木小学校	<p>学校便り、ホームページ、掲示板活用等で地域・保護者へ計画的に情報を伝えることができた。また、学校便りは地域にも回覧でより多くの情報を提示できた。(自己評価・・・A)</p>
小坪小学校	<p>ホームページの内容の精選と継続性を図る (自己評価・・・A)</p>
池子小学校	<p>ホームページ・学校だより・学級だよりの充実を図る。(自己評価・・・S)</p>
逗子中学校	<p>個人情報について、教職員だけではなく生徒保護者にとっても理解を深めていく。(自己評価・・・S)</p>
久木中学校	<p>ホームページの構成を見直し更新を積極的に行う。地域団体との関係を深め学校への理解を得る。(自己評価・・・A)</p>
沼間中学校	<p>授業参観年間3回実施。全教師の授業研究を実施。さらに、外部講師を招いての講演会等に保護者、地域の方にも参加いただいている。(自己評価・・・A)</p>

② 地域教育力の活用

【 目 標 】

都市化や核家族化、少子化の進行により、地域の連帯感が希薄化し、地域の教育力が低下している傾向があります。しかし、地域が持つ多彩な人的・物的なリソース（資源）を教育に活かすことは重要です。

地域の貴重なリソースを学校に取り込み、また、地域の中で子どもが豊かに育つことを大切にしていきたいと考えております。

これまで、市としてボランティアによる学校支援システムを立ち上げ、学校支援ボランティア登録制度を充実させてきました。既に各学校では、このボランティアを「総合的な学習の時間」や読書活動の推進などの教育活動の中で活用していますが、さらに、日常的な学習の場面でも取り入れていきたいと考えています。

1 各小中学校における平成 21 年度の取り組み目標

- | | |
|-------|---|
| 逗子小学校 | 学校支援地域本部事業を立ち上げ取り組む。 <ul style="list-style-type: none">・6月を目安に第1回の開催を実現する。・地域連携のビジョンを作成する。 |
| 沼間小学校 | <ul style="list-style-type: none">・教育ボランティア活動（支援教育も含め）への参加依頼を進める。・読み聞かせボランティア活用の充実を図る。 |
| 久木小学校 | <ul style="list-style-type: none">・外部教育力の活用について、学校全体の整理調整を行いより計画的・効果的な活用をすすめる。・地域の教育力再生と新たな地域の教育コミュニティづくりを推進する |
| 小坪小学校 | <ul style="list-style-type: none">・開発した単元を検証改善していく。・図書ボランティア・クラブボランティア・花壇ボランティアを活動内容を改善する。 |
| 池子小学校 | <ul style="list-style-type: none">・学校支援ボランティアの積極的活用を図る。・学校の行事、地域の行事等を通して教職員と保護者・地域との円滑なコミュニケーションの推進を図る。・地域に提供できる学校資源の整理・発掘を行い、地域との一層の連携を検討する。・学校支援地域本部立ち上げへの取り組みを行う。 |

- 逗子中学校

 - ・職業体験の年間拡散型への検討
 - ・避難訓練での消防署による消火活動実施
 - ・ボランティアとともに創る図書室のコーディネート

- 久木中学校

 - ・人材バンクの整理、活用の仕方
 - ・長期にわたり安定した地域組織との連携づくりをする。
 - ・教師の専門性を生かした地域交流のあり方を考える。
 - ・定期的に地域協力者会を開催し、地域と協働の授業展開を考える。

- 沼間中学校

 - ・個別的な学習支援・図書館に地域協力者の参加を定着させる。
 - ・地域講師参画型の授業づくりを継続的に実施する。

2 各小中学校における平成21年度の評価と課題

- 逗子小学校

地域本部事業の立ち上げなどプランに基づき進めた。継続的・計画的な取り組みが必要である。(自己評価・B)

- 沼間小学校

学校支援地域本部事業を有効に機能させ、活用していく。(自己評価・A)

- 久木小学校

外部教育力の活用を年間計画を作成し計画的に進めることができた。(自己評価・A)

- 小坪小学校

地域支援本部事業の充実を目指す。(自己評価・A)

- 池子小学校

立ち上げた学校支援地域本部事業の充実を図る。(自己評価・A)

- 逗子中学校

学校支援地域本部を活用した取り組みをおこなう。(自己評価・A)

- 久木中学校

地域コーディネーターを中心とした学校支援の体制づくりを進める。(自己評価・A)

- 沼間中学校

地域講師授業の実施。食育では地域の方を招いて家庭科で調理実習を実施したが、園芸でも実施していきたい。(自己評価・A)

③ 学校評価を生かした学校の改善

【 目 標 】

現在、学校はその教育活動全体について、絶えず自己点検・自己評価を行い、その結果を適切に分析していくことで、教育の質を向上を目指していくことが求められています。それとともに、学校運営の状況について保護者や地域住民等に対して積極的に情報を発信し、説明責任を果たして、社会の期待と信頼に応える学校づくりがなされています。

さらに外部評価（第三者評価）に取り組み、行事や参観日などの学校公開時に行うアンケート調査だけでなく、評価の視点やポイントを定め、保護者だけでなく、様々な方面の方々による適切な第三者評価を実施し、更なる教育活動の向上に取り組んでいきます。

1 各小中学校における平成 21 年度の取り組み目標

- | | |
|-------|--|
| 逗子小学校 | 学校評価を改善に生かす取り組みを進める。 <ul style="list-style-type: none">・ 評価項目の見直しを図り、具体的な改善につなげる。・ 評価委員会の役割や内容を充実する。 |
| 沼間小学校 | <ul style="list-style-type: none">・ 学校評価の内容検討・ 自己評価と併せた学校関係者評価の実施・ 学校評価のホームページ上での公開を検討する。・ 学校説明会、授業公開等を活用して、学校の評価を発信していく。・ 学校評議員会の充実を図る。 |
| 久木小学校 | <ul style="list-style-type: none">・ 年間 2～3 回の外部評価委員会を実施・ 年度末に学校関係者評価委員会を実施・ PDCAサイクルの整理構築・ 学校評価結果の活用を図りたい。 |
| 小坪小学校 | <ul style="list-style-type: none">・ PDCAのサイクルをより短期間にするため工夫改善する。・ 学校評価委員会の活用・ 第三者評価を試行校として実施・ 評価の公開について意見を求める方法を検討する。 |
| 池子小学校 | <ul style="list-style-type: none">・ 学校評価を学校運営に生かすと共に保護者・地域に積極的に情報発信する。
学校評価委員会よりの意見・報告を学校運営に生かす。・ 学校評価委員会の活動を生かした学校評価を進め、学校運営の改善を図る。 |

- 逗子中学校
 - ・横浜中との評価研究会
 - ・成果の検証、改善の実施
 - ・評価結果、改善策・成果の公表
(学校関係者評価の実施)

- 久木中学校
 - ・外部評価の導入を再検討する。
 - ・評価後の改善点を明らかにし、評価方法を検討する。
 - ・学校評価を見直し、改善していく。
 - ・関係者評価の活用

- 沼間中学校
 - ・客観性のある学校評価も一部取り入れ、結果を真摯に受け止め検討し、最優先課題として解決を図る。

2 各小中学校における平成 21 年度の評価と課題

- 逗子小学校

年 2 回の学校評価を実施し、評議員会や評価委員会、校長との懇談会、学校だよりで周知した。(自己評価・A)

- 沼間小学校

自己評価と併せた学校関係者評価を実施し、学校評価を充実させる。
(自己評価・A)

- 久木小学校

児童、保護者、地域、教師にアンケートを実施し、アンケート結果、考察を学校便りに公表した。また、内部評価をまとめて次年度の教育活動立案に結び付けていくことができた。(自己評価・A)

- 小坪小学校

第三者評価を次年度に生かしていく。(自己評価・S)

- 池子小学校

学校関係者評価委員会と学校評議員会を整理し、より学校運営に有効な活動を検討する。(自己評価・A)

- 逗子中学校

異校種間連携を行いながら、学校評価を進められるようにしていく。
(自己評価・A)

- 久木中学校

自己評価の内容を見直しわかりやすいものとする。行事ごとにアンケートを実施し自己評価に取り入れる。(自己評価・A)

- 沼間中学校

生徒、保護者、地域の方、学校評価委員、評議委員、職員のアンケートを実施し、課題を見つけ、優先課題から解決を図った。(自己評価・A)

〈教育委員会分析結果〉

1 平成21年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

●学校支援地域本部事業

(逗子市立小中学校全8校にて「学校支援地域本部」を設置)

逗子小学校⇒清掃活動・地域支援学習会など

沼間小学校⇒米作り・環境整備・地域講師による授業など

久木小学校⇒わくわくウィーク(地域講師による授業)・環境整備など

小坪小学校⇒サマースクール(地域講師による授業)

池子小学校⇒地域講師による授業・環境整備など

逗子中学校⇒地域教育力を生かした環境学習の取り組みなど

久木中学校⇒食育講習会・環境学習・地域清掃など

沼間中学校⇒地域の方の支援による食育のとりくみ・環境整備など

●学校教育支援ボランティア(411人)

●学校評議員事業

●学校関係者評価事業

(2) 主な指導内容

▲学校評議員会報告書の提出

▲学校関係者評価の報告書の提出

▲学校支援地域本部実行委員会の開催

▲ホームページの充実

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

(1) 市立全校の実践評価 [A]

(2) 主な成果等

【情報発信】

・ホームページや学校だより、学校説明会等、情報発信に努めた。

【地域教育力の活用】

・各学校にて学校支援地域本部が立ち上がり、学校教育支援ボランティアを活用した学習の取り組みを進めた。また、実行委員会で情報交換や方向性の確認を行った。

【学校評価】

・学校評価から見えてきた課題を、22年度の学校教育総合プラン実施計画に反映し学校運営の改善を図った。

- ・学校関係者評価の導入により、自己評価の結果から得た改善策にさらに学識経験を有する評価委員の意見等を加味して、次年度の具体的な改善につなげることが出来た。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

(1) 教育委員会の自己評価〔A〕

コメント 全学校にて学校支援地域本部を立ち上げ、各学校にて取り組んだ。

(2) 主な成果等

【情報発信】

- ・各学校におけるホームページの更新がまだ十分ではないことが課題である。

【地域教育力の活用】

- ・各学校にて学校支援地域本部が立ち上がり、学校教育支援ボランティアを活用した学習の取り組みを進めた。また、実行委員会で情報交換や方向性の確認を行った。
- ・学校のスリム化が図れるように、学校支援地域本部の活性化が課題である。

【学校評価】

- ・「逗子市学校教育総合プラン（第Ⅱ期）」で学校評価の整理を行った。

4 平成22年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

(1) 地域教育力の活用

- ・学校支援地域本部の円滑な運営を目的とした地域教育協議会の活性化。
- ・各学校がもっている情報やネットワークを共有化（市内の人材リストの作成）する。
- ・地域コーディネーターのスキルアップを図る。

(2) 学校評価

- ・学校評価と学校教育総合プラン評価との整合性を図ったので、より一層評価の具体化を図り、学校改善により良く生かす学校評価を推進していく。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈高木展郎 氏〉

地域への情報発信と学校公開の工夫については、ホームページや学校だより等、昨年度に引き続きどの学校においても努力されています。学校評価が逗子市学校教育総合プランに沿って行われていて、その逗子市学校教育総合プランが3年ごとに見直しを行っている点と、各学校が単年度ごとの評価ではなく3年間をスパンとした継続的な評価・検討をおこなっている点で意味あることと考えます。

学校評価に関して第三者評価について書かれていますが、平成22年7月に文部科学省から発行された学校評価ガイドライン改定版に第三者評価に係る内容が追加されましたので、今後はガイドラインを参考に適正に取り組む必要があると考えます。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田貢 氏〉

地域に開かれた学校運営の充実を図るためには、学校からの情報発信の充実、日々の学校公開、地域の教育力の活用は、大事なことです。各学校のHPを参照しますと、定期的に更新され、保護者等にとって最新の情報が掲示されており、日々の学校の様子がよく分かります。また、学校だより等も定期的に発行し地域にも配布されており、大変素晴らしいことです。

地域の教育リソースを活用した教育活動も充実しており、子どもたちの「生きる力」を育てる上で大変役立っています。

学校公開についても、様々な機会を通じて保護者や地域住民の方々に公開しており、開かれた学校づくりに努力されています。何より素晴らしいことは、多くの学校教育支援ボランティアが学校運営に参画していることです。彼らの声は、学校評価に繋がるものであり、学校運営改善を図る上での貴重な財産です。学校関係者評価委員や学校評議員或いは第三者評価委員などの声とは別の視点で、様々な指摘をされていることと思います。こうした声を活かすことによって、さらに学校運営が充実したものになります。日々の教育活動を充実・深化させるためにも、今後とも、全教育活動に位置づけ、計画的・継続的に活用することが望ましいです。

学校評価は、学校運営改善のための手段です。学校目標の達成に向けて、何を改善すべきかを探るためのものであり、短・中・長期目標の達成に向けて、どのような手だてを講じていく必要があるかを探るものです。そのような視点で、学校評価項目について点検・見直し・整理し、複数年を見通した学校運営計画を作成することも必要かと考えます。

今後とも、学校は、保護者、地域住民等の学校に対する様々な意見を真摯に受け止め、学校運営に反映させるとともに、管理職の学校運営に対する明確な理念の下、教職員一人ひとりの学校運営に対する参画意識の高揚を図ることが必要不可欠です。

Ⅲ 教員の指導力向上

〈目 標〉

教育において、教員一人ひとりが専門家としての高い指導力と教育に対する情熱と使命感、そして豊かな人間性を持って教育に打ち込むことが大切です。一人ひとりの力量を高めることで教員、そして学校全体の信頼を高めることにつなげて行きます。

1 教員研修・研究の充実

① 授業研究の充実

【 目 標 】

学校教育において、中心となるのは授業です。子どもたちは授業を通して様々な知識を得、集団の中で学び合って成長していきます。また、教員は、授業を通して子どもを成長させることが大切な仕事であり、そのために高い専門性に裏付けられた質の高い授業づくりと実践が求められます。

教員の指導力向上を目指すには、授業展開前に児童の実態の把握、教材分析、単元計画などの研究が必要です。そして、全職員が授業を通して切磋琢磨する姿が、日々の授業改善にもつながっていきます。さらに、授業研究の活性化を図り、質の高い授業づくりを推進するためには、外部講師の招聘や他校の研究授業や研究発表への積極的参加が必要です。

1 各小中学校における平成 21 年度の取り組み目標

逗子小学校 一人ひとりの授業改善につながる実践及び研究となるよう、授業研究を充実する。

- ・新しい指導要領の趣旨や先行実施の内容を加えた授業実践を行う。
- ・一人ひとりの公開授業を実施する。

沼間小学校 ・授業研究を公開し、学校間の実践交流を進める。

- ・外部講師を招聘し授業研究をする。
- ・教育研究所や他機関に教員を派遣し、本校の授業研究に資する資料収集・教材研究に努める。
- ・日常の授業に成果を生かしていく。

久木小学校 ・校内研究を中心に、授業研究を活性化する。

- ・研究協力者・講師を活用し、充実した研究会を開催する。
 - ・よりよい授業づくりにむけて、全教職員が連携、協働する。
- 小坪小学校
- ・コミュニケーション力の向上が図られているのかどうかの検証の在り方を検討することを通し、研究の総括をする。
- 池子小学校
- ・20年度までの成果と課題を踏まえ、より質の高い授業研究に取り組む。
 - ・市内外の研究協力者・講師を招き、充実した研究会を計画する。
 - ・新指導要領のねらいを踏まえたテーマで研究を進める。
- 逗子中学校
- ・テーマ別研究授業（教材教具）
 - ・横浜中との評価研究会
 - ・学校研究の発表会（研究紀要）
- 久木中学校
- 研究授業を多く実施し、多数の教師の参加体制を作る。
- ・全員による授業公開を行い、外部指導者を招いての研究会の充実を図る。
 - ・個人、教科テーマを設定し授業力向上を推進する。
 - ・教員の世代間交流を通じて、教員の資質・力量の向上を図る。
 - ・指導要領改訂に伴い、教科や学年のねらいを明確にしながら授業研究を継続する。
- 沼間中学校
- 基礎・基本の定着を基盤に、活用する力の育成を目指した授業研究に取り組む。

2 各小中学校における平成21年度の評価と課題

- 逗子小学校
- 新しい指導要領の趣旨を生かした授業づくりに取り組みで、82%が役立ったとの自己評価であった。(自己評価・・・A)
- 沼間小学校
- 授業研究の日常化で質の高い授業づくりを進めていく。(自己評価・・・A)
- 久木小学校
- 学年協働と外部講師の参加により、授業研究の充実を図ることができた。(自己評価・・・A)
- 小坪小学校
- 評価の日常化をすすめたい。(自己評価・・・S)
- 池子小学校
- 継続して新指導要領のねらいを踏まえた授業研究を進め、学力向上及び教員の指導力向上を図る。(自己評価・・・S)
- 逗子中学校
- 研究発表会の実施を通してわかった課題を次年度に生かす。(自己評価・・・S)

- 久木中学校 研究授業の積極的な実施、課題研修レポートの作成を行う。研究会の実施、適切な助言者の依頼を図る。(自己評価・・・A)
- 沼間中学校 校内研究は全教師が授業参観以外に外部講師を招いて研究授業を実施したが、さらに、校内研究会を充実させ、機会を増やしていく必要がある。
(自己評価・・・A)

② 授業評価の活用

【 目 標 】

「分かる授業」「楽しい授業」を実現するためには、日々の授業改善が必要です。そのために多くの教員が、よりよい授業づくりや教育活動の実践に向けて、絶え間ない努力や研鑽を重ね、子どもたちのために一生懸命取り組んでいます。

さらに、教員が自ら授業を振り返るだけでなく、教育の専門家の視点や児童生徒のとらえ方を知るなどして、より具体性を持った評価に基づき、授業改善を進めることが大切です。教員の授業づくり・教材づくり等を積極的に評価し、その成果と課題を確認して次の授業づくりに役立てていくことは、授業力向上のプロセスとして重要です。

日常の授業を質的・量的（数值的）に評価し、指導に生かしていく体制づくりと、授業評価の活用に向けた教員の意識改革を進めます。

1 各小中学校における平成21年度の取り組み目標

- | | |
|-------|--|
| 逗子小学校 | 子どもの変容を観点に授業改善をめざす。 <ul style="list-style-type: none">・ 授業研究時に児童の変容を把握する。・ 一人ひとりの実践に基づいた授業研究を進める。・ 新指導要領のねらいに基づいた授業研究を行う。 |
| 沼間小学校 | <ul style="list-style-type: none">・ 外部講師による授業評価も含めたような観点から授業評価を行う。・ 学習状況調査の分析結果を日常の指導に活用する。 |
| 久木小学校 | <ul style="list-style-type: none">・ 学校評価と連動した授業評価の充実をすすめる。・ 学校評価・学習状況調査・学力調査等を参考として授業改善をすすめる。・ 授業評価について学校評価を行い、その成果と課題について検証し、教育活動の向上を図る。 |
| 小坪小学校 | <ul style="list-style-type: none">・ 一斉テストの結果を年間指導計画作成に生かす。・ 評価規準の作成と指導要録の評定の検討 |
| 池子小学校 | <ul style="list-style-type: none">・ 校内研究で作成された評価規準を生かした授業実践に取り組み、評価規準の見直し・検討を行う。・ 授業分析を重ねながら指導と評価の一体化を目指して授業改善に取り組む。・ 新指導要領を踏まえ、評価規準の検討を進める。 |
| 逗子中学校 | <ul style="list-style-type: none">・ 学習サイクルについての学習会 |

・授業評価シートを活用した研究授業の実践

久木中学校

- ・評価規準の見直しと検討を行う。
- ・授業評価シート項目の検討する。
- ・外部講師等の専門家を活用した授業評価を取り入れる。
- ・評価基準の公表をする。
- ・関係者評価の導入を進める。

沼間中学校

- ・授業評価を授業改善に生かして、授業力向上を目指す。

2 各小中学校における平成21年度の評価と課題

逗子小学校

新しい指導要領の趣旨を生かした授業だけでなく、一人ひとりの学びの保障という観点から個々の児童の状況を把握して、研究を進めた。
(自己評価・・・A)

沼間小学校

学力向上に向け、授業評価を活かしていく。(自己評価・・・A)

久木小学校

校内研究と一体化した授業評価を行うため外部講師を招き検討した。校内組織に評価検討部を設けて次年度から活動することにした。授業評価のより充実を図ることができた。(自己評価・・・A)

小坪小学校

児童による授業評価に取り組む。(自己評価・・・A)

池子小学校

継続して新指導要領のねらいを踏まえ、評価基準を検討すると共に授業評価に生かす。(自己評価・・・A)

逗子中学校

全職員の授業評価や学習支援シートの効果的な利用 (自己評価・・・A)

久木中学校

校内研究における授業を中心とした授業評価の推進。生徒、保護者、外部関係者の授業評価を生かした授業づくりの推進 (自己評価・・・A)

沼間中学校

全教科、全学年の授業評価アンケートを実施し、課題解決の方針を出したが、授業に反映させるところまでには至らなかった。(自己評価・・・A)

③ 地域教材の積極的活用・開発の促進

【 目 標 】

市立小・中学校は、地域に根ざした学校であり、地域には学習に生かせる多くの素材・教材があります。そして、その素材・教材を生かした学習を進める中で、子どもたちが地域を知り、地域と関わることによって、より具体的な、より深い学習となっていきます。

それぞれの学校が、その地域の素材・教材を活用した授業・実践を進め、教育課程に位置づけることによって、特色ある学校づくりも推進することができます。

地域の素材・教材を掘り起こし、学習に生かす努力を続けることによって、教師の指導力の向上につながり、子どもたちにとっては、楽しくわかりやすい授業、生活体験等に基づく実感のともなう授業になります。

1 各小中学校における平成 21 年度の取り組み目標

- | | |
|-------|--|
| 逗子小学校 | 地域の素材・教材を活用した授業に取り組む。 <ul style="list-style-type: none">・新指導要領の内容を踏まえた教材開発に努める。・他校との実践交流や情報交換を積極的に行う。・様々な研修の報告会・情報交換を行う。 |
| 沼間小学校 | <ul style="list-style-type: none">・地域素材活用のため、講師を招聘しての研修会開催・地域素材を活用した小・中学校の連携授業の実践を進める。・地域の郷土資料館を活用する。 |
| 久木小学校 | 素材を整理しながら、目的に応じた使用の仕方を考え、教材として活用する。 |
| 小坪小学校 | 地域素材を生かした授業を試みる。 |
| 池子小学校 | 地域素材を取り入れた授業研究を通し、教師の指導力向上を目指す。 <ul style="list-style-type: none">・各学校で開発した地域教材を共有財産とする取り組みを検討する。・特色ある学校づくり事業において郷土資料室整備・活用を進める。 |
| 逗子中学校 | <ul style="list-style-type: none">・地域環境の教材化とその授業実践 |
| 久木中学校 | <ul style="list-style-type: none">・地域教材活用のため、講師を招き研修会を行う。・行事、昔話、文化財など地域、郷土を知る活動を行う。・地域教材の開発に取り組む。 |

沼間中学校 ・ 地域教材を活用して、授業の充実と公開を積極的に行う。

2 各小中学校における平成 21 年度の評価と課題

逗子小学校 新しい指導要領における教材の開発までには至らなかった。指導要領の学習の必要性がある。(自己評価・B)

沼間小学校 地域素材活用のための研修会を開催し、教材を開発する。(自己評価・A)

久木小学校 生活科・図工で地域素材が活かされた。今年は大豆作りや田植え、稲刈り、脱穀体験ができた。また、講師の方と実際に歩いて地域を探索することにより歴史、自然についての情報を収集した。(自己評価・A)

小坪小学校 講師の招聘、郷土資料室の整理活用に取り組む。(自己評価・A)

池子小学校 郷土資料室の整備・活用を進めることができた。地域素材・郷土資料を生かした実践の推進を図る。(自己評価・S)

逗子中学校 地域素材の教材化について対象学年を絞り込む。(自己評価・A)

久木中学校 保護者、地域の外部人材の積極的な活用の推進。地域団体の行事、学校との協働などの連携推進 (自己評価・A)

沼間中学校 食育で地域講師を招いての調理実習授業を実施した。地元の食材を使用(地産地消)した。(自己評価・A)

④ 研修事業の充実

【 目 標 】

教職員は高度の専門性と豊かな人間性を持つことが求められています。そのため、校内においても様々な研修活動が計画され、教育研究所においても教職員のニーズに応える研修を進めています。

教職員はこれら学校内外での研修会に積極的に参加し、質の高い授業づくりを進めています。

また、教職員には経験年数に応じた研修を受けることが求められており、経験年数に応じた職能開発にも積極的に取り組んでいます。

他方、定められた年次研修以外にも、自らの課題にあった研修に自主的に参加することで、教職員の資質の向上への意欲が高まり成果が見られます。

1 各小中学校における平成 21 年度の取り組み目標

- | | |
|-------|---|
| 逗子小学校 | 初任研・経験者研修を全校体制で支援し、レベルアップを図る。 <ul style="list-style-type: none">・積極的に授業実践を公開する。・自己の研修目標を明確にして取り組む。・管理職が積極的に授業参観をし、レベルアップを図る。 |
| 沼間小学校 | <ul style="list-style-type: none">・研究所及び学校教育課、県教育委員会主催の研修会に教員を積極的に派遣する。・校内で相互に教員研修を実施する。・経験年数に応じた職能開発の検討。 |
| 久木小学校 | <ul style="list-style-type: none">・校内研修の充実に努めるとともにそれぞれの課題ごとに校外での研修・研究会へ積極的に参加し校内で共有化していく体制作りをすすめる。・教職員が研修に自主的に取り組めるよう支援体制づくりをすすめる。・研修時間を確保していく。 |
| 小坪小学校 | <ul style="list-style-type: none">・前年度に引き続き、現職教員の研修を計画的に行う。 |
| 池子小学校 | <ul style="list-style-type: none">・初任研・年次経験者研修において教職員の協力体制を作り、研修指導に当たる。・校内及び校外の研修会・研究会への参加を促進する。・年間計画の中に校内研修会を位置づける。 |
| 逗子中学校 | <ul style="list-style-type: none">・校内講師による研修会 |

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価評定意見交流会 ・ 研修情報のデータベース化（共有フォルダ）
久木中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初任者研修や年次経験者研修等、経験年数や職務内容に応じた各種研修の積極的な参加を促す。 ・ 参加体制づくりを確認する。 ・ 研修会および研究会への参加を推進する。 ・ 研修の成果を伝達し、情報の共有化を図る。
沼間中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危機管理意識、情報モラル等の高揚等、今日的な課題についての研修会を実施

2 各小中学校における平成21年度の評価と課題

逗子小学校	<p>授業の参観だけでなく、授業後の検討会等で先輩教師からの話や情報交換など、初任研や経験者研修の機会を生かしたレベルアップを目指した。 (自己評価・・・A)</p>
沼間小学校	<p>校内での教員研修を充実を図る。(自己評価・・・A)</p>
久木小学校	<p>校内研修の充実に努めると共にそれぞれの課題ごとに校外での研修・研究会に参加することができた。また、研修内容を校内で共有化することができた。 (自己評価・・・A)</p>
小坪小学校	<p>研修と研究の一体化を目指す。(自己評価・・・S)</p>
池子小学校	<p>研究所や外部機関と連携した質の高い研修を行い、教員の指導力向上に生かす。(自己評価・・・A)</p>
逗子中学校	<p>研修会や担当者会での内容を共有化を図る。(自己評価・・・B)</p>
久木中学校	<p>教育活動全体において、教師が身につけるべきものの校内研修の計画。県、市などの主催する研修会への参加を促す。校内研究の計画的実施 (自己評価・・・A)</p>
沼間中学校	<p>危機管理（安全な学校）研修として、防災では全職員対象で火災報知器等が作動した場合の対応。防犯研修では外部講師を招いての不審者対応訓練研修を行った。(自己評価・・・A)</p>

〈教育委員会分析結果〉

1 平成21年度に教育委員会が実施した主な「●事業」と学校への「▲指導内容」

(1) 主な事業

- 研究推進委託事業
- 授業研究委託事業
- 教育講演会

「子どもの自尊感情を育む～『ホーム』の回復をめざして」

ノンフィクションライター 自己尊重トレーナー 北村 年子 氏

- 教育指導教員派遣事業
- 教職員研修図書費

(2) 主な指導内容

- ▲初任者研修、OJTによる若手教員研修の充実
- ▲夏季研修、授業力向上研修
- ▲臨任・非常勤教員への研修

2 各学校の自己評価を総合した市立全校の実践評価と主な成果等

(1) 市立全校の実践評価 [A]

(2) 主な成果等

【授業研究】

- ・授業研究のテーマに、「豊かな言語活動」「コミュニケーション力」「自ら学び考える力」「学びあい」「自分の考えを表現できる子ども」といった内容を設定し、各学校において新学習指導要領への移行期としての研究に取り組んだ。

【授業評価】

- ・評価シートの項目の検討や評価規準の見直しが図られた。

【地域教材の積極的活用・開発】

- ・各学校にて学校支援地域本部が立ち上がり、地域素材・教材を学習に取り入れることについて、組織的な取り組みが始まった。

3 教育委員会の自己評価と主な成果等

(1) 教育委員会の自己評価〔A〕

コメント 教育指導教員派遣事業として、各校の研究・研修を積極的に支援し好評であったが、調査・研究事業の一層の充実を図るため見直しを行う必要がある

(2) 主な成果等

【授業研究】

- ・各学校におけるOJT、特に若手教員に対する組織的・計画的なベテラン教員からの指導に取り組んだ。
- ・教育指導教員派遣事業による臨時的任用教員及び非常勤講師（13名）に対する研修を、合計555回実施できた。

【地域教材の積極的活用・開発】

- ・各学校が地域教材を活用できるように、地域めぐりの研修会や「逗子の自然」「わたしたちの逗子」などによって支援することができた。

4 平成22年度に向けて必要とされる主な事業及び指導内容

研修事業

- ・初任者研修及び3年経験者研修のより効果的なあり方を考える。3年経験者研修はOJTへ移行したが、校内OJTの一層の推進を図る必要がある。
- ・夏季研修、授業力向上研修の一層の充実を図り、教職員のニーズに基づいた、研修の質的向上を図る。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈高木展郎 氏〉

どの学校も「授業研究の充実」に向けてよく取り組んでいます。“子どもがわかる授業”をどうするかという点に絞って取り組んでいますので、引き続きこの方向性で努力していただきたいと思います。

不登校問題につきまして、神奈川県がその対策として「わかる授業づくり」に動き出しました。これまでいろいろな施策が講じられてきましたが、多くは対処療法でありました。授業そのものをわかる授業にして、子どもにとって、学校が“学習がわかって楽しい”という場所にしていく必要があります。その意味でも授業研究がとても大切です。

初任者研修、OJTによる若手教員研修や夏季研修、授業力向上研修に取り組み効果がでてきているようです。このように（市内研修も含めて）身近な研修も引き続き有効に行ってほしいですが、逗子という小規模な市であるという特性を考えると、市外の研修会に進んで参加することが結果的に逗子の教育に還元されるのではと考えます。その点では、教員の出張旅費を確保することが重要になってくると思います。

〈学識経験を有する者の主な意見、助言〉〈久保田貢 氏〉

全体を通して、各学校共に自己評価は高いですが、これも教師一人ひとりが目標の達成に向けて、真摯に取り組んだ成果と言えます。今後とも意図的・計画的・継続的に取り組んで欲しいと思います。

中央教育審議会「新しい時代の義務教育を創造する（答申）」において示された「あるべき教師像」の中で、いつの時代にも教師に求められる資質能力として「教職に対する強い情熱」、「教育の専門家としての確かな力量」、「総合的な人間力」が挙げられています。また、保護者の多くが「望ましい教師像」として、

- ①子どもをよく理解し、適切に対処・指導してくれる教師
- ②子どものやる気を引き出し、意欲を高めてくれる教師
- ③分かりやすい授業をしてくれる教師

などをあげています。このことから、教師一人ひとりが、教育の果たす役割を十分理解し、教師力を高めるよう日々研鑽に努めることが大切です。特に、「授業研究」は重要であり、子どもにとって「分かる、楽しい授業」に向けて、地域教材を含めて教材・教具の開発、指導方法の工夫・改善、授業・学習評価の充実に取り組むことは、「子どもたちの学力向上」に繋がるものと考えます。また、次年度より実施される新学習指導要領に向けた研修・研究も各学校に課せられた課題といえます。既に多くの学校が実施に向けた取組がなされていますが、主旨を理解し、5年、10年先を見据えた教育計画を構築することが大切です。

世代交代が進み、若い教員が次第に増えていく現状の中、OJTによる研修は有効な手段ですが、プラス・マイナス両面も考慮し、退職教員を含めた外部講師の活用も視野に入れ、将来を見据えた研修・研究の充実を図ることが大切です。

チョークと黒板と教科書から、デジタル化へと進む教育環境の中で、こども一人ひとりに「生きる力」が育つよう、教師力を高めるとともに、これからの教育のあるべき姿について、教師一人ひとりが真剣に向き合い、学校運営に活かすことが大切と考えます。

・平成 19 年度～平成 21 年度 学校による点検及び評価の推移

平成19年度～平成21年度 学校による点検及び評価の推移(逗子小学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実	<p>○確かな学びを育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科で「読む・書く・計算する」力を育成する 聞く力、表現する力を育成する 基本的な学習態度を育成する <p>評価 A・B・C</p> <p>課題:重点目標を共通理解して取り組むことができた。学年ごとに具体的な手立てや到達目標を明確にして取り組むべきだった。</p>	<p>○確かな学びを身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> 少人数指導やTTの指導法を改善する。 繰り返し指導や補習等に取り組む。 家庭学習の習慣を育てる。 評価規準を明確するとともに指導の一体化を図る。 <p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題:各学年で放課後や夏休みに補充指導を実施した。家庭学習の取り組みは手立ての共通理解が不十分だった。学習状況を丁寧に伝える必要がある。</p>	<p>○確かな学びを身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 少人数指導やTTの工夫・改善を進める。 反復学習や補充指導に取り組む。 ☆確実な習得を図るための家庭学習に取り組む。 ☆保護者に学習状況を丁寧に伝える。 <p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題:モジュールの時間を漢字の読み書きに絞って繰り返し取り組み成果を得た。◆算数についても取り組む必要がある。</p>
② 読解力向上の取り組みの推進	<p>○確かな学びを育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な文章や資料を読み取る力を育成する 全教育活動で自分の考えを発表する力を育成する。 <p>評価 A・B・C</p> <p>課題:重点的に取り上げなかったが、教科学習や総合的な学習のなかで育成を図った。学年ごとに共通する手立てを明確にすべきだった。</p>	<p>○確かな学びを身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> 読解力向上プランを参考に取り組む。 一人ひとりの学習状況を把握して改善する。 各学年で共通した手立てで取り組む。 本校の読解力の状況を把握する。 <p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題:国語を中心に文章や資料を読み取るなど活動し、効果があった。今後は言語活動を充実し、文章や資料を理解・熟考する能力を高める必要がある。</p>	<p>○確かな学びを身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆音読を通して言語の情報の正しい理解を図る。 ☆資料の意図や意味を理解する活動を充実する。 ☆要約・説明・報告などの論理的な文章作成技術の取得を図る。 <p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題:授業研究に言語活動を取り入れた結果、要旨をとらえる力に向上が見られた。◆学年の系統性を持った取り組みが必要である。</p>
③ 読書活動の推進	<p>○確かな学びを育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任やボランティアによる読み聞かせ・ブックトーク、朝の一斉読書など本と触れ合う機会を増やす 学校図書館教育の充実 <p>評価 A・B・C</p> <p>課題:実施できた学級はあるが、学校全体の取り組みとならなかった。各学年で共通した取り組みが必要である。ボランティアの活用や図書館整備を進めることができた。</p>	<p>○確かな学びを身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校で本に触れ合う取り組みや行事の推進、家庭との協力により、読書活動を進める。 ボランティアの活用を一層進める。 図書館教育計画に基づき取り組む。 <p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題:ボランティア(保護者)の方の積極的な活動もあり、読書意欲が高まったが、学校としての図書館教育の計画や読書推進計画が有効に活用されるよう改善する必要がある。</p>	<p>○確かな学びを身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆全学年で一斉に読書にふれあう時間を設ける。 ☆読書推進計画の見直しを行う。 市立図書館を活用した読書活動を進める。 ボランティアの活用を一層進める。 <p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題:ボランティアの取り組みや担任の読み聞かせなど全校的な取り組みとなった。◆読書推進計画に基づく取り組みが必要である。</p>
④ 支援教育の充実	<p>○支援体制を確立し、ケース会議を充実する</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任一人が抱え込まないよう、支援部内及び学年の情報交換を密にする。 外部専門機関と連携し、ケース会議を実効性のあるものにする。 <p>評価 A・B・C</p> <p>課題:協議の学習支援はなかったが、障害や配慮を要する児童について保護者との面談・学年や学校全体としての組織的な支援体制で取り組みができ、有効だった。</p>	<p>○支援の継続を図る支援シートの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援シートを活用し、一人ひとりの支援を体制を構築する。 定期的に支援教育研修を実施する。 ケース会議を実効性のあるものにする。 <p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題:支援部に関わっている保護者には感謝されるが、まだまだ支援部の活動や内容が理解されていない。学習について直接支援する方法が課題である。</p>	<p>○保護者への周知と支援対応の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆支援シートに基づく学習支援の実施 ☆全教職員による支援体制の構築 ☆中学校と支援シートに基づく連携を進める。 ☆具体的なプログラムを示した保護者との面談 <p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題:保護者の満足度が上昇してきた。◆具体的な人的な学習支援が必要である。</p>

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 基本的な生活習慣の育成	<p>○学習にきちんと取り組む姿勢を育てる</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の決まりを意識して取り組むよう、継続的に指導する。 生活の決まりを守って行動できるよう、継続的に指導する。 <p>評価 A・B・C</p> <p>課題:全教職員で共通理解して取り組んだが、効果が不十分だった。学年の組織的な取り組みや手立ての共通化など工夫すべきだった。</p>	<p>○学習にきちんと取り組む姿勢を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 系統的な目標や手立てを作成し、全職員一丸となって取り組む。 基本的な生活習慣に関わる啓発資料を作成し、保護者との連携を図った指導を実施する。 <p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題:学習態度の育成については一定の成果が見られたが、系統的な目標等の共通理解が不十分であり、啓発資料も作成されなかった。家庭との協力が必要である。</p>	<p>○学習にきちんと取り組む姿勢を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 系統的な目標と手立てに基づき、全学年で取り組む。 ☆家庭の協力を得るために、各家庭に「学習の約束」を作成し、配布する。 <p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題:基本的な学習態度は学年や学級の取り組みにより、概ね達成したと評価した保護者は83%、教職員は95%であった。</p>
② 豊かな心を育む教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 行事で異学年交流の機会を増やす。 日常生活であいさつを実行する 学級指導で重点的に取り上げる <p>評価 A・B・C</p> <p>課題:異学年交流は1年と6年生の関わり、他学年での交流、逗子小子どもまつりなどを通して実現したが、あいさつの実行は学校全体の取り組みに至らなかった。</p>	<p>○異年齢の関わり、あいさつなどの重点化</p> <ul style="list-style-type: none"> 逗子小子どもまつりのねらいを明確にして、異学年交流を進める。 学校全体であいさつを広めるため、学年集会、学級指導、児童会などの場面を活用する。 <p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題:異年齢の関わりは意識的に取り組み、児童の関わりが充実してきたが、あいさつなどについては、地域の方からも不十分であると指摘されている。</p>	<p>○異年齢の関わり・あいさつなどの重点化。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆逗子小子どもまつりの内容の充実 ☆全校でのあいさつを広げるため、学級や児童会で取り上げ行動する。 <p>評価 S・A・B・C</p> <p>課題:概ね達成したと評価した保護者は76%、教職員は55%であった。昨年より向上した。</p>

【逗子小学校】

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 豊かな体験活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 教科の特性を生かした豊かな体験になっているかを検証する。 事前、事後の学習を行い、学びを深めることができるか 	<ul style="list-style-type: none"> 教科の特性を生かした豊かな体験活動となっているかを検証するとともに、深化を図る。 教科横断的な体験学習にも取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○系統性のある体験学習を研究する。 ☆事前学習→体験→事後学習を通して価値付けや意味づけを明確にする。 ☆活動の成果や結果について話し合いや発表を通して体験を共有しあう。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題:教科学習での体験活動は充実してきた。その体験をさらに発展・深化させる取り組みが不十分であった。事前学習での体験学習のねらいが不十分だった。	課題:各教科の特性を生かして体験に取り組んだが、系統性やねらいを明確にして効果的な体験学習とする必要がある。	課題:体験学習の教職員評価は87%の達成率であった。◆発表等の表現力を身につける指導の充実が必要である。
④ 健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○不注意からくるけがや病気を防ぐ、健康教育や安全教育を充実する ・安全点検や事故対策マニュアル等の作成と実施 ・教科や特別活動において健康教育を進める ・不審者対策や事故防止の体験や訓練を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康教育や安全教育等の全体計画を作成する ・全体計画に従って、各学年で取り組む ・教科や特別活動において健康教育を進める。 ・健康教育の全体計画を作成し、本校としての取り組みを明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○遊びや体育での安全指導を徹底する。 ・遊びのルールや決まりの作成や児童会での取り組みなど全校で事故を防ぐ機運を醸成する。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題:時期や季節をとらえて安全教育を進めることができた。保護者への啓発活動を充実する必要がある。学校内の事故防止に積極的に取り組む必要がある。	課題:休み時間の遊びでのけがが多く、校庭の狭さやオープンという開放感という要素はあるものの、工夫改善の必要がある。食育では実践検証をすることができ今後につながる。	課題:けがの防止については児童会や学級活動で取り組み、昨年度より半減してきた。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

1 多様な教育課題への対応

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年で安全教室を実施する。 ・1年生と3年生は交通安全を中心として取り組む ・全校で不審者対応訓練を行う。 ・月初めに安全点検を実施する ・地域との連携を図る方策を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者や地域との連携を図る ・1年、3年生の安全体験学習を実施する。 ・全校で不審者対応訓練を実施する。 ・地域と連携し、登下校の安全に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校支援地域本部事業に取り組む ・1・3年生の交通安全体験学習に取り組む。 ・全校での不審者対応訓練を実施する。 ☆学校支援地域本部を立ち上げ取り組む
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題:1年生の交通安全、3年生の自転車教室など学校行事として実施。その他に不審者対応訓練や防犯教室等各学年で実施した。地域の連携は学区全域にわたって出来なかった。	課題:交通安全教室や不審者対応訓練など実施することができた。ただ、校外での安全は地域の関わりが薄いので、今後の課題として重点的に取り上げる必要がある。	課題:これまでの安全教室の取り組みは進められた。◆地域本部事業は、継続的・計画的な取り組みが必要である。
② いじめ・不登校等への対応の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○差別やいじめを許さない学級づくりを行う ・安心して過ごせる学級経営を行う ・いじめの早期発見早期解決に努める ○児童への支援体制を確立する ・外部機関や相談員との連携を充実する 	<ul style="list-style-type: none"> ○差別やいじめを許さない学級づくりを推進す ・安心できる学級、解決できる学級にする。 ・いじめの早期発見早期解決に努める ○児童支援体制を充実する。 ・学年や支援部組織が機動的な対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○差別やいじめを許さない学級づくりを進める。 ☆児童との信頼関係を強める学級経営に努める。 ・いじめの早期発見早期解決を組織的に行う。 ・保護者と連携した取り組みをすすめる。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題:いじめを含め児童指導上の問題は学年や支援部を中心として組織的に対応し、改善・解決することが出来た。被害児童や保護者への対応も丁寧に対応できた。	課題:いじめや問題行動等には担任と学年が支援教育部と連携し、早期解決を図った。児童との信頼関係に基づく学級経営を進める必要がある。	課題:いじめ等の取り組みは各学級で学級指導や各教科の中でも取り上げて指導したが、計画的な人権教育という観点では不十分であった。
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○幼保との連携を充実する。 ・幼保の担当者との情報交換を密にする。 ・幼保の交歓行事を実施する。 ○中学校との情報交換を密にし、9年間のスパンで育む手立てを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育園や幼稚園、中学校との連携内容を検討する。 ・園との交流や情報交換のねらいを明確にした連携を図り、支援シート等を活用する。 ・中学校と連携内容や方法を具体的に協議する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育園や幼稚園との連携を充実する。 ☆園と児童や職員の交流を進める。 ☆支援シートを活用した連携を進める。 ・担当者及び教頭を中心として中学校との具体的な連携を進める。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題:幼保との連携が充実し、新1年児童への対応や保護者との話し合いがスムーズに出来た。中学校との連携は夏休みの補習を見学したが、今後の連携を具体的に進める必要がある。	課題:ようこそ集会での園との交流が、教職員との交流となった。今後はさらに中学校との連携をテーマを決めて連携する必要がある。	課題:年度当初に計画し、園との連携により進めてきた。◆支援シートを活用した対応の情報交換が必要である。
④ 国際理解教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の考え方を明確にして取り組む ・英語活動の考え方をもとに全ての学年で実践する。 ・本校の英語活動のねらい及び時数・評価等を研究し、年間指導計画の検討を進める。 ・小学校における英語活動の研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導要領の改訂内容を意識して取り組む。 ・小学校英語活動の研修・研究に取り組む。 ・授業研究を通して本校の英語活動を検討する ・IEAの活用のある方を研究する。 ・本校の英語活動の年間計画を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導要領本格実施に向け、研究を充実する。 ☆英語活動中核教員を中心に実践研究を進める。 ☆英語活動の評価と指導の検討を進める。 ☆中学校英語教員や外部指導者も活用し、英語活動の年間計画を整備する。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題:本校の考え方を職員で共通理解して取り組んだが、指導法や評価など不十分であった。	課題:英語活動の導入について、事前の準備や職員への周知など、組織的に進められ移行期への対応ができた。	課題:中核教諭を中心にして年間の研修時間を確保した。英語活動の内容や方法を検討し、指導計画の内容について一定程度の成果があった。

【逗子小学校】

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑤ キャリア教育の推進	<p>○本校の考え方を検討し、明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校におけるキャリア教育の意義について共通理解を持つ(研修会の実施)。 ・キャリア教育の全体計画を検討・作成する。 ・実践校の資料、講演会など情報を収集する <p style="text-align: center;">評価 A・B・C</p> <p>課題:取組みが不十分だった。校務分掌での位置づけがあいまいであったため、全校的な取組みに至らなかった。</p>	<p>○外部講師の指導のもと実践研究を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の意義について研修会を実施する。 ・全体計画を検討作成する。 ・各学年の取り組み案を検討し、実施する。 ・担当分掌を明確にして取り組む。 <p style="text-align: center;">評価 S・A・B・C</p> <p>課題:担当分掌を明確にしたが、今年度は研修への参加程度しかできず、本校の考え方や取り組みが不十分であった。</p>	<p>○地域の教育力を活用した実践研究の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆資料等を積極的に配布しその意義を周知する。 ☆全体計画を作成し、関連する教科で試行する。 <p style="text-align: center;">評価 S・A・B・C</p> <p>課題:担当部が職員会議で取り組みの必要性や具体的な取り組みを資料を基にして職員に周知した。</p>

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑥ 福祉教育の推進	<p>○これまでの取り組みを整理し、本校の考え方を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4学年の実践を整理し、成果等を協議する ・本校としての考え方について原案を作成する。 <p style="text-align: center;">評価 A・B・C</p> <p>課題:4年生の教育課程に位置づけ、教科や総合学習を中心に実施してきた。地域や関係機関との連携も図られている。</p>	<p>○本校の福祉教育の全体計画を作成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導要領のねらいや位置づけを明確にした全体計画や年間指導計画を検討・作成し、実施する。 <p style="text-align: center;">評価 S・A・B・C</p> <p>課題:昨年と同様に4年が教育課程に位置づけ取り組んだ。学校としての目標やねらいを明確にして取り組む必要がある。</p>	<p>○全体計画・指導計画に基づき実践する</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆低学年では福祉に関わる読書を進める。 ☆3年生以上は総合的な学習において取り組む。 ☆地域との関わりを大切に福祉活動を実施する。 <p style="text-align: center;">評価 S・A・B・C</p> <p>課題:福祉学習は学校・学年のねらいを明確にして取り組み、本校の進め方について共通理解を図った。</p>

行動プラン	H19(2007)年度実施内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑦ 環境教育の推進	<p>○本校のこれまでの環境教育の成果及び課題を明らかにし、考え方や進め方を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体計画を検討する ・今年度の取り組み状況を整理する <p style="text-align: center;">評価 A・B・C</p> <p>課題:全校的な取組みとなっていないが、各教科や活動で取り組んでいる。全校的な計画やねらいが必要である。</p>	<p>○全体計画及び目標を設定し取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年での取組みを明確にする。 ・児童会活動の中で取り組む ・家庭との連携を図り、子どもの活動を充実する ・市の認定獲得に向け取り組む。 <p style="text-align: center;">評価 S・A・B・C</p> <p>課題:今年度が環境委員会を立ち上げ、児童会組織として取り組むことができた。さらに活動を充実し、全校的な取組みが求められる。</p>	<p>○新たな目標を設定し、全校を挙げて取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆全学年で環境保護の大切さを取り上げた学習や活動を行う。 ☆児童会活動(環境委員会)でも取り組む。 ☆3年生以上は総合的な学習で取り組む。 <p style="text-align: center;">評価 S・A・B・C</p> <p>課題:環境委員会が継続的に取り組み、児童朝会でその成果を発表した。学校全体としての広がりを模索しつつある。</p>

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑧ 情報教育の推進	<p>○新たに設置されたパソコンの活用と情報モラル育成の研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会を実施し、授業の活用を進める ・情報管理マニュアルを作成する ・情報モラルの指導内容の検討 <p style="text-align: center;">評価 A・B・C</p> <p>課題:校内研修を数回実施し、機器の取扱や情報の管理の取扱規定を策定した。情報モラルの育成は不十分であった。</p>	<p>○パソコンについて職員のスキル向上を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究に取り組む ・校務に活用する研究を進める ・情報モラルの研究授業の実施 ・情報管理を徹底する。 <p style="text-align: center;">評価 S・A・B・C</p> <p>課題:各学年の活用指針を作成し取り組むことができた。情報モラルについてのねらいや指導方法などが不十分であった。</p>	<p>○パソコンについてのスキルの向上を図ると共に、情報モラルの育成に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆情報教育の指導法についての研修を実施する。 ☆系統性を踏まえた情報教育の活用を図る。 ☆情報モラルの指導計画を作成し取り組む。 <p style="text-align: center;">評価 S・A・B・C</p> <p>課題:活用方針について取り組みは進められた。◆モラルに関する研修や具体的な実践が必要である。</p>

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	<p>○説明責任を明確にして、開かれた学校づくりを一層進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや学校だよりの情報が、適時性が分かりやすい内容となるよう工夫する。 ・責任を持って取り組むため組織的に行う <p style="text-align: center;">評価 A・B・C</p> <p>課題:学校だよりを月2回発行したり、校長との懇談会や評議員会で教育方針や学校評価の説明責任を果たしてきた。ホームページの改善や更新が不十分であった。</p>	<p>・学校だよりの月2回発行したり、保護者のニーズを踏まえた内容の充実に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長との懇談会を生かし、学校の説明責任を果たす。 ・ホームページの内容を更新し、充実する。 ・保護者や地域からの声を生かした情報発信に努める。 <p style="text-align: center;">評価 S・A・B・C</p> <p>課題:情報提供については保護者からも理解を得られたが、内容の分かりやすさや充実などさらに工夫すべき点がある。</p>	<p>○説明責任を明確にして、開かれた学校づくりを一層進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆学校経営方針を全家庭に配布する。 ☆学校だよりを必要な地域に配布する。 ☆担当者を位置づけホームページの改善に努める。 <p style="text-align: center;">評価 S・A・B・C</p> <p>課題:年度当初に全家庭に経営方針のパンフレットを配布すると共に校長との懇談会で経営方針を説明し、年度末には学校評価に基づく改善点を説明した。</p>

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
② 地域教育力の活用	<p>○保護者や地域のボランティアの活用について、本校のねらいや活用要項等を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで活用した教科や学習内容を整理し、今後の活用のねらいや留意事項等を要項にまとめる。 <p style="text-align: center;">評価 A・B・C</p> <p>課題:教科や各療育でのボランティアの活用が進められたが、要項作成までは至らなかった。</p>	<p>○地域の教育力の一層の活用を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要項を作成し、年間指導計画に位置づける。 ・保護者や地域の方がボランティアを取りまとめる組織(逗子小センター)づくりを推進する。 <p style="text-align: center;">評価 S・A・B・C</p> <p>課題:要項作成などの取り組みがほとんどできなかった。地域講師などは学習活動では各学年積極的に取り組み成果が得られた。</p>	<p>○学校支援地域本部事業を立ち上げ取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆6月を目安に第1回の開催を実現する。 ☆地域連携のビジョンを作成する。 <p style="text-align: center;">評価 S・A・B・C</p> <p>課題:地域本部事業の立ち上げなどプランに基づき進めた。◆継続的・計画的な取り組みが必要である。</p>

【逗子小学校】

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 学校評価を生かした学校の改善	<p>○学校評価を見直し、結果を公表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価者を検討する(児童も含める) ・評価結果の検討を丁寧に行い、改善に生かす ・PTAや評議員等とも学校評価項目や結果について検討する <p style="text-align: center;">評価 (A)・B・C</p> <p>課題:学校評価2年目となったが、保護者の回収率が低かった。今後は回収率を高める取組みが必要である。</p>	<p>○学校評価を充実し、学校の改善に役立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者回答の回収率を高めるため、授業参観や懇談会を活用する。 ・評価項目や評価者の対象を検討する。 ・学校評価結果の生かし方を検討する。 <p style="text-align: center;">評価 S・(A)・B・C</p> <p>課題:今年度は前期評価を実施したり、全教職員を対象に自己評価をしたりして改善を図った。評価項目などの改善や評価委員の活動をさらに充実する必要がある。</p>	<p>○学校評価を改善に生かす取り組みを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆評価項目の見直しを図り、具体的な改善につなげる。 ☆評価委員会の役割や内容を充実する。 <p style="text-align: center;">評価 S・(A)・B・C</p> <p>課題:年2回の学校評価を実施し、評議員会や評価委員会、校長との懇談会、学校だよりで周知した。</p>

Ⅲ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 授業研究の充実	<p>○「ともに学ぶ学習をめざして」をテーマにした校内研究を柱に授業づくりを研究する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック研究を中心に研究を深める ・一人一実践とその経過等をとりまとめる ・外部講師による授業評価に基づく研究 <p style="text-align: center;">評価 (A)・B・C</p> <p>課題:各学年ブロックでの授業力の高めあいが充実した。外部講師の藤本先生の指導により、授業研究内容が深化した。授業力が向上しつつある。</p>	<p>・ブロック研究を授業を中心に進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが授業実践をし、公開する。 ・外部講師による授業評価を参考にした研究を進める。 ・新指導要領を意識した授業実践を進める。 <p style="text-align: center;">評価 S・(A)・B・C</p> <p>課題:指導案を作成した授業研究を実施して一定の成果が得られた。いっそう全体会の話し合いが活発になり、授業の改善につながる論議となるよう工夫が必要である。</p>	<p>○一人ひとりの授業改善につながる実践及び研究となるよう、授業研究を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆新しい指導要領の趣旨や先行実施の内容を加えた授業実践を行う。 ・一人ひとりの公開授業を実施する。 <p style="text-align: center;">評価 S・(A)・B・C</p> <p>課題:新しい指導要領の趣旨を生かした授業づくりに取り組みで、82%が役立ったとの自己評価であった。</p>

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
② 授業評価の活用	<p>○授業力高めあう職員集団をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参観の際は授業の概略を示して、参観者の評価や感想を頂く。 ・外部講師による授業評価 ・校内研究と一体化した授業評価を行う。 <p style="text-align: center;">評価 (A)・B・C</p> <p>課題:校内研究の場で授業評価を含めた話し合いが出来た。特に、授業における子どもの変容をみとりながら、授業と子どもの学習状況の関連を研究した。</p>	<p>○子どもの変容に重点を置いた授業研究を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究時に特定の児童の学習状況を把握する。 ・一人ひとりの実践に基づいた授業研究を進める。 ・新指導要領の内容を意識した授業案を試行する。 <p style="text-align: center;">評価 S・(A)・B・C</p> <p>課題:指導案や「授業観察の視点」を参考に授業研究を行い、その結果について話し合うことができた。新指導要領の教科のねらいを踏まえた実践をすることができた。</p>	<p>○子どもの変容を観点に授業改善をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究時に児童の変容を把握する。 ・一人ひとりの実践に基づいた授業研究を進める。 ・新指導要領のねらいに基づいた授業研究を行う。 <p style="text-align: center;">評価 S・(A)・B・C</p> <p>課題:新しい指導要領の趣旨を生かした授業だけでなく、一人ひとりの学びの保障という観点から個々の児童の状況を把握して、研究を進めた。</p>

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	<p>○地域の素材・教材を活用した授業に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の素材を発掘し、教材研究を進める ・地域素材発掘のための研修会を行う ・他校の実践や研究と積極的に交流を図る ・長期休業中の研修の報告会を実施する。 <p style="text-align: center;">評価 A・(B)・C</p> <p>課題:全学年での取組みには至らなかった。学年の教科や領域の中で地域教材の活用にとどまった。逗教研や年次研修・初任者研修で交流を図った。</p>	<p>○地域の素材・教材を活用した授業に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新指導要領の内容を意識した教材開発に努める。 ・他校との実践交流や情報交換を積極的に行う。 ・長期休業中の研修の報告会・情報交換会を行う。 <p style="text-align: center;">評価 S・A・(B)・C</p> <p>課題:新指導要領の内容に応じた教材の購入に組織的に取り組んだ。他校との情報交換や研修報告会など体制作りができなかった。</p>	<p>○地域の素材・教材を活用した授業に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新指導要領の内容を踏まえた教材開発に努める。 ・他校との実践交流や情報交換を積極的に行う。 ・様々な研修の報告会・情報交換を行う。 <p style="text-align: center;">評価 S・A・(B)・C</p> <p>課題:新しい指導要領における教材の開発までには至らなかった。◆指導要領の学習の必要性がある。</p>

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④ 研修事業の充実	<p>○初任研・経験者研修を全校体制で支援し、レベルアップを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業実践を公開する ・機会をとらえて経験者が積極的に指導する ・自己の研修目標を明確にして取り組む <p style="text-align: center;">評価 (A)・B・C</p> <p>課題:研修の機会を利用して全校職員が授業を公開したり、見合ったりしながらレベルアップを図った。外部講師の的確な助言も得ることができ、全体的に充実した取組みとなった。</p>	<p>○初任研や経験者研修の機会を生かして、切磋琢磨する全校体制を作り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業を公開し、意見交換をする。 ・自己の研修目標を明確にして、研修に臨む ・管理職が積極的に観察し、レベルアップを図る。 <p style="text-align: center;">評価 S・(A)・B・C</p> <p>課題:学年やブロックが中心となって、本人の授業研究を進め、レベルアップを図ることができた。また、学級指導にも積極的に関わり、学級経営の基盤づくりに寄与した。</p>	<p>○初任研・経験者研修を全校体制で支援し、レベルアップを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業実践を公開する ・自己の研修目標を明確にして取り組む ・管理職が積極的に授業参観をし、レベルアップを図る。 <p style="text-align: center;">評価 S・(A)・B・C</p> <p>課題:授業の参観だけでなく、授業後の検討会等で先輩教師からの話や情報交換など、初任研や経験者研修の機会を生かしたレベルアップを目指した。</p>

平成19年度～平成21年度 学校による点検及び評価の推移(沼間小学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 基礎学力定着のための 個に応じた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業期間中に児童実態に応じて学習についての支援を行う。 ・確実な学力の定着を図るため、少人数指導を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業期間中に児童実態に応じて学習についての支援を行う。 ・学習評価の工夫改善を図る。 ・確実な学力の定着を図るため、少人数指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業期間中に児童実態に応じて学習についての支援を行う。 ・家庭と連携を図り家庭学習の充実を図る。 ☆学年ごとの到達目標を明確化して取り組む。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 学年毎の具体的な到達目標を明確に取り組む必要がある。	課題 学力を育む基本は授業であることを大切に教育実践を進める ◆さらに重点を絞った取り組みを進め、授業の工夫を進める。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
② 読解力向上の取り組みの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・市教育研究所主催の授業力向上研修会への教員派遣。 ・国語科を中心とした授業研究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市教育研究所主催の授業力向上研修会への教員派遣。 ・県学習状況調査の客観的なデータ分析を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市教育研究所主催の授業力向上研修会への教員派遣。 ・国・県学習状況調査の客観的なデータ分析に基づいた授業改善を図る。 ☆上記調査データの活用を図る。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 県学習状況のデータ分析は行ったが活用において工夫が必要である。	課題 ◆さらに重点を絞った取り組みを進め、授業の工夫を進める。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の読書傾向を調べ、蔵書計画を立てる。 ・保護者による読み聞かせボランティアの導入を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者による読み聞かせボランティアの充実を図る。 ・市立図書館との連携を進めるための検討をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者による読み聞かせボランティアの充実を図る。 ・市立図書館との連携を進める。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 二つの読み聞かせボランティアを1つにするなど活用を図る上で成果が見られたが、市立図書館との連携の在り方は、保護者側の連携は図られたが、教職員側は充分ではなかった。	課題 今後もさらに市立図書館との連携を進める。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④ 支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要としている児童の実態調査を進め、支援の具体的対応の検討をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要としている児童の実態調査を進め、支援の具体的対応の検討をする。 ・外部機関等の専門機関と連携を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要としている児童の実態調査を進め、支援の具体的対応の検討をする。 ・外部機関等の専門機関と連携を進める。 ・支援教育を推進するための教育ボランティアの活用を図る。 ☆校内支援教育部中心の支援教育体制の充実を図る。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 ◆支援を必要としている児童への共通理解、支援について組織的な援助等について職員の理解が深まった。児童相談所、教育研究所などの専門機関との連携・強化が図られたが、校内支援教育部中心の体制づくりをさらに進める。	課題 今後も体制づくりや研修等を充実させていく

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 基本的な生活習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、保健だより、給食だよりを発行して、規則正しい生活習慣の大切さの啓発に努める。 ・小・中間における必要な情報の共有と連携について、協議を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、保健だより、給食だよりを発行して、規則正しい生活習慣の大切さの啓発に努める。 ・小・中間における、児童・生徒の指導上必要な情報の連携と研修会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、保健だより、給食だよりを発行して、規則正しい生活習慣の大切さの啓発に努める。 ・かぐのみ幼稚園、沼間愛児園も含めた連携と研修会を開催する。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 定期的なたよりの発行にとどまることなく必要に応じてお便りの発行をした。そのため、家庭の周知が図られた面もある。	課題 ◆保護者との連携を意識的に進める(懇談会の工夫、家庭訪問等を有効に活用した保護者とのコミュニケーションの充実)
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
② 豊かな心を育む教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内の縦割り活動を通して異年齢交流を進める。 ・家庭・沼間中学校と一体となった挨拶運動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年児童のリーダーシップを発揮した縦割り活動を通して異年齢交流を進める。 ・家庭・沼間中学校と一体となった挨拶運動を推進する。 ・地域行事に直接・間接参加することにより奉仕活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り活動を通して異年齢交流を進める。 ・家庭・沼間中学校と一体となった挨拶運動を推進する。 ・中学校・地域と連携した奉仕活動の取り組み。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 ◆通年を通しての縦割り活動を実施することができた。小学校・中学校が一貫として挨拶に取り組むことができたが一層の徹底を図る。	課題 家庭・沼間中学校・地域での挨拶運動を定着させる。

【沼間小学校】

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 豊かな体験活動の推進	・地域行事に直接・間接参加することにより奉仕活動に取り組む。 ・校内において芸術鑑賞会を開催する。	・地域行事に直接・間接参加することにより奉仕活動に取り組む。 ・沼小祭りを通して地域の伝承遊びを知る。	・地域行事に直接・間接参加することにより奉仕活動に取り組む。 ・校内において芸術鑑賞会を開催する。 ・沼小祭りを通して地域の伝承遊びを知る。 ☆学校支援地域本部を立ち上げる。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 地域の盆踊り会場の灯籠の製作、ふれあい市場へのジオラマ展示など地域への間接参加の機会が増えた。沼小祭りの地域の伝承遊びに参加する児童・地域の方の参加が増えた。学校支援地域本部を立ち上げる。	課題 学校支援地域本部を立ち上げ、地域、保護者、子どもたちを巻きこみ豊かな体験活動を進める。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④ 健康教育の推進	・食の指導に関する年間指導計画を策定する。 ・薬物乱用防止教育や安全教育を推進する。 ・学校給食の充実と個に応じた給食の充実に努める。	・保護者との連携を図り、健康教育の推進に向けた研修会を設定する。 ・学校給食の充実と個に応じた給食の充実に努める。	・保護者との連携を図り、性教育、健康教育を推進する。 ・学校給食の充実と個に応じた給食の充実に努める。 ☆食育全体計画を作成する。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 健康教育を家庭と連携を図り進めるため、食をテーマに講習会を開催した。 ・食育の推進を図るため、給食便りを中心に保護者・児童への啓発に努めた。HP上に給食献立の写真を毎日更新した。 ・食育全体計画を作成する必要がある。	課題 ◆子ども向けアンケートを活用して子どもたちの状況把握を適切に行う。

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育課題への対応

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進	・CAPプログラムによる防犯教室の実施 ・教職員、保護者による通学路の点検 ・町内会・自治会等による通学路パトロールの実施のための啓発活動 ・校舎内外の安全点検を実施 ・警察との連携を深める。	・CAP(子ども暴力防止プログラム)による防犯教室の実施・民間警備会社による防犯教室の実施 ・保護者・町内会・自治会等による通学路パトロールの実施のための啓発活動 ・校舎内外の安全点検を実施 ・警察との連携を深める。	・CAP(子ども暴力防止プログラム)プログラムによる防犯教室の実施 ・民間警備会社による防犯教室の実施 ・保護者による通学路の点検 ・町内会・自治会等による通学路パトロールの実施のための啓発活動 ・校舎内外の安全点検を実施☆町内会・自治会との連携を図る
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 CAP(子ども暴力防止プログラム)の他、民間警備会社による防犯教室の実施をした。通学路パトロールは学区全域に渡っているが、町内会・自治会の組織化がされていないところもあり町内会・自治会との連携には至っていないところもある。	課題 学年や発達段階に応じた安全指導を推進する。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
② いじめ・不登校等への対応の推進	・交流担当者会、支援委員会を設置し、組織的な対応を図る。 ・中学校との連携を深めるための研修会を実施する。	・交流担当者会、支援委員会を中心に、組織的な対応を図る。 ・中学校及び専門機関との連携を深めるための研修会を実施する。	・保護者の支援ニーズに対する共通理解を図るための研修会を実施する。 ・中学校及び専門機関との連携を深めるための研修会を実施する。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 支援委員会において、不登校児童や児童指導上の問題について組織的に対応・改善に努めた。沼間中学校と情報交換するとともにスクールカウンセラーを講師に研修会を実施した。	課題 児童理解の充実と問題への迅速な対応をさらに進めていく。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	・小・中の授業交流について協議する。 ・沼間愛児園、かぐのみ幼稚園との連携について検討をする。 ・部活体験をさせていただく。	・小・中の授業交流を実施する。 ・沼間愛児園、かぐのみ幼稚園の園児との交流の機会を設ける。 ・部活体験をさせていただく。	・小・中の授業交流を実施する。 ・沼間愛児園、かぐのみ幼稚園の園児との交流の機会を設ける ・沼間愛児園、かぐのみ幼稚園、沼間小・中との指導上必要な情報共有と連携に努める
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 沼間中学校の校長をはじめ教員による授業を実施した。沼間愛児園、かぐのみ幼稚園との授業交流を実施した。沼間中学校の部活体験を6年全員に実施した。	課題 ◆幼・保・小・中の連携では引き継ぎに関わる連携だけでなく、その後の育ち等について交流場面があるとよい。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④ 国際理解教育の推進	・英語活動のカリキュラムの再検討 ・英語活動の授業のための授業研究を実施 ・異文化理解・他文化共生のための人的な資源発掘に努める。	・英語活動の授業のための授業研究を実施 ・異文化理解・他文化共生のために体験入学者や地域の教育力を活用する。	・英語活動の授業を実施 ・異文化理解・他文化共生のために体験入学者や地域の教育力を活用する。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 英語活動(外国語活動)のために研修会を19時間分計画実施した。併せて、授業研究を実施した。異文化理解を推進するため、外国人の体験入学を受け入れたがこれらの体験を生かしていきたい。	課題 国際理解教育の視点を持って外国語活動を充実させていく。

【沼間小学校】

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑤ キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の共通理解を図るために、キャリア教育の研修会に職員を派遣する。 「能力・態度」の育成を軸とした学習プログラムの開発に努める。 勤労生産・奉仕の活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもによる沼小祭りにおけるショップ出店により、職業体験をさせる。 勤労生産・奉仕の活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもによる沼小祭りにおけるショップ出店を増やし職業体験をさせ、さらに取り組みを発展させる。 「能力・態度」の育成を軸とした学習プログラムの再検討に努める。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 沼小祭りに於ける子どもショップ出店を前年の倍に増やすことはできたが、全校的な取り組みには至らなかった。	課題 キャリア教育の共通理解を図るために、キャリア教育の研修を進める。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑥ 福祉教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育を推進するために、社会福祉協議会の協力を得て、体験活動を進める。 総合学習の時間等を活用し福祉教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の高齢者を招き、温かい関係作りを推進するための体験活動を進める。 総合学習の時間等を活用し福祉教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育を推進するために、社会福祉協議会の協力を得て、体験活動を進める。 総合学習の時間等を活用して福祉教育を推進し、充実させる。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 運動会・音楽会等の学校行事に地域の高齢者を招待した。福祉教育は4年、5年生が総合学習を中心に実施した。社会福祉協議会等の関係機関との連携も図られたがさらに充実させたい。	課題 総合学習の時間等を活用して福祉教育を推進し、教育課程を充実させる。
行動プラン	H19(2007)年度実施内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑦ 環境教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育を推進するために、学年に応じた体験活動を進める。 稲作のための田んぼを作る。 環境教育を保護者め地域に広がることを期待してビオトープの計画策定にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育を推進するために、学年に応じた体験活動を進める。 田んぼの改修をする。 ビオトープ作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育を推進するために、学年に応じた体験活動を進める。 田んぼ、ビオトープの維持管理をする。 ☆「特色ある学校づくり」の市委託を受け、実践していく。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 グリーンカーテンの取り組みはできたが、田んぼの改修は現況でも活用できたため、次年度の計画とした。ビオトープの計画は田んぼの改修と一体として進めていく。	課題 環境教育を推進するために、学年に応じた体験活動を充実させる。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑧ 情報教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器の活用能力の育成に努める。 情報リテラシーの育成やモラルの教育に努める。 HPの週に1回の更新を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器の活用能力の育成に努める。 情報リテラシーの育成やモラルの教育に努める。 機器更新を機会に、情報教育の授業に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 機器更新を機会に、校内LANの研究に着手する。 情報リテラシーの育成やモラルの教育に努める。 ☆個人情報保護の周知徹底を図り、事故防止に努める。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 機器更新に伴い、校内研修会を実施した。情報教育の授業研究に取り組んだ。USBの保管・管理も含め情報モラルの育成、個人情報の保護について周知した。	課題 各教室配置になった情報機器を有効に活用し、授業効果を高める。

II 課題に迅速に対応する学校づくり

2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事への直接・間接参加をする。 HPの毎週更新をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事へ、作品による参加とともに人的参加の検討をする。 HPの毎週更新をする。 HPにPTAの参加を得て、情報の発信をする。 授業参観等を活用して家庭との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事へ、作品による参加とともに人的参加をする。 ホームページの毎週更新をする。 授業参観を活用して家庭と連携を図る。 ☆ホームページを充実させる。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 地域イベントへの作品参加は推進できたが、人的な参加には至っていない。HPの更新は食育面では達成したが、他は不十分であった。	課題 学校評価の公開や説明会を実施していく。
行動プラン	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容	
② 地域教育力の活用	<ul style="list-style-type: none"> 教育ボランティア活動への参加依頼を進める。 読み聞かせボランティア活用 クラブ活動への地域教育力活用の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 教育ボランティア活動(支援教育も含め)への参加依頼を進める。 読み聞かせボランティア活用の充実を図る。 クラブ活動への地域教育力の活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育ボランティア活動(支援教育も含め)への参加依頼を進める。 読み聞かせボランティア活用の充実を図る。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 福祉教育や地域学習さらには鎌倉学習など保護者を中心とした教育ボランティアの活用を図った。読み聞かせボランティアの一層の活用が図られたがさらなる充実を目指したい。	課題 学校支援地域本部事業を有効に機能させ、活用していく。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 学校評価を生かした学校の改善	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の検討・自己、外部評価実施。 第三者による評価も含めて研修実施。 学校評議員会の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の検討・自己、外部評価実施。 学校説明会、授業公開等を活用して、学校の評価を発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の内容検討。 自己評価と併せた学校関係者評価の実施。 ☆学校評価のホームページ上での公開を検討する。 学校説明会、授業公開等を活用して、学校の評価を発信していく。 学校評議員会の充実を図る。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 自己評価、学校関係者評価を実施し、公表した。学校説明会において、評価の一部を公表した。ホームページ上に工夫して公開する。	課題 自己評価と併せた学校関係者評価を実施し、学校評価を充実させる。

Ⅲ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 授業研究の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を公開する。 ・外部講師を招聘する。 ・他校の研究発表に教員を派遣する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を公開し、学校間の実践交流を進める。 ・外部講師を招聘し授業研究をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を公開し、学校間の実践交流を進める。 ・外部講師を招聘し授業研究をする。 ・教育研究所や他機関に教員を派遣し、本校の授業研究に資する資料収集・教材研究に努める。 ☆日常の授業に成果を生かしていく。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 逗子教育研究会、研究所の研究会主催の授業研究に積極的に参加し授業公開に努めた。市教育委員会委託研究における授業研究は3教科アプローチとし、外部講師の招聘もすすめたので授業に生かしたい。	課題 授業研究の日常化で質の高い授業づくりを進めていく。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
② 授業評価の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価シートの活用検討。 ・学習状況調査の分析。 ・授業力向上の授業研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価シートの活用。 ・学習状況調査の分析。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による授業評価も含めたような観点から授業評価を行う ・学習状況調査の分析結果を日常の指導に活用する。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 学習状況調査の分析は進めたが活用には課題が残った。	課題 学力向上に向け、授業評価を活かしていく。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域素材活用のため、講師を招聘しての研修会開催。 ・地域素材を活用した小・中学校の連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域素材活用のため、講師を招聘しての研修会開催。 ・地域素材を活用した小・中学校の連携授業。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域素材活用のため、講師を招聘しての研修会開催。 ・地域素材を活用した小・中学校の連携授業の実践を進める。 ・地域の郷土資料館を活用する。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 地域教材の活用は図ることができたが、講師を招聘しての研修会は開催できなかった。	課題 地域素材活用のための研修会を開催し、教材を開発する。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④ 研修事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・研究所及び学校教育課、県教育委員会主催の研修会に教員を積極的に派遣する。 ・自主的な教員研修を支援する体制を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究所及び学校教育課、県教育委員会主催の研修会に教員を積極的に派遣する。 ・自主的な教員研修を支援する体制を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究所及び学校教育課、県教育委員会主催の研修会に教員を積極的に派遣する。 ・校内で相互に教員研修を実施する。 ・経験年数に応じた職能開発の検討。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 校内研究にとどまることなく、様々な研修の機会を活用して授業力向上に向けて、組織的に取り組んだが経験年数に応じた職能開発も必要である。	課題 校内での教員研修を充実を図る。

平成19年度～平成21年度 学校による点検及び評価の推移(久木小学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 基礎学力定着のための 個に応じた指導の充実	・学習環境の充実整備 ・少人数指導やTT、小集団など多様な学習形態を検討	・学習環境の充実整備 ・少人数指導やTT、小集団など多様な学習形態を工夫	・学習環境の充実整備 ・少人数指導やTT、小集団など多様な学習形態を充実
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題◆教材教具が古く、施設設備も含め一層の改善が必要である	課題・今年度は教材教具、施設設備の改善・学習形態の工夫に担当学年で連携を図り取り組むことができた	課題・担当学年で連携を図り、教材教具、施設設備の改善・学習形態の工夫に計画的に取り組むことができた。
② 読解力向上の取り組みの 推進	H19(2007)年度予定内容 様々な文章、資料を読む機会、場の設定をする	H20(2008)年度予定内容 様々な文章、資料を読む機会や意見を述べる機会を日常的に充実させる	H21(2009)年度予定内容 自分の考えを述べたりする機会を充実し、コミュニケーション能力を高める
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題◆調べたものをこれからどのように発信するかが今後の課題である	課題・聞いたり読んだりするという受信の活動と共に、書いたり話したりという発信の活動を充実させ、総合的にコミュニケーション能力を高めた	課題・研究会や外部からの講師を招き、言語活動の充実を図り、総合的にコミュニケーション能力を高めた
③ 読書活動の推進	H19(2007)年度予定内容 ・お話しボランティアの人達と司書教諭、学校図書館指導教諭の連携を深める ・本の配架の工夫・配置換えをする ・基準を基にして本を入換える	H20(2008)年度予定内容 ・図書館ボランティアを学校だより等を通して募っていく ・朝読書を推進していく ・見やすい掲示板をつける	H21(2009)年度予定内容 ・図書室を整備していく ・第二図書室を充実させる ・前年度の活動を見直して、充実させていく
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題◆地域・ボランティアとの連携の取り方が今後の課題である	課題・読書推進に努める子ができたが、おはなし会のボランティアの方との連携の引き継ぎと、図書館ボランティアの運営の仕方が今後の課題である	課題・おはなし会のボランティアの方と連携や引継ぎを密にし、計画的に進めることができた
④ 支援教育の充実	H19(2007)年度予定内容 ・校内の組織を立ち上げ、支援を必要とする子ども達のニーズの把握や具体的な対応を他機関と連携しながらすすめる	H20(2008)年度予定内容 ・校内組織を機能させ、他機関との連携を深めながら、チームの支援体制をつくっていく	H21(2009)年度予定内容 校内組織及び、支援体制の機能を充実させていく
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題◆さらに外部の専門機関等の連携を深めると共に進めていく	課題◆外部の専門機関との連携を深めることができた。さらに、チームでの支援体制を充実できる校内組織を機能させていきたい。	課題教育相談コーディネーターや関係機関との連携を円滑に図り、チーム体制を充実し機能的に活動できた

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 基本的な生活習慣の 育成	「決められたルールや時間を守る」「公共物を大切にすること」についての指導などの学校という場での基本的な生活習慣について学校から発信し、保護者と連携を図りながら取り組む	「決められたルールや時間を守る」「公共物を大切にすること」などの学校という場での基本的な生活習慣について学校から発信し、保護者と連携を図りながら取り組む ・児童指導支援部が中心となり児童指導の年間計画を立て取り組みたい	「決められたルールや時間を守る」「公共物を大切にすること」などの学校という場での基本的な生活習慣について学校から発信し、保護者と連携を図りながら取り組む
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題◆児童指導支援部としての年間計画を立て取り組みを広げていきたい	課題・児童指導支援部の年間指導計画づくりに取り組み、教育相談コーディネーターとの連携を図りながら進めることができたがさらに充実を図る必要がある	課題・児童指導支援部が中心となり児童への呼びかけを図るとともに、PTA運営委員会、学校だより等でも話題として取り上げ、地域、保護者、学校と連携を図りながら進めることができた
② 豊かな心を育む教育の 充実	H19(2007)年度予定内容 ・学校行事・児童会行事を通して学校内における縦割り集団を活用し、異年齢交流を進める ・学校行事・児童会行事を通して児童の人間関係づくりに取り組む ・地域の教育力を活用して、地域・保護者・児童の交流を進める	H20(2008)年度予定内容 ・学校行事・児童会行事を通して学校内における縦割り集団を活用し、異年齢交流を進める ・学校行事・児童会行事を通して児童の人間関係づくりに取り組む ・地域の教育力を活用して、地域・保護者・児童の交流を進める	H21(2009)年度予定内容 ・学校行事・児童会行事を通して学校内における縦割り集団を活用し、異年齢交流を進める ・学校行事・児童会行事を通して児童のよりよい人間関係づくりに取り組む ・地域の教育力を活用して、地域・保護者・児童の交流を深める
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題◆行事を通しての交流が深まってきた。高学年はグループリーダーということ意識も変化してきている。行事以外の交流も考えていきたい	課題・地域の教育力を活用したり外部教育力を活用したりして、地域・保護者・児童の関係を深めることができた。さらに充実を図りたい。	課題・昨年度に引き続き、地域教育力や外部教育力を活用し、地域・保護者・児童の関係を交流を深めることができた
③ 豊かな体験活動の 推進	H19(2007)年度予定内容 ・様々な人々との交流場面を設定し、場面に応じた対応などについて学習する場や機会をつくる	H20(2008)年度予定内容 ・様々な人々との交流場面を設定し、場面に応じた対応などについて学習する場や機会の充実を図りたい。	H21(2009)年度予定内容 ・様々な人々との交流場面を設定し、場面に応じた対応などについて学習する場や機会の一層の充実を図る
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題◆地域の人々をはじめとし、様々な体験をすることができた。また、多くの交流場面を設定できた。さらに計画的・継続的に交流を増やしていきたい	課題◆地域の人々をはじめ、外部から講師を招くなど多くの交流場面を設定できた。更に、計画的・継続的に実施していくことで、一層の充実を図りたい。	課題・地域の人々をはじめとし、様々な体験をすることができた。また、多くの交流場面を設定できた。今年度は計画的・継続的に交流を増やし、充実を図ることができた

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④ 健康教育の推進	・健康の維持増進に向け、基本的な生活習慣の育成や発達段階に応じた健康教育を行う	・健康の維持増進に向け、基本的な生活習慣の育成や発達段階に応じた健康教育を行う ・食教育、健康教育などを推進していく	・健康の維持増進に向け、基本的な生活習慣の育成や発達段階に応じた健康教育を行う ・食教育、健康教育などを推進していく ☆食教育の全体計画作成を進めたい
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題◆基本的な生活習慣の育成については、年間を通して強化する時期とそうでない時期にばらつきが出てしまった。年間を通して実践できるよう工夫していきたい	課題◆今年度は、自分の命も人の命も大切にするという、大きなくりの中で、健康教育について取り組むことができた。さらに食教育にも重点を置き取り組んでいきたい。	課題・基本的な生活習慣の育成については、年間を通して実践できるよう保健安全給食部や児童指導支援部より目標を出したり、PTA運営委員会で取り上げたりして内容の充実を図った

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育課題への対応

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進	・子どもの安全確保のための研修会、防犯訓練等を行い児童、教職員の意識を高める ・地域のパトロール体制に協力する	・子どもの安全確保のための研修会、防犯訓練等を行い児童、教職員の意識を高める ・地域のパトロール体制に協力する ・自然災害に対応した、施設面の整備	・子どもの安全確保のための研修会、防犯訓練等を行い児童、教職員の意識を高める ・地域のパトロール体制に協力する ・児童参加型の不審者対応訓練の実施 ☆地域と連携した防災計画を検討する
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題◆教師も子ども達も自分の命は自分で守れるように危機回避の方法を知ることができた。さらに教職員の防犯、防災訓練により、不備な点を整備していきたい	課題◆今ある防災計画を見直し、より緊急時に素早く対応できる取り組みを検討した。さらに、地域防災との連携を考えた計画づくりに取り組みたい。	課題・教師も子ども達も自分の命は自分で守れるように危機回避の方法を知ることができた。今年度は教職員の防犯、防災訓練により、不備な点を整備・改善を図ることができた

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
② いじめ・不登校等への対応の推進	・児童指導・支援部を中心とし、個別支援に対応できる体制を整備する ・保護者・他機関との連携を充実させる ・児童の日常の言動を良く観察し、理解を図ると共に、いじめ問題については意図的に授業や学級指導に組み入れる	・児童指導・支援部を中心とし、個別支援に対応できる体制を整備する ・保護者・他機関との連携を充実させる ・児童の日常の言動を良く観察し、理解を図ると共に、意図的に授業や学級指導に組み入れる	・児童指導・支援部を中心とし、個別支援に対応できる体制を整備する ・保護者・他機関との連携を充実させる ・児童の日常の言動を良く観察し、理解を図ると共に、意図的に授業や学級指導に組み入れる ☆教育相談コーディネーターを中心とした支援の充実を図る
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題◆支援についての体制づくりを進めることができたが、今後さらに充実させていく必要がある	◆教育相談コーディネーターを中心とし、支援を進めることが出来た。今後さらに充実させていく必要がある。	課題・教育相談コーディネーターを中心とした支援体制づくりを進めることができた

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	・幼・保・中と連携し支援教育の推進を図る ・就学前の教育機関と情報交換のシステムを確保する	・幼・保・中と連携し支援教育の推進を図る ・交流計画の作成及び実施	・幼・保・中と連携し支援教育の推進を図る ・就学前の教育・小学校教育の相互理解を図る
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題◆年度末の情報交換を次年度の学級編成にいかすことができた。今後も授業参観や授業交流を積極的に行い、教師間の連携を図っていききたい	課題◆2月に「ようこそ久小集い」を開き、地域の幼稚園・保育園との交流の場をもった。次年度入学予定児童について、幼保との情報交換を行い、学級編成に役立てた。定期的に幼保間で交流を深めていきたい。	課題◆年度末の情報交換を次年度の学級編成にいかすことができた。また、授業参観や授業交流を積極的に行い、教師間の連携を図れた

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④ 国際理解教育の推進	・市が各校に派遣しているIEAをはじめとする外国の人やその人達の持つ文化にふれる ・将来のコミュニケーション能力育成のため、実体験を通して英語に慣れ親しむ	・英語を世界とふれあえる世界共通語にとらえ、英語による異文化理解とコミュニケーション能力の育成を図る	・担任が中心となり、IEAや英語ボランティアを活かした英語による異文化理解とコミュニケーション能力の育成を図る ☆外国語教育の県指定研究を推進する
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題◆新学習指導要領実施に向けて一部担任が中心となる英語授業を行うことができたが、IEAとの打合わせが充分でできなかった	課題・従来の国際理解教育の成果を踏まえ、2011年度から実施される外国語活動のとりえ方に関して教師間の共通理解を図れた。国際理解教育支援員を積極的に活用し様々な異文化理解の機会を設け、英語を用いたコミュニケーション能力の育成に努めた。	課題・校内研究や外部講師を招いての学習会を行い外国語活動の捉え方について共通理解を図ることができた。また、国際理解教育支援員を積極的に活用し異文化理解やコミュニケーション能力の充実を図った

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑤ キャリア教育の推進	・教職員のキャリア教育について研修の充実 ・清掃等の当番活動、委員会活動の活性化 ・家庭での役割分担についてPTA活動等をとらして積極的に呼びかける	・児童会活動の活性化により当番・委員会の充実を図る ・子どもの発達段階に応じて、将来の生き方についての学習計画を立てる	・子どもの発達段階に応じて、将来の生き方についての学習計画をより充実させる
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題◆清掃等の当番活動、委員会活動の活性化については、まだ継続中である	課題◆少しずつではあるが、社会の一員であることを自覚してきている。さらにキャリア教育のねらいを明確にし、継続していきたい。	課題・清掃等の当番活動、委員会活動の活性化を図ると共に、学年では子ども達の発達段階に応じた内容の将来の生き方についての話を進めた

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑥ 福祉教育の推進	・子ども達の発達段階に応じた福祉教育や人権教育の推進をし、体験的な活動を実施する	学習での体験をもとに、学校外でのボランティア活動など他機関や地域との連携のもと、人権・福祉に関する活動を推進していく	人権・福祉に関する取り組みについて見直し、さらに子ども達の生活に根ざした福祉教育を検討し開発していく ☆地域講師活用の推進を図る
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題◆さらに系統的な学習が行えるよう、実践のデータベース化を図ると共に、関係諸機関との連携や協力を仰いでいきたい。	課題・今後、学年・学級単位での体験学習だけでなく、更に、他学年や関係機関との連携や協力を仰いで活動の充実を図っていききたい。	課題◆子ども達の発達段階に応じた福祉教育や人権教育に計画的な学習が行えるよう、関係諸機関との連携や協力を仰ぎ内容の充実を図った

行動プラン	H19(2007)年度実施内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑦ 環境教育の推進	・環境教育の年間計画を作成する ・小中学校担当者による情報交換	・環境教育の年間計画を作成する ・小中学校担当者による情報交換 ・マイアジェンダの登録検討	・環境教育の年間計画を作成する ・小中学校担当者による情報交換 ・マイアジェンダの登録
	評価 A・B・C 課題◆紙の裏面使用や節水節電は学校でおおよそ浸透しているが、より日常化するには、もう少し時間と環境整備が必要である。	評価 S・A・B・C 課題◆日常の取り組みは、意識化出来つつあるが、引き続き整備を進めていきたい。	評価 S・A・B・C 課題◆紙の裏面使用や節水節電は学校でおおよそ浸透している。今後も環境教育の年間計画等作成について充実を図っていきたい
⑧ 情報教育の推進	H19(2007)年度予定内容 ・情報機器を活用した授業の充実を図る	H20(2008)年度予定内容 ・情報機器の活用をさらに充実させ、情報を読み解く力の育成を図る	H21(2009)年度予定内容 ・情報リテラシーの育成に向けてパソコン環境の整備を行い、情報教育の授業を充実させ
	評価 A・B・C 課題◆情報機器を積極的に授業や行事に活用しようと様々な場所に工夫が見られた。さらに充実させていきたい	評価 S・A・B・C 課題◆コンピュータ室も新しくなり、情報機器の活用は充実してきている。今後は機器を活用し、情報教育の授業も充実させたい。	評価 S・A・B・C 課題◆情報機器を積極的に授業や行事に活用しようと様々な場所に工夫が見られた。さらに充実させていきたい

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	・学校便り等で情報発信を進める ・ホームページを充実させ情報発信を進める ・個人情報に十分留意しつつ情報発信を進める ・家庭、地域社会との連携を深める	・学校便り等で情報発信を進める ・ホームページを充実させ情報発信を進める ・個人情報に十分留意しつつ情報発信を進める ・家庭、地域社会との連携を深める	・学校便り等で情報発信を進める ・ホームページを充実させ情報発信を進める ・個人情報に十分留意しつつ情報発信を進める ・家庭、地域社会との連携を深める
	評価 A・B・C 課題◆学校便りの充実を図り保護者や地域にPRした。さらに保護者・地域へ情報発信を進めていきたい	評価 S・A・B・C 課題◆学校便り、ホームページ、掲示板等で地域・保護者へ計画的に情報を伝えることができた。さらに地域への情報発信について充実を図りたい	評価 S・A・B・C 課題◆学校便り、ホームページ、掲示板活用等で地域・保護者へ計画的に情報を伝えることができた。また、学校便りは地域にも回覧でより多くの情報を提示できた
② 地域教育力の活用	H19(2007)年度予定内容 ・外部の人材等の教育力の積極的な活用をすすめる ・教職員、保護者、地域の方々と教育的コミュニケーションを推進する	H20(2008)年度予定内容 ・外部教育力の活用について、学校全体の整理調整を行いより計画的・効果的な活用をすすめる	H21(2009)年度予定内容 ・外部教育力の活用について、学校全体の整理調整を行いより計画的・効果的な活用をすすめる ・地域の教育力再生と新たな地域の教育コミュニティづくりを推進する
	評価 A・B・C 課題◆登録簿の分類・整理を進め、活用の幅を広げたい。	評価 S・A・B・C 課題◆外部教育力の活用について、学校全体の整理調整を行いより計画的・効果的な活用をすすめる事ができた。	評価 S・A・B・C 課題◆外部教育力の活用を年間計画を作成し計画的に進めることができた
③ 学校評価を生かした学校の改善	H19(2007)年度予定内容 ・授業、行事等について外部アンケートを実施 ・児童アンケートの実施 ・アンケート結果を学校便りにて考察・公表 ・内部評価をまとめ次年度の教育活動立案に結びつけ公表する	H20(2008)年度予定内容 ・教育活動全体を見通して外部アンケート・児童アンケートの計画の見直しを行う ・年度末に学校関係者評価委員会を実施 ・PDCAサイクルの整理構築	H21(2009)年度予定内容 ・年間2～3回の外部評価委員会を実施 ・年度末に学校関係者評価委員会を実施 ・PDCAサイクルの整理構築 ☆学校評価結果の活用を図りたい
	評価 A・B・C 課題◆児童、保護者、地域、教師にアンケートを実施し、アンケート結果、考察を学校便りに公表した。さらに内部評価をまとめて次年度の教育活動立案に結び付けていきたい。	評価 S・A・B・C 課題◆児童、保護者、地域、教師にアンケートを実施し、アンケート結果、考察を昨年度と比較し、今後の課題等を学校便りに公表した。さらに内部評価をまとめて次年度の教育活動立案に結び付けていきたい。	評価 S・A・B・C 課題◆児童、保護者、地域、教師にアンケートを実施し、アンケート結果、考察を学校便りに公表した。また、内部評価をまとめて次年度の教育活動立案に結び付けていくことができた。

III 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 授業研究の充実	・校内研究を中心に、授業研究を活性化させる ・研究協力者・講師を活用し、充実した研究会を開催する ・よりよい授業づくりにむけて、全教職員が連携、協働する	・校内研究を中心に、授業研究を活性化させる ・研究協力者・講師を活用し、充実した研究会を開催する ・よりよい授業づくりにむけて、全教職員が連携、協働する	・校内研究を中心に、授業研究を活性化させる ・研究協力者・講師を活用し、充実した研究会を開催する ・よりよい授業づくりにむけて、全教職員が連携、協働する
	評価 A・B・C 課題◆学年協働と講師の参加により、授業研究が活性化した。継続して授業研究を進めたい。	評価 S・A・B・C 課題◆校内研究テーマに沿って学年研究を進め、各学年が研究授業を行い、全教職員で討議した。これからの実践に活かしたい	評価 S・A・B・C 課題◆学年協働と外部講師の参加により、授業研究の充実を図ることができた
② 授業評価の活用	H19(2007)年度予定内容 ・学習評価のあり方とともに授業評価について検討をすすめる。 ・学校評価・学習状況調査・学力調査等を参考として授業改善をすすめる。 ・外部講師等の教育専門家を活用した授業評価を行う	H20(2008)年度予定内容 ・学校評価と連動した授業評価の在り方を検討する。 ・学校評価・学習状況調査・学力調査等を参考として授業改善をすすめる ・校内組織に評価検討部を設けて今年度から活動することにした。授業評価のより充実を図りたい	H21(2009)年度予定内容 ・学校評価と連動した授業評価の充実をすすめる ・学校評価・学習状況調査・学力調査等を参考として授業改善をすすめる ・授業評価について学校評価を行い、その成果と課題について検証し、教育活動の向上を図る
	評価 A・B・C 課題◆校内研究と一体化した授業評価を行うため外部講師を招き検討した。校内組織に評価検討部を設けて次年度から活動することにした。授業評価のより充実を図りたい	評価 S・A・B・C 課題◆今年度は、校内組織に評価検討部を設けて活動することができた。今後は、さらに授業改善や授業評価のより充実を図りたい	評価 S・A・B・C 課題◆校内研究と一体化した授業評価を行うため外部講師を招き検討した。校内組織に評価検討部を設けて次年度から活動することにした。授業評価のより充実を図ることができた

【久木小学校】

行動プラン		H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進		身近な地域素材について、情報を収集する	収集した情報を基に、教材化に向けて検討する	素材を整理しながら、目的に応じた使用の仕方を考え、教材として活用する
		評価 A・㊸・C	評価 S・㊸・B・C	評価 S・㊸・B・C
		課題◆生活科・図工で地域素材が活かされた。田植え、稲刈り体験ができた。実際に歩いて地域を知ることにより、教材開発のスタートになる。歴史、自然についての情報をさらに収集したい	課題・生活科・図工で地域素材が活かされた。田植え、稲刈り体験ができた。今後も素材を整理しながら、目的に応じた使用の仕方を考え、教材として活用していきたい。	課題・生活科・図工で地域素材が活かされた。今年は大豆作りや田植え、稲刈り、脱穀体験ができた。また、講師の方と実際に歩いて地域を探索することにより歴史、自然についての情報を収集した。
行動プラン		H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④ 研修事業の充実		・校内研修の充実に努めるとともにそれぞれの課題ごとに校外での研修・研究会へ積極的に参加し校内で共有化していく体制作りをすすめる ・教職員が研修に自主的に取り組めるよう支援体制づくりをすすめる	・校内研修の充実に努めるとともにそれぞれの課題ごとに校外での研修・研究会へ積極的に参加し校内で共有化していく体制作りをすすめる ・教職員が研修に自主的に取り組めるよう支援体制づくりをすすめる	・校内研修の充実に努めるとともにそれぞれの課題ごとに校外での研修・研究会へ積極的に参加し校内で共有化していく体制作りをすすめる ・教職員が研修に自主的に取り組めるよう支援体制づくりをすすめる☆研修時間を確保していく
		評価 A・㊸・C	評価 S・㊸・B・C	評価 S・㊸・B・C
		課題◆校内研修の充実に努めると共にそれぞれの課題ごとに校外での研修・研究会に参加することはできていたが、校内で共有化して行く体制にはいたらなかった	課題◆様々な企画で校内研修を進めることができた。校外での研修に参加した教職員が、その内容を校内に伝達するよう努めた。	課題・校内研修の充実に努めると共にそれぞれの課題ごとに校外での研修・研究会に参加することができた。また、研修内容を校内で共有化することができた

平成19年度～平成21年度 学校による点検及び評価の推移(小坪小学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
①基礎学力定着のための個に応じた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導やチームティーチング ・学習環境の整備・習熟度別や異質グループ等の学習形態を取りながら、個別指導を充実させる。T・Tの活用を図る ・家庭との連携をとりながら家庭教育の充実を図る ・計算テスト、漢字テストを行い、その分析を進める ・県・市の学力テストの活用方法の検討をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導やチームティーチング指導方法の工夫改善に取り組む ・個に応じた家庭学習の課題を持たせ取り組ませる ・家庭へも趣旨を伝え協力を依頼する ・年間を通して学年末診断テストを生かした指導を図る ・検討した結果を検証する 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導やチームティーチング指導方法の工夫改善の取り組みの総括 ・児童が自主的に課題学習の課題を持って取り組み、定着が図れるように指導する ・自ら課題に取り組む学習方法の定着を目指す ・分析に基づいて、テスト内容の適否を検証する ・活用を年間の教育課程に位置づける
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆家庭学習の内容の工夫	◆家庭学習の取り組みの依頼を積極的にする	◆一人学びの推進
②読解力向上の取り組みの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の図書や資料の積極的活用を図る ・コミュニケーション力の向上をめざす授業研究を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校独自の図書資料作成や収集を進める ・コミュニケーション力の向上をめざす授業を実践で検証する 	<ul style="list-style-type: none"> ・☆学校独自の図書資料の作成を行う授業に活用しやすい図書資料一覧を作成する ・コミュニケーション力の向上が図られているか検証の在り方を検討し、総括する。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆	◆独自の図書資料の作成までには至らなかった	◆図書資料は活用したが、一覧の作成には至らなかった。
③読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・小坪小の特色であり、日常活動を通して継続充実に努める 朝読書・アニメーション・ブックトーク等の活動 図書ボランティアによる読み聞かせ 図書指導員との連携等 ・小坪小選定図書の改訂版を作成する併せてその利用方法9月以降に低中高で検討を行う ・読書の幅の拡大を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・小坪小の特色であり、日常活動を通して継続充実に努める ・関係機関との連携を図る取り組みを進める ☆学級における読書活動の見直しをはかる。 ・改訂版の活用を積極的に推し進める・展示方法の工夫をさらに進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・小坪小の特色であり、日常活動を通して継続充実に努める ・関係機関との取り組みの中で、読書活動の定着を図る ・活用事例を冊子にまとめる ・蔵書の充実を図る
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆教員の取り組みの一層の充実		◆読書活動推進に児童の発想を生かしていきたい
④支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援教育チームを活用し、組織的な取り組みをより推進する ・特別支援学級の学校としての役割を再検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な支援教育体制について検討する ☆交流担当者会の計画的取り組み ・特別支援学級の役割を受け入れ学級だけでなく、学年学校の児童にも分かりやすく伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対外機関との連携の在り方を検討する ・特別支援学級の児童との交流の機会を増やす
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆情報共有のあり方について検討		◆普通級における支援を今後も検討していく

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
①基本的な生活習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的行動目標・学年別行動目標と繋がりをもち目標を立て、具体的方法を考えながら指導する ・使ってはいけない言葉を使わないよう指導の徹底を図る ・行動目標に関する保護者・地域への広報を積極的に行う 保護者会・PTA各種会議 小坪小HP・学校学年だより等 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の反省を生かしながら、今年度の具体的方法を考える ・使ってはいけない言葉について、児童の実態を把握し、指導の評価を行う ・行動目標に関する保護者・地域への広報を積極的に行う ・地域への広報を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた指導の工夫を図る・言葉遣い全体について考えて、検討してみる ☆言葉遣いについての指導の評価を行う ・行動目標に関する保護者・地域への広報を積極的に行う ・保護者、地域との双方向の取組を目指す
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆	◆言葉について指導の評価までは至らなかった	◆家庭の役割を積極的に提言したい

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
②豊かな心を育む教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 基本的行動目標・学年別行動目標と繋がりを持った目標を立て、具体的方法を考えながら指導する 児童のコミュニケーション力を高めるために縦割り集団活動を行う 砂まつり、運動会、委員会、クラブ活動 児童朝会、なわとび大会等 行動目標に関する保護者・地域への広報を積極的に行う(特に挨拶等) 保護者会・PTA各種会議・地域の諸会議 小坪小HP・学校学年だより等 児童会が中心となり「あいさつ運動」に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の反省を生かしながら、今年度の具体的方法を考える・コミュニケーションを高めるための具体的な手だてについて検討する 行動目標に関する保護者・地域への広報を積極的に行う・地域への広報を図る・クラスでの「あいさつ運動」に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の反省を生かしながら、今年度の具体的方法を考える コミュニケーションを高めるための具体的な手だてについて実践する 行動目標に関する保護者・地域への広報を積極的に行う・保護者、地域との双方向の取組を目指す 児童一人ひとりのあいさつ運動の具現化に取り組む
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆	◆あいさつについては児童と大人の感じ方が異なる	◆保護者、地域への働きかけの継続
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③豊かな体験活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 小坪の自然・人等地域とのふれあい活動の充実を図る ようこそ小坪小へ、お年寄りとのふれあい 逗子音頭指導、昔のあそび、わかめの種付け、福祉体験等 	<ul style="list-style-type: none"> 小坪の自然・人等地域とのふれあい活動の充実を図る 福祉体験学習では、様々な障がいを持った方々とふれあいながら相互理解を深め、日常生活に生かしていけるようにする ☆ふれあい活動を教育課程に位置づける 	<ul style="list-style-type: none"> 小坪の自然・人等地域とのふれあい活動の充実を図る 全校での取り組みの精選を図る ☆ふれあい活動を系統立てて整理する
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆ふれあい活動全体計画の検討が必要	◆実施内容を整理し、系統立てる必要がある	◆地域行事への積極的な参加をすすめる
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 健康についての関心を高め、基本的生活習慣の定着を目指した年間指導計画を作成する 食教育の年間計画を立て、実践し、検討する 小坪小HPにて「おいしい給食」コーナーを設け広報と啓発を図る 各学級に今日の給食についてコメントを届 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの学年で、実践検討する。 それぞれの学年としてのねらい 教科・方法等の検討をする・小坪小HPにて「おいしい給食」コーナーを設け広報と啓発を図る職員の共通理解を図り、継続的な取り組みとなるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 小坪小学校としての健康教育の実践計画をもとに保護者と共に活動を推進する 小坪小学校としての食教育の実践計画をもとに保護者と共に活動を推進する 小坪小HPにて「おいしい給食」コーナーを設け広報と啓発を図る 内容の工夫改善を図る
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆		◆食育を今後も積極的に推進していく

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育課題への対応

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
①子どもの安全と安心の確保の推進	<ul style="list-style-type: none"> 年7回の訓練等を実施し、児童が安全に避難できるようにする 地震、火災、緊急時の引き渡し 不審者対応等の訓練を実施 小坪小への不審者侵入時の危機管理マニュアルをもとに、不審者対応訓練を実施し、意識を高める 小坪小が避難所になった場合のマニュアルを作成する PTAの校外指導委員会と連携し、地域の安全マップの見直しを行い、家庭と共に安全指導を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 年7回の訓練等を実施し、児童が安全に避難できるようにする 不審者対応等の訓練を実施を全校で取り組む・マニュアルの見直しを図る 小坪小学区避難所組織と協働で、マニュアルに沿った訓練を実施し、意識を高める 地域の安全マップを生かした安全指導に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 年7回の訓練等を実施し、児童が安全に避難できるようにする 訓練内容の工夫改善を図りながら継続的に取り組む マニュアルの徹底を目指す訓練を実施する。 マニュアルの見直しを行い、実質的なマニュアルを作成する 地域の安全マップを利用して、児童自身に危険を回避する力をつける ☆メール配信システムを活用する
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆不審者対応について教職員の連携の検討	避難所組織との協働までには至らなかった	◆メール配信システムの推進
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
②いじめ・不登校等への対応の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめチェックリスト」使って定期的に児童の生活を見つめる 使ってはいけない言葉を使わないよう指導の徹底を図る コミュニケーション力の向上を目指す授業研究を行う 校内支援教育チームを活用し、組織的な取り組みをより推進する 	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめチェックリスト」から見える気になる児童の対応の仕方を支援部で検討する ☆いじめチェックリストの内容の見直しをはかる使ってはいけない言葉について子どもたちの実態を把握し、指導の評価を行う コミュニケーション力の向上をめざす授業について実践で検証する 校内支援教育チームが組織的な取り組みになっているか検証しながら推進して 	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめチェックリスト」の項目の見直しを検討する 言葉遣い全体についても考えさせる。 ☆言葉についての指導とその評価を行う コミュニケーション力の向上が図られているか検証の在り方を検討し、総括する より実効的な取り組みができるように組織図の見直しを図り、改善する。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆いじめチェックリストの改善	◆言葉について指導の評価までは至らなかった	◆組織的対応のいっそうの改善と引き継ぎ

【小坪小学校】

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末に関係保育園・幼稚園・中学校との情報交換を行い、連携を図る・関係保育園・幼稚園とのふれあい活動を行う ・運動会で未就学児とのふれあい種目文化祭での「どんぐり広場」「ようこそ小坪小へ」でのふれあい ・久木中学校の職業体験の受け入れを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観や授業交流を計画的に行い、いわゆる、小一プロブレム・中一ギャップといった課題の共通理解・解消を図る ☆児童生徒交流を計画的に行う。 ・活動のねらい・計画等の教育課程における単元のあり方を検討する ・職業体験の活動のねらいを共通理解しキャリア教育の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けた教育課程の授業・工夫といった取り組みをする。 ・教育課程上の関係を検討する ☆キャリア教育の充実を図る ・キャリア教育に関する単元開発を行う
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆中学校との児童生徒交流	◆実践しているがキャリア教育の充実までには至らなかった。	◆キャリア教育の計画計画作成の取り組みが必要

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④国際理解教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の中に位置づけ、IEAを活用し英語活動を中心とした国際教育を行う 1・2年生 4時間程度 3～6年生 16時間程度 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の中に位置づけ、IEAを活用し英語活動を中心とした国際教育を行う ・英語活動の単元開発を行う ☆15時間の教員研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の中に位置づけ、IEAを活用し英語活動を中心とした国際教育を行う ・英語活動の全体計画の作成に取り組む ☆年間指導計画を作成する
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆新指導要領実施に向けての準備		◆23年度に向け年間計画を完成する

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑤キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的行動目標・学年別行動目標を通して生き方の指導を行う ・朝会において生き方の指導を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の中からキャリア教育の視点で単元開発を行う ・身近な人材を生かしながら、生き方の指導を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ☆キャリア教育の視点で単元開発を行う ・単元を授業実践していく ・地域の人材を生かしながら、生き方の指導を行う
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆キャリアの視点に立った教育課程の見直し	◆キャリア教育の視点が浸透していなかった	◆教員にキャリア教育の実施を意識させる

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑥福祉教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・小坪の自然・社会・人的環境を生かして、学年に応じた取り組みを行う 1年 保・幼稚園児と 2年 長生会の方と 3年 長生会・東流・小坪漁協の方と 4・5年 福祉協議会の方と 6年 ろうあ協会の方と 	<ul style="list-style-type: none"> ・小坪の自然・社会・人的環境を生かして、学年に応じた取り組みを行う ・学年間の連携を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・小坪の自然・社会・人的環境を生かして、学年に応じた取り組みを行う ・全体計画作成に取り組む
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆発達段階に応じた計画的指導		◆取り組みの記録を充実させ、継続を図る

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑦環境教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・4年を中心として全校でミックスペーパーの回収、梱包、計測等に取り組む 「総合的な学習の時間」での実践を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通してそれぞれの学年で実践可能な事例を整理する ☆委員会の取り組みの検討 	<ul style="list-style-type: none"> 整理して実践事例を資料に残していく
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆委員会における主体的な取り組み		◆活動の精選と充実

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑧情報教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「コンピューターに慣れ親しみ、正しい使い方を身につけさせる」の目標のもと、各学年年間指導内容を総合的な学習の時間を中心に指導する 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の工夫改善をする ☆パソコン室の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の段階を踏まえた年間計画を工夫する
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆パソコンの環境整備	パソコン入れ替え後、慣れるのに時間がかかった	◆リテラシー獲得のための指導の充実

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
①地域への情報発信と学校公開の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・小坪小HPでは直近の学校情報を及び地域の情報をアップするよう努める ・行動目標に関する保護者・地域への広報を積極的に行う ・保護者会・PTA各種会議・地域の諸会議 小坪小HP・学校学年だより等 ・学校だよりの自治会・区会への配布・回覧を依頼する 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの内容について、職員で分担しながら精選を図る ・行動目標が保護者・地域の共感を得る方法を工夫する ・回覧したお便り等が双方向になるような方法を工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの内容について検討し精選を図る ・行動目標が保護者・地域の協力を得た取り組みになるよう工夫する ・地域の方々の学校への意見を取り入れる方法を工夫する
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆地域への情報発信の具体的な取		◆学校HPの内容の精選と継続性を図る

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
②地域教育力の活用	・小坪の自然・人等地域とのふれあい活動の充実を図る ようこそ小坪小へ、お年寄りとのふれあい 返子音頭指導、昔のあそび、わかめの種 付け、福祉体験等 ・図書ボランティア・クラブボランティア・花 壇ボランティアを継続する	・ふれあい活動の教育課程上位置づけを 明確にし、単元開発をする ・図書ボランティア・クラブボランティア・花 壇ボランティアの活動内容を検討する	・開発した単元を検証改善していく ・図書ボランティア・クラブボランティア ・花壇ボランティアを活動内容を改善する
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆活動の振り返りや次時への連携		◆地域支援本部事業の充実を目指す

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③学校評価を生かした学校の改善	・昨年度行った学校評価システムを再検討 し実施する ・内部評価・外部評価のあり方を再検討し 実施する ・評価結果の保護者・地域への公開のあり 方を再検討し、実施する	・PDCAのサイクルを確立する ・外部評価委員会の設置を目指していく ☆学校評価委員会の設置・評価結果の とその活用について公開する	・PDCAのサイクルをより短期間にするた め工夫改善する ☆学校評価委員会の活用 ☆第三者評価を試行校として実施 ・評価の公開について意見を求める方法 を検討する
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆		◆第三者評価を次年度に生かしていく

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
①授業研究の充実	・「コミュニケーション力の向上を目指す授 業研究」をテーマに学校研究を推進し、授 業を互いに公開し合い、授業研究の充実を 図る	・前年度の研究成果の上に「コミュニケー ション力の向上を目指す授業」について さらに共通理解を深め授業実践で検証 する ☆外部講師を招き研究を進めると共に、 研究の成果を公開する。	・コミュニケーション力の向上が図られてい るのかどうかの検証の在り方を検討する ことを通し、研究の総括をする
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆		◆評価の日常化をすすめたい

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
②授業評価の活用	・算数科での一斉テストの結果を分析し、 基礎基本の定着に活用する	・一斉テストの結果の積み重ねから、テ ストの適正化について検討する ☆評価規準の見直しと指導要録の評定の 検討	・一斉テストの結果を年間指導計画作成 に生かす ☆評価規準の作成と指導要録の評定の 検討
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆学習状況調査の結果の生かし方 を検討する	◆評価規準については継続して取り組む	◆児童による授業評価に取り組む

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③地域教材の積極的 活用・開発の促進	・小坪地域の歴史的遺産や自然に対する 理解をさらに深めるために講師を招き、地 域めぐり等を実施する	・以前に作成した地域素材の教材化した ものを見直し検討する	・地域素材を生かした授業を試みる
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆地域素材教材化の取り組み		◆講師の招聘、郷土資料室の整理活用 に取り組む

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④研修事業の充実	・夏季休業中を中心に、「コミュニケーション 力」をテーマとした研修を行い、理論と実践 の両面からの研修事業の充実を図る	・現職研修の充実を目指し、校内での伝 達講習を積極的に行い、指導力の向上 を図る	・前年度に引き続き、現職教員の研修を 計画的に行う
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆		◆研修と研究の一体化を目指す

平成19年度～平成21年度 学校による点検及び評価の推移(池子小学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 基礎学力定着のための 個に応じた指導の充実	* 学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果を分析し、課題を洗い出す。 * 少人数指導・TT等、多様な学習形態を活用し基礎基本の定着を図る * 夏季休業中、児童の状況により学習支援日を設定する。	* 19年度の取り組みとその成果を踏まえ、指導法の改善を図る。 * 学習評価や学習状況の伝え方を一層工夫し、学習支援に生かしていく。☆特に支援の必要な児童には学習支援日等を設定し、取り組みを進める。	継続 ☆単学級への対応、児童指導支援部との連携を進める。
	評価 A・B・C 課題 ・調査結果が届くのが遅く分析が不十分であった。届き次第速やかに分析を進める。	評価 S・A・B・C 課題 ◆児童の実態に応じた学習支援について一定の成果が見られたが、児童指導支援部と連携し、よりきめ細かな対応を進める。	評価 S・A・B・C 課題 ◆児童指導支援体制の充実により支援の必要な児童への対応が進められた。単学級の学年へ多くの教師が関わる体制を一層進める。
② 読解力向上の取り組みの推進	H20(2008)年度予定内容		
	* 学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果を分析し、課題を洗い出す。	* 洗い出された学習面の課題を踏まえ、「返子市読解力向上プラン」をもとに各教科・総合的な学習の時間を通して実践を行う。	継続 ☆新指導要領に示された言語活動の充実を目指す。
	評価 A・B・C 課題 ・調査結果が届くのが遅く分析が不十分であった。届き次第速やかに分析を進める。	評価 S・A・B・C 課題 ・調査結果を生かし、新指導要領の目標を意識して学力向上に取り組む。	評価 S・A・B・C 課題・新指導要領のねらいを踏まえた校内研究の推進により言語活動の充実に向け成果があった。この取り組みを継続する。
③ 読書活動の推進	H19(2007)年度予定内容		
	* 朝の読書週間の設定、学校図書館指導員の本の紹介・読み聞かせの実施等を行う。 * 学校支援ボランティアを活用し「お話し」を開く。	* 19年度の内容を一層充実させると共に読書活動につながる教育内容・指導法の改善を図る。 ☆読書指導全体計画を作成する。	* 学校図書館と市立図書館との連携を深めたり、保護者・地域との連携を深めたりしながら、読書活動のネットワークを広げる。
	評価 A・B・C 課題 ◆読書指導全体計画を作成し、読書活動を一層進める。	評価 S・A・B・C 課題 ◆池子お話しとの連携を強め、読書推進活動の充実を進める。また、保護者との連携を進める。	評価 S・A・B・C 課題 ◆池子お話し会の活動の他、保護者が朝の時間等に読み聞かせを行うボランティアの活用も進めることができた。継続した取り組みを進める。
④ 支援教育の充実	H19(2007)年度予定内容		
	* 教育相談コーディネーターを中心とした校内児童指導支援体制の確立を図り、組織的取り組みができるようにする。 * 外部機関との連携を進めると共にスクールカウンセラー・うづフレの積極的活用を進める。	継続 ☆幼保小中連携を深め、情報交換を密にする	* 引き続き校内児童指導支援体制の充実を図る。 * 幼保小中の連携を深め、一貫した視点で児童の指導に当たれるよう情報交換を密にする。
	評価 A・B・C 課題 ◆支援体制について組織的取り組みを一層進める。	評価 S・A・B・C 課題 ◆教育相談コーディネーターを中心とした組織的取り組みを一層進め、幼保小中連携・外部機関との連携を強化する。	評価 S・A・B・C 課題 ◆学校運営の大きな柱として支援教育を位置づけ、教育相談コーディネーターを中心に支援体制の充実を継続的に進める。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 基本的な生活習慣の育成	* 学級指導の中で基礎的な生活習慣習得の指導を行うと共に保健だより・給食だより等により学校から情報発信を行う。 * 学級懇談・個人面談等の機会を利用し、保護者との連携を深める。	* 継続	* 継続
	評価 A・B・C 課題 ◆学校よりの情報発信を続け、保護者との連携を深める。	評価 S・A・B・C 課題 ・保健指導・食育を進め、生活習慣改善の努力を続ける。	評価 S・A・B・C 課題 ・食育への取り組みが進んだ。保護者との連携を密にし、生活習慣改善を行う。
② 豊かな心を育む教育の充実	H19(2007)年度予定内容		
	* ふれあい行事・たてわり活動を通し、地域の方々との交流や異年齢交流を進める。 * あいさつ運動等、コミュニケーションを深める取り組みを行う。	継続 ☆あいさつ運動について年間を通し積極的に進める。	* 20年度までの実践を踏まえ、より豊かな人間関係づくりを目指す取り組みを推進する。 ☆あいさつ運動を継続して積極的に行う。
	評価 A・B・C 課題 ◆取り組みの充実を一層図る。あいさつ運動も学級を基盤に積極的に進める。	評価 S・A・B・C 課題 ◆あいさつ運動・ふれあい・たてわり活動の成果を生かし、取り組みの充実を図る。	評価 S・A・B・C 課題 ◆ふれあい活動の成果が見られた。よりよい人間関係づくりのため取り組みの充実を図る。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 豊かな体験活動の推進	* 小規模校の特性を活かしたキャンプ・修学旅行の取り組みを通し、自然・文化に触れ合う体験を行う。 * 校内の文化活動、学年間諸行事の交流を進める。	継続	* 20年度までの実践を踏まえ、豊かな体験活動を推進する。
	評価 (A) ・ B ・ C	評価 S ・ (A) ・ B ・ C	評価 S ・ (A) ・ B ・ C
	課題 ◆学校行事実施時期を見直し、バランスの取れた年間計画とする。	課題 ・行事実施時期を変更した2年目の取り組み充実を図る。	課題 ◆文科省の芸術家派遣事業等も生かし、体験活動の充実に取り組めた。一層の充実を目指す。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④ 健康教育の推進	* 保健安全年間計画・給食指導計画・性教育全体計画に基づき、年間を通して指導を行う。	* 児童の実態から課題を明らかにし、池子小学校の健康教育推進の方向性を検討する。	* 具体的な課題を持って健康教育の推進を図る。 ☆食育の充実を目指した指導計画を作成する。
	評価 A ・ (B) ・ C	評価 S ・ A ・ (B) ・ C	評価 (S) ・ A ・ B ・ C
	課題 ・池子小学校児童の実態を把握し、実態に合わせた指導を検討する。	課題 ◆食育の充実に向けて食育全体計画を	課題 ◆21年度、食育の充実に向けた取り組みが大きく進んだ。この成果を生かし、全体計画を基に実践を進める。

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育課題への対応

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進	* 防犯教室・不審者対応訓練を行い、児童・教職員の防犯意識を高める。 * 交通安全教室・自転車教室を行い、児童・教職員の安全意識を高める。 * 保護者・地域と連携し、児童の安全確保に取り組む。	継続	継続
	評価 (A) ・ B ・ C	評価 S ・ (A) ・ B ・ C	評価 (S) ・ A ・ B ・ C
	課題 ◆PTAとの連携で登下校の安全確保ができた。今後も継続する。	課題 ・児童も参加する不審者対応訓練を実施し、防犯意識の向上を図る。	課題 ◆今年度進められた不審者対応訓練・サイバー犯罪防止研修・ケイタイ教室等を継続して行い、安全への意識を高める。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
② いじめ・不登校等への対応の推進	* 教育相談コーディネーターを中心とした校内児童指導支援体制の確立を図り、組織的取り組みができるようにする。 * 外部機関との連携を進めると共にスクールカウンセラー・うるフレの活用を積極的に進める。	継続 ☆組織的取り組みの一層の充実を図る。	* 校内児童指導支援体制の充実を図る。 * 幼保小中の連携を深め、一貫した視点で児童の指導に当たれるよう情報交換を密にする。
	評価 (A) ・ B ・ C	評価 S ・ (A) ・ B ・ C	評価 (S) ・ A ・ B ・ C
	課題 ◆組織的取り組みを一層進める。スクールソーシャルワーカーの活用を進める。	課題 ◆教育相談コーディネーターを中心とし、外部機関と連携した取り組みを進める。	課題 ◆今年度、長期欠席0の成果を踏まえ、児童指導支援体制の一層の充実を図る。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	* 小中の連携を目指し、協議しながら取り組む内容を明確にしていく。 * 幼稚園・保育園からはこれまで同様、情報収集を続ける。	* 小中連携について、できる内容から取り組みを進める。 ☆校長が逗子中学校評議員・学校評価委員として参加する。	* 小中の効果的連携を考え、教職員の交流やカリキュラムの工夫・改善を検討する。 ☆小中連携担当者会の活動充実を図り、連携を具体化する。
	評価 A ・ (B) ・ C	評価 S ・ (A) ・ B ・ C	評価 S ・ (A) ・ B ・ C
	課題 ◆小中連携の具体的な取り組みを行う。	課題 ◆逗子中との小中連携担当者会を通し、よりよい連携の在り方を検討する。	課題 ◆小中の教職員の交流や授業・行事を通じた交流を進める。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④ 国際理解教育の推進	* IEAの積極的活用を検討する。 * 英語教育在り方検討委員会へ参加し、今後の方向性を検討する。	* 英語教育在り方検討委員会の成果と課題を踏まえ、池子小学校としての国際理解教育の方向を明確にする。 ☆新指導要領に位置づけられた英語活動に向け、取り組みを行う。	* 国際理解教育の年間指導計画作成を行い、実践化する。 ☆指導要領移行期間の英語活動充実に取り組む。
	評価 A ・ (B) ・ C	評価 S ・ (A) ・ B ・ C	評価 S ・ (A) ・ B ・ C
	課題 ・新指導要領に位置づけられた英語活動について取り組む。	課題 ◆今年度の実践を踏まえ、指導要領移行期間の英語活動に取り組む。	課題 ◆授業実践を一層進め、新指導要領本格実施に向け、取り組みを進める。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑤ キャリア教育の推進	* 児童の発達段階に応じたキャリア教育の在り方について検討する。	* 児童の発達段階に応じたキャリア教育の視点を教科・総合的な学習の内容に入れながら実践する。 ☆キャリア教育に関わる研修等に参加し、理解を深める。	継続
	評価 A ・ B ・ (C)	評価 S ・ A ・ (B) ・ C	評価 S ・ A ・ (B) ・ C
	課題 ・教職員のキャリア教育に対する理解を進める必要がある。	課題 ・研修への積極的参加を促し、実践に向けて取り組む。	課題 ・キャリア教育の視点を学習内容に取り入れた実践を行う。

【池子小学校】

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑥ 福祉教育の推進	* 福祉学習年間計画をもとに教科・総合的な学習の時間・特別活動を通して福祉学習に取り組む。	* 学校支援ボランティアの積極的活用を進め、福祉教育の充実を図る。	継続
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆学習支援ボランティアの積極的活用を進める。	課題 ◆学習支援ボランティアを活用を一層進め、取り組みの充実を図る。	課題 ◆学校支援地域本部事業の活性化を図り、ボランティアの活用を一層進める。

行動プラン	H19(2007)年度実施内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑦ 環境教育の推進	* 教科・総合的な学習の時間・特別活動を通して環境教育に取り組む。(全校での取り組み・4年の取り組み・環境美化委員会の取り組み)	* 教科・総合的な学習の時間・特別活動を通して環境教育を進める中で、よりよい環境づくりの課題を探る。	* 課題に基づき環境教育を進めると共にその成果を地域に発信する活動を検討する。 * 返子市の施策を環境教育に生かす。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆継続的な取り組みを行う。	課題 ・次年度、グリーンカーテン事業、生ゴミ処理機設置等を環境教育に生かす。	課題 ・今年度の取り組みを継続し、児童の環境への意識を高める活動を行う。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑧ 情報教育の推進	* 発達段階に応じた情報機器操作内容を明確にし、情報機器の活用能力育成を行う。	* 発達段階に応じた情報機器操作内容を明確にし、情報機器の活用能力育成を行う。 * 情報リテラシーの育成に向けてパソコン環境の整備を行う。	* 発達段階に応じた情報機器の活用を行う。 * 情報リテラシーの育成に向けてパソコン環境の整備を行うと共に情報モラルの育成も図る。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ・次年度のPC環境整備に取り組む。	課題 ・整備されたPC環境を活用し、情報活用能力の育成を進める。	課題 ・情報リテラシーの育成を目指し、取り組みを充実させる。

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	* 学校だよりやホームページ等を通して、学校の情報を広く伝える。 * 定期的な授業参観日・学校へ行こう週間・休日参観を通して、学校の様子を保護者・地域に公開する。	継続	継続 * ホームページ・学校だよりの一層の充実を図る。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆ホームページの充実と定期的更新を進める。	課題 ◆学校よりの情報発信・情報提供の充実が図られた。次年度は、一層の取り組みを進める。	課題 ◆ホームページ・学校だより・学級だよりの充実を図る。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
② 地域教育力の活用	* 学校支援ボランティアの積極的活用を図る。 * 学校の行事、地域の行事等を通して教職員と保護者・地域との円滑なコミュニケーションの推進を図る。	継続 * 学校地域連携活性化委託を申請し、地域教育力の活用を進める。	継続 * 地域に提供できる学校資源の整理・発掘を行い、地域との一層の連携を検討する。 * 学校支援地域本部立ち上げへの取り組みを行う。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆学校支援ボランティアの積極的活用を進める。	課題 ◆学校地域連携活性化事業の成果を踏まえ、地域教育力の活用を進める。	課題 ◆立ち上げた学校支援地域本部事業の充実を図る。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 学校評価を生かした学校の改善	* 学校評価年間計画を明確にし、評価内容・方法の検討を行う。	* 学校評価を学校運営に生かすと共に保護者・地域に積極的に情報発信する。 * 学校評価委員会よりの意見・報告を学校運営に生かす。	継続 * 学校評価委員会の活動を生かした学校評価を進め、学校運営の改善を図る。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆学校評価について取り組みが前進した。年間計画を基に評価内容の再検討を行う。	課題 ◆今年度より行われた学校評価委員会での成果を踏まえ、学校評価を学校運営に生かす取り組みを進める。	課題 ◆学校関係者評価委員会と学校評議員会を整理し、より学校運営に有効な活動を検討する。

III 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 授業研究の充実	* 校内研究で作成された評価規準を生かした授業実践に取り組み、全員が公開授業を行う。	* 研究テーマに迫るため、校内授業研究を活性化し、「わかる」「楽しい」学習の創造を目指す。(☆授業研究推進委託を受け、研究に取り組む。) * 教員の世代間交流を通して教員の資質・力量の向上を図る。	* 20年度までの成果と課題を踏まえ、より質の高い授業研究に取り組む。 * 市内外の研究協力者・講師を招き、充実した研究会を計画する。 * 新指導要領のねらいを踏まえたテーマで研究を進める。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆校内研究会の一層の充実を図る。	課題 ◆新指導要領のねらいを踏まえ、研究テーマ「子ども同士が学び合う学習の創造」を追究する。	課題 ◆継続して新指導要領のねらいを踏まえた授業研究を進め、学力向上及び教員の指導力向上を図る。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
② 授業評価の活用	* 校内研究で作成された評価規準を生かした授業実践に取り組み、評価規準の見直し・検討を行う。 * 授業分析を重ねながら、指導と評価の一体化を目指して授業改善に取り組む。	継続	継続 ☆新指導要領を踏まえ、評価規準の検討を進める。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆研究全体会の充実等を図り、授業分析を進める。	課題 ◆新指導要領のねらいを踏まえ、評価規準見直しを行うと共に授業分析を充実させる。	課題 ◆継続して新指導要領のねらいを踏まえ、評価基準を検討すると共に授業評価に生かす。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	* 地域素材を取り入れた授業づくりを進める。 * 研修会等の機会を利用し、地域素材の紹介に努める。 * 郷土資料室の利用を進める。	* 地域素材を取り入れた授業研究を行い、教育課程への位置づけを検討する。(☆湘三教育課程研究会提案を地域素材で行う。) * 地域素材の掘り起こしを行う。 * 郷土資料室の整備・活用を進める。	* 地域素材を取り入れた授業研究を通し、教師の指導力向上を目指す。 * 各学校で開発した地域教材を共有財産とする取り組みを検討する。 ☆特色ある学校づくり事業において郷土資料室整備・活用を進める。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆研修会を通して地域素材の教材化を進める。	課題 ◆特色ある学校づくり事業において、郷土資料室整備と活用を進める。	課題 ◆今年度、郷土資料室の整備・活用を進めることができた。地域素材・郷土資料を生かした実践の推進を図る。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④ 研修事業の充実	* 初任研・年次経験者研修において教職員の協力体制を作り、研修指導に当たる。 * 校内及び校外の研修会・研究会への参加を促進する。 * 年間計画の中に校内研修会を位置づける。	継続	継続
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆研修会を通して地域素材の教材化を進める。研修内容の充実を図る。	課題 ・校内研修会の内容を充実させ、学習指導に生かす取り組みを進める。	課題 ◆研究所や外部機関と連携した質の高い研修を行い、教員の指導力向上に生かす。

平成19年度～平成21年度 学校による点検及び評価の推移(逗子中学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 基礎学力定着のための 個に応じた指導の充実	少人数指導での習熟度別指導 生徒を励ます評価と実践 授業力の向上の研修	少人数指導の工夫改善 生徒を励ます評価と実践 授業力の向上の研修と長期休業期間の有効活用	少人数指導の充実 ☆学習支援シートを活用した評価の充実 ☆授業力の向上の研修・研究と子どもが主体的に学習を進めていけるような学習環境整備
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ・習熟度別授業の改善 ・学習支援シートによる評価 ・全教員による研究授業の実践	課題 ・少人数指導の一層の工夫改善 ・学習支援シートによるきめ細かい評価 ・生徒の意欲を引き出し考える授業の創造 ・夏季休業中の補習(逗子中oasis)の改善と教科相談の充実	課題 ・少人数指導のさらなる充実 ・学習支援シートを改善し、教科指導 教育相談に役立てる ・生徒の意欲の深化を図る。
② 読解力向上の取り組みの推進	H19(2007)年度予定内容 文字文化(新聞・読書)の奨励 学校図書館指導員と連携 指導法の工夫改善	H20(2008)年度予定内容 文字文化の奨励の継続 横浜中との連携・研究 音読活動の重視 NIE(教育に新聞を)活動の研究と実践	H21(2009)年度予定内容 文字文化の奨励・発展 横浜中との連携・継続研究 音読活動の重視の継続 NIE活動の充実
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ・朝読などの読書活動は行えたが新聞を活用することがまだ不十分である。NIEの実践を今後推進していきたい。	課題 音読活動とNIEについては「言語活動の重視」と関連して計画。	課題・言語活動との結びつきをさらに深めていく。
③ 読書活動の推進	H19(2007)年度予定内容 逗子中学校読書基本計画の作成 朝読書の推進 読書座談会	H20(2008)年度予定内容 逗子中学校読書基本計画の実施 朝読書の継続 読み聞かせなどの工夫 集団読書の実践	H21(2009)年度予定内容 ☆逗子中学校読書基本計画の継続実施 朝読書の継続 読み聞かせなどの工夫 集団読書の充実
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ・読書座談会など図書委員会を中心に行うことができた。 ・朝読書を更に充実させていきたい。 ・逗子中図書検索システムの構築。	課題 ・図書館の蔵書1万冊のデータベース化を終え、学習への活用が求められる。	課題 ・教科での図書館利用の促進を通して計画的な利用を図る。
④ 支援教育の充実	H19(2007)年度予定内容 支援体制の確立 教育相談・ケース会議の実施 補習体制の充実 学習支援シートの作成	H20(2008)年度予定内容 支援体制の改善 教育相談・ケース会議の機能強化 補習体制の改善 学習支援シートの改善・活用	H21(2009)年度予定内容 ☆支援体制の強化・見直し 教育相談・ケース会議の見直し 補習体制の見直し ☆学習支援シートの活用
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ・補習は年間を通じて計画的に行えるとよい。	課題 ・支援教育委員会を中心とした外部ネットワークづくりとケース会議の充実。 ・一次的援助サービスの視点に立った授業の工夫。	課題・支援教育委員会を中心として校内と校外を連携をすすめていく。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 基本的な生活習慣の育成	時間・清掃・身だしなみ・言葉遣い 新標準服の選定	☆基本的生活習慣についての地域連携・協働の模索 新標準服導入一年目	☆基本的生活習慣についての地域連携・協働の実践 新標準服導入二年目
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ・時間を大切にする事の励行など今後も続けたい。 ・身だしなみ 言葉遣いについては引き続き指導が必要である。	課題 ・保護者、地域への協力の呼びかけが必要	課題・◆地域との協働により生徒の基本的生活習慣について改善する。
② 豊かな心を育む教育の充実	H19(2007)年度予定内容 道徳の時間の工夫 研究授業公開(湘三地区) 人権教室実施	H20(2008)年度予定内容 道徳の時間の工夫 家庭・地域との連携 逗子中あいさつ一新運動 人権学習実施	H21(2009)年度予定内容 道徳の時間の工夫 家庭・地域との連携 逗子中あいさつ一新運動 人権学習実施
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 ・全校道徳の充実 ・生徒会を中心とした挨拶運動及び地域への波及	課題・地域講師による全校道徳を定期開催する。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 豊かな体験活動の推進	自然体験活動の実施 福祉体験活動の実施 職場体験活動の実施 交流体験活動の実施 防災体験活動の実施	自然体験活動の充実 福祉体験活動の充実 職場体験活動の充実 交流体験活動の充実 防災体験活動の充実	自然体験活動の見直し 福祉体験活動の見直し 職場体験活動の見直し 交流体験活動の見直し 防災体験活動の見直し
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題・福祉体験学習 交流体験 防災体験の充実が必要である。	課題 ・単発に終わらない継続的な取組の必要性	課題・◆新教育課程実施に伴う体験活動を見直す。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④ 健康教育の推進	「食」学習の試行 食育全体計画立案 イキイキスクールの立案 3033運動の立案 健康教室(全学年)実施	☆食育全体計画立案 ☆イキイキスクールの立案 ☆3033運動の立案 救命・救急法講習会実施	☆食育全体計画の実施 イキイキスクールの推進 ☆体力づくり運動の実施 救命・救急法講習会実施
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題・食育全体計画の作成を急ぐ必要がある。 ・部活動の確認と改善	課題・3033運動と体力づくり運動を関連付けた計画化	課題・◆食育全体計画による食育指導の実施 救命救急法講習会の実施

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育課題への対応

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進	防犯と不審者対策の強化 CAPプログラムの実施 地域防災への参画(準備) 登下校指導(逗子高と連携) 安全点検日	防犯と不審者対策の強化 CAP(子ども暴力防止プログラム)の実施 ☆地域防災への参画(準備) 防災体験学習の実施 登下校指導(逗子高と連携)の発展 安全点検日の充実	防犯と不審者対策の強化 CAPの実施 地域防災への参画・訓練 校外防災体験学習の実施 登下校指導(逗子高と連携)の発展 安全点検日の充実
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題・地域防災への参画については次年度実現をめざしたい。	課題・地域防災への参画は継続課題。	課題・地域防災行事への参加体制の確立
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
② いじめ・不登校等への対応の推進	人権学習 不登校の予防と早期対応 人間関係づくり	人権学習 不登校の予防と早期対応 行事を利用した人間関係づくり	人権学習 不登校の予防と早期対応 行事を利用した人間関係づくり
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題・年度途中から行っている不登校の早期対応も軌道に乗ってきたので次年度にも協力的に継続していきたい。	課題・学校体制整備による不登校対応の必要性。	課題・不登校生徒や保護者に手厚く接する。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	出前授業の実践(英語 保体) 情報交換と情報共有・指導連携 逗教研での実践と研究推進	出前授業の拡大 学区内の小中教職員の親睦会 部活交流の計画・実践(中高)	☆出前授業の拡大 学区内の小中教職員の交流 ☆小中連携担当者会の継続開催 ☆中高連携担当者会の定期開催 部活交流の計画・実践(中高)
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題・小学校との情報交換会は、卒業時だけの情報交換会になっている。 ・逗教研などでの小中連携については小学校の担当者とも連携を密にとっていきたい。	課題・小学校との連携担当者会の継続。 ・逗子高校との定期的な担当者会の開催。	課題・小学校への出前授業を深化させる。 ・連携担当者会を定期的に開催する。 ・部活動の交流の実施
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④ 国際理解教育の推進	IEAの積極的活用 異文化理解・教材開発	☆IEA(国際理解教育助手)、地域講師による授業 異文化理解・教材開発	☆IEA、地域講師による計画的な授業 異文化理解・教材開発
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題・IEAは、英語の授業を中心とした活用だけをおこなった。異文化の理解ということは不足していた。	課題・IEAによる国際理解レポートの作成は終了なので、それを活用した授業が求められる。	課題・IEAによる教材作成をおこなった授業
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑤ キャリア教育の推進	自己理解・職業学習 職場体験活動 進路選択・決定	地域講師による授業 職場体験活動の充実 自己理解・職業学習 進路選択・決定	☆地域講師による計画的な授業 職場体験活動地域の拡大 自己理解・職業学習 進路選択・決定
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題・職業体験学習の充実を検討する。	課題・地域講師を活用した計画的なキャリア教育	課題・キャリア教育のプログラム化をおこない、実施する。

【逗子中学校】

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑥ 福祉教育の推進	福祉体験学習 福祉作文・人権作文 福祉施設との交流	福祉体験学習(小学校との連携) 福祉作文・人権作文 福祉施設との交流	福祉体験学習の充実(小学校との連携) 福祉作文・人権作文 福祉施設との交流
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題・総合的な学習の時間の中に組み入れることができなかった。	課題・総合的な学習の時間の3年間を見通した計画に入れる。	課題・福祉体験学習と総合的な学習の時間のリンクをはかる。
行動プラン	H19(2007)年度実施内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑦ 環境教育の推進	逗子市学校版環境ISO 取得準備計画立案	逗子市学校版環境ISO 取得準備計画実施	逗子市学校版環境ISO取得 ☆「蛍の里づくり」運動の取組
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題・生徒会の担当者と共に情報収集につとめ、次年度からの実施に向けて進めていく。 ・生徒自身が変わっていかないと環境ISOは取得できないので生徒の意識を変えていくような働きかけを行わなければならない。	課題・生徒会を中心とした取組の継続。	課題・学校地域支援本部と生徒会を中心とした生徒全員での取り組みとする。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑧ 情報教育の推進	情報モラルの育成 校内ネットワークの推進 情報活用能力の育成 (プレゼンテーションソフトの活用)	情報モラルカリキュラムの見直し 教科センターへのLAN(ローカルエリアネットワーク)配線 情報活用能力の育成 (映像を活用したプレゼンテーションの推進)	情報モラルの推進 普通教室へのLAN配線 情報活用能力の充実(映像を活用したプレゼンテーションの充実)
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題・校内ネットワークを効果的に利用できるようにしていきたい。	課題・ノートPCの保護者、地域からの提供を促す。	課題・映像を使ったプレゼンテーション能力を育成する。

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	HP、各種通信での発信 毎月初日の「学校公開日」 個人情報の管理と保護	情報交換会・懇談会の充実 もてなしの心で迎える工夫 個人情報保護法研修会	HPに「保護者の声コーナー」の設置 学校へ行こう週間の充実 個人情報保護の基本方針の検討 保護に関する規定の検討
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題・保護者の中で個人情報の理解の不一致が見られたので再度確認し、わかりやすくしていきたい。	課題・個人情報保護についての理解とリスク管理の一層の徹底。	課題・個人情報について、教職員だけではなく生徒保護者にとっても理解を深めていく。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
② 地域教育力の活用	職場体験活動 地域清掃・書き初め・健康教育 防犯防災教室 図書館ボランティア	職場体験活動の拡充検討 自治会との合同地域清掃 書き初め・健康教育 コーディネーターの創設 ボランティア人数の拡充	職業体験の年間拡散型への検討 避難訓練での消防署による消火活動実施 ボランティアとともに創る図書室のコーディネート
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題・地域教育力を活用した授業は定着させてきている。次年度はさらに増加させていきたい。地域ボランティアの研修会なども行っていきたい。	課題・逗子中学校支援地域本部の設置。	課題・学校支援地域本部を活用した取り組みをおこなう
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 学校評価を生かした 学校の改善	評価方法の工夫改善 成果の検証、改善の実施 評価結果、改善策・成果の公表	市内中学校との評価評定交流会 成果の検証、改善の実施 評価結果、改善策・成果の公表 ☆学校関係者評価の導入	横浜中との評価研究会 成果の検証、改善の実施 評価結果、改善策・成果の公表 (学校関係者評価の実施)
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題・学校評価の成果と課題を的確にとらえ、次年度の計画に盛り込んでいきたい。また、学校関係者評価についても研究を深めていきたい。	課題・異校種間連携を視点とした学校評価の可能性を追求する。	課題・異校種間連携を行いながら、学校評価を進められるようにしていく。

Ⅲ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 授業研究の充実	一人年2回の研究授業 横浜国大・附属横浜中との連携 学校研究計画の立案準備	テーマ別研究授業(少人数) ☆横浜中との授業交流(横中と逗中) 学校研究の中間発表 (少人数学級研究、他)	テーマ別研究授業(教材教具) 横浜中との評価研究会 学校研究の発表会(研究紀要)
	評価 A・B・C 課題・横浜国大付属横浜中学校との連携を一層進めていきたい。	評価 S・A・B・C 課題・校内研究(テーマ「学ぶ意欲を引き出し、自ら学び考える力を育成する授業」)の発表。	評価 S・A・B・C 課題・研究発表会の実施を通してわかった課題を次年度に生かす
② 授業評価の活用	H19(2007)年度予定内容 生徒による授業評価の工夫 家庭学習と授業評価(試行)	H20(2008)年度予定内容 学習サイクルの定着 授業評価シートの研究	H21(2009)年度予定内容 学習サイクルについての学習会 授業評価シートを活用した研究授業の実践
	評価 A・B・C 課題・家庭学習の推進と支援を行う。	評価 S・A・B・C 課題・学習の振り返りの一層の推進。	評価 S・A・B・C 課題・全職員の授業評価や学習支援シートの効果的な利用
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	H19(2007)年度予定内容 地域素材の発掘・蓄積 田越川支流の清掃	H20(2008)年度予定内容 地域素材の発掘・蓄積 田越川支流の教材化	H21(2009)年度予定内容 ☆地域環境の教材化とその授業実践
	評価 A・B・C 課題・田越川の支流を中心に地域素材を発掘し、特色ある授業展開を目指したい。	評価 S・A・B・C 課題・フィールドワークの実施から教材化への過程にある。	評価 S・A・B・C 課題・地域素材の教材化について対象学年を絞り込む
④ 研修事業の充実	H19(2007)年度予定内容 校内研修会の充実 横浜国大・附属横浜中との連携 研修情報の共有化・実践化	H20(2008)年度予定内容 校内講師の発掘 ☆横浜中との授業交流(横中と逗中) 研修情報の意見交換会	H21(2009)年度予定内容 校内講師による研修会 評価評定意見交流会 研修情報のデータベース化(共有フォルダ)
	評価 A・B・C 課題・各教員が研修会に参加して学習した内容を、教員全体で共有できる環境を推進する。	評価 S・A・B・C 課題・研修会の遺流は図ったが、校内講師による指導技術の継承を計画的に行う。	評価 S・A・B・C 課題・研修会や担当者会での内容を共有化を図る

平成19年度～平成21年度 学校による点検及び評価の推移(久木中学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 基礎学力定着のための 個に応じた指導の充実	①学習状況調査や全国学力・学習調査の結果を分析し、実態を把握するための体制づくりの検討をする。 ②少人数・習熟度別指導、TTなどの多様な学習形態を活用し、基礎基本の定着を図る。 ③個人用のカルテを検討する。 ④補習、学習相談の体制づくりの検討をする。	①学習調査から課題を分析し、指導方法の工夫・改善をする。 ②少人数・習熟度別指導、TTなどの指導方法の工夫・改善を研究する。 ③個人用のカルテを検討、試行する。 ④放課後の補習、学習相談の試行をする。 ☆評価基準を明確にし、指導の一体化を図る。	①指導方法の工夫・改善を継続する。 ②理科の1年生一部のTT授業の実施をする。 ③個人用のカルテを活用する。 ④放課後の補習、学習相談を実施する。 ☆評価基準を明確にし、指導の一体化を図る。
	評価 A・B・C 課題 ・具体的な手立てや到達目標についての共通理解が不十分だった。 ・個人用の学習カルテの検討ができなかった。	評価 S・A・B・C 課題 ・放課後の補習を計画的に行う必要がある。	評価 S・A・B・C 課題 ・日常的及び長期休業中の計画的な補習体制が必要である。 ・更なる指導法の工夫と改善が必要である。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
② 読解力向上の取り組みの 推進	①学習状況調査や全国学力・学習調査の結果を分析し、実態を把握するため、読解力向上を図る校内体制づくりを検討する。 (・ディベート・学年主張発表会・行事後の新聞づくり・自己PR書づくり・朝読書等に生かす。)	①読解力向上検討委員会で各学習調査の課題を分析する。 ②「読解力向上プラン」をもとに各教科・総合的な時間の読解力向上のための実践を検討する。 ☆一人ひとりの学習状況を把握し改善を生かす。	①「読解力向上プラン」をもとにした各教科・総合的な時間の読解力向上のための実践をする。 ☆一人ひとりの学習状況を把握し改善を生かす。
	評価 A・B・C 課題 ◆読解力向上プランを生かすための教科指導の研修・研究が不足していた。	評価 S・A・B・C 課題 ◆新指導要領になり読解力向上のための取り組みを教科指導の中でどのように生かすか検討する。	評価 S・A・B・C 課題 ・全教科において言語活動の充実を実践できる授業実践が必要である。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 読書活動の推進	①朝読書の実施状況を調べ、課題を明確にし時間の充実を検討する。 ②図書館の活用の充実を図るため、来年度へ向けた図書室利用の計画立案をする。 ③読書記録カードの工夫をする。	①日課の工夫を含め朝読書の充実した定着化、PTAと図書委員会との共同活動を試行する。 ②授業での図書室利用を含めた読書活動の実施をする。 ③読書記録カードの充実をめざす。 ☆地域やPTA等を活用した読み聞かせを実施する。	①PTAと図書委員会との共同活動の定着化を図る。 ②授業での図書室利用を含めた読書活動の充実をめざす。 ③読書記録カードの活用をめざす。 ☆地域やPTA等を活用した読み聞かせを実施する。
	評価 A・B・C 課題 ・日課の工夫による朝読者や短学活での読書の充実した定着が必要。	評価 S・A・B・C 課題 ◆地域やPTAを利用した読み聞かせを計画的に行う事ができなかった。	評価 S・A・B・C 課題 ・学校支援ボランティアやPTAを活用し学校図書館の機能を活性化し、読書の推進をすすめる。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④ 支援教育の充実	①教育相談コーディネーターを中心とし、地域教育力の活用も視野に入れた校内体制を構築する。 ②一人ひとりの実態把握に努め、支援の必要な生徒ケース検討を教育相談を中心に行う。 ③個に応じた個人用カルテづくりを検討する。 ④支援教育に対する教職員間の共通理解を図るための研修会を開催する。	①教育相談コーディネーターを中心とした校内体制による支援教育を推進する。 ②一人ひとりの実態把握に努め、ケース会議開催を定期化する。 ③個人用カルテの活用を試行する。 ④支援教育研修会の開催し、教職員、保護者の共通認識を図る。	①教育相談コーディネーターを中心とした校内体制による支援教育を推進する。 ②一人ひとりの実態把握に努め、ケース会議開催を定期化する。 ③個人用カルテの活用をする。 ④支援教育研修会の開催し、教職員、保護者の共通認識を図る。 ☆学校全体で教育支援の取り組みをする。
	評価 A・B・C 課題 ・スクールカウンセラーやうるおいフレンドを交えての支援会議の定例化	評価 S・A・B・C 課題 ・教育コーディネーターの後追いの県費非常勤も配属され推進できたが、さらなる研修が必要である。	評価 S・A・B・C 課題 ・生徒の正しい見立て方、状況に応じた支援・指導の仕方の研究・研修を引き続き行う。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 基本的な生活習慣の 育成	①問題や課題から支援の具体を知るため、分掌部会で調査分析を行う。また積極的な情報発信をし、PTAの協力を得る。 ②授業規律の確立・集団生活のルールを守る等の基本的態度の育成を徹底する。	①課題を分析し、指導の工夫・改善をする。また、家庭への協力要請、PTA・地域と学校が連携して取り組む。積極的な情報発信を行う。 ②継続 ☆学年や分掌での組織的な取り組みや手立ての共通化などの工夫をする。	①家庭・地域・学校がそれぞれの役割分担を決め活動をする。 ②授業規律の確立・集団生活のルールを守る等の基本的態度の育成を徹底する。 ☆学年や分掌での組織的な取り組みや手立ての工夫をする。
	評価 A・B・C 課題 ・共通理解を図ったが十分な成果が得られなかった。	評価 S・A・B・C 課題 ・共通理解のための生徒指導マニュアルを作成した。	評価 S・A・B・C 課題 ・生徒指導マニュアルの見直しを行い全職員の共通理解が必要。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
② 豊かな心を育む教育の充実	①学級活動・生徒会活動また、行事におけるブロック活動の充実への見直しをする。 ②あいさつ運動実施の充実を検討する。 ③ブロック活動の発展として、奉仕活動の充実を図る。	①学級活動・生徒会活動また、行事におけるブロック活動の充実をめざす。また、ブロック活動の拡大と試行をする。 ②あいさつ運動の定着化と、生徒会活動から学年活動への担当の拡大を図る。 ③継続	①学級活動・生徒会活動また、行事におけるブロック活動の充実をめざす。ブロック活動の定着化を図る。 ②あいさつ運動の定着化を図る。 ③ブロック活動の発展として、奉仕活動の充実を図る。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆学級活動や生徒会活動など行事における縦割りブロック活動を日常の中に生かす工夫が足りなかった。	課題 ・あいさつ運動を全校体制へ押し進めることが課題である。	課題 ・教科と道徳の関連性を進める。 ・体験学習に地域講師の活用を進める。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 豊かな体験活動の推進	①総合学習・学活・道徳の内容および計画の見直しと、課題の分析をする。 ②環境学習＝1年、福祉学習・職業体験学習＝2年、保育士体験＝3年、ボランティア活動、ディベート大会等への積極的な参加を図る。 ③青少年指導員や地域の団体との連携体制づくりをする。	①課題を分析し、3年間を見通した指導計画の作成および指導の工夫・改善をする。 ②～③継続	①課題を分析し、計画の定着を図る。 ②環境学習＝1年、福祉学習・職業体験学習＝2年、保育士体験＝3年、ボランティア活動、ディベート大会等への積極的な参加を図る。 ③青少年指導員や地域の団体との連携体制づくりをする。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題◆地域との連携体制づくりを意図的・計画的に生かせなかった。		課題 ・地域との連携による体験的学習を推進する。(保育士体験、ディベート大会、職業体験、避難所訓練等)
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④ 健康教育の推進	①健康教育・安全教育・性教育・食育の充実を図るため、指導計画の見直しをする。 ②地域講師による健康教育・安全教育の定着化を図る。 (喫煙防止・薬物乱用防止・エイズ教育・不審者対策)	①健康教育・安全教育・性教育・食育の新しい指導計画の試行をする。 ②継続 ③地域講師を活用した性教育・食育指導の推進をする。	①指導計画の実施および定着化を図る。 ②地域講師による健康教育・安全教育の定着化を図る。(喫煙防止・薬物乱用防止・エイズ教育・不審者対策) ③地域講師を活用した性教育・食育指導の推進をする。 ☆食育委員会の設置
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆地域講師を活用した性教育・食育指導などの推進が図れなかった。	課題 ◆かながわいきいきスクールとの関連からの食育指導が計画的に行うことができなかった。	課題 ・食育委員会を設置し外部団体と連携のもと食育全体計画を作成・活用。 ・外部講師を招いての健康教育の推進と充実。

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育課題への対応

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進	①安全管理マニュアルを再検討する。 ②授業中、休み時間等校舎巡回をする。 ③家庭、地域、関係機関との連携を強化する。 ④事故防止研修会を開催する。	①安全管理マニュアルの完成、職員の周知を図る。 ②～④継続 ☆昨年度作った生徒の緊急時の対応マニュアルを生徒・職員への周知を図る。	①安全管理マニュアルを活用する。 ②授業中、休み時間等校舎巡回をする。 ③家庭、地域、関係機関との連携を強化する。 ④事故防止研修会を開催する。 ☆緊急時の対応マニュアルを生徒・職員への周知を図る
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆教職員の危機管理意識の更なる向上が必要である。	課題 ◆危機管理意識の更なる向上が必要である。	課題 ・安全教育や防犯教育に積極的に取り組んでいく。 ・市との連携を密とした学校防災計画の見直しが必要。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
② いじめ・不登校等への対応の推進	①相談内容、件数の推移を分析し、マニュアルづくりを検討する。 ②アンケートや個人ノートを活用し、生徒理解を図る。 ③全教育活動を通しての人間尊重教育の推進を図る。 ④SC、心の教室相談員、外部機関との連携を強化する。	①マニュアルを作成し、試行する。 ②～④継続	①マニュアルを活用し、迅速に対応する。 ②アンケートや個人ノートを活用し、生徒理解を図る。 ③全教育活動を通しての人間尊重教育の推進を図る。 ④SC、心の教室相談員、外部機関との連携を図り活用する。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆マニュアルについての検討が遅れている。	課題	課題 ・生徒の規範意識を高め、学校全体でいじめを許さない姿勢で挑む。 ・教育相談CDを中心に組織的指導体制の確立が必要。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	①幼・保・小・中との連携推進をめざし、課題を検討する。 ②支援シート等、引継ぎ内容・方法の検討をする。 ③各行事間での交流を積極的に図る。(保育士体験・合唱発表・運動会会場)	①幼・保・小・中との連携推進をめざし、課題に取り組む。 ②引継ぎ支援シートの活用を試行する。 ③継続 ☆支援シートに取り扱いについて小中の連携と深め、合同の支援会議ができるような協力が必要である。 ☆指導要領の改訂を踏まえて、ねらい等を検討し連携を充実する。	①幼・保・小・中との連携推進をめざし、課題に取り組む。 ②引継ぎ支援シートの活用をする。 ③各行事や教科における交流を積極的に図る。(保育士体験・合唱発表・運動会・英語・保体) ☆支援シートに取り扱いについて小中の連携と深め、合同の支援会議ができるようにする。 ☆指導要領の改訂を踏まえて、教科等での連携を図る。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ・小中間での支援シート等の引き継ぎがスムーズに行われていない。(新入生の情報交換や対応はスムーズでした)	課題 ◆教科における授業交流が遅れている。	課題 ・義務教育9年間での継続的なカリキュラムの工夫、授業交流などの計画的推進を進める。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④ 国際理解教育の推進	①教科や総合の時間での年間指導計画を検討する。 ②IEAを活用しての、少人数英会話授業の充実を図る。 ③ゲストティーチャーの活用を検討する。	①年間指導計画の推進を図る。 ②IEAを活用しての、少人数英会話授業の充実を図る。 ③ゲストティーチャーによる異文化体験授業を実施する。	①年間指導計画の推進を図る。 ②IEAを活用しての、少人数英会話授業の充実を図る。 ③ゲストティーチャーによる異文化体験授業を実施する。 ④国際交流センターの利用した異文化体験学習を計画する。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆年間を見通したIEA活用が計画的に行われていなかった。	課題 ◆IEA講師が計画的に配置されているにもかかわらず変わってしまい計画通りに進まない。	課題 ・IEA講師の様々な教育活動での積極的な活用を行う。 ・学習において外国人留学生や団体との積極的な交流を行う。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑤ キャリア教育の推進	①進路学習の指導計画の見直しをする。 ②地域講師の活用を意図的計画的に行う。 ③ニーズにあった職業・進路に関する講演会を開催する。	①進路学習の計画的実施と指導内容の充実を図る。 ②地域講師の活用を意図的計画的に行う。 ③職業・進路講演会の充実を図る。 ☆指導要領の改訂を踏まえて、教育課程全体の検討の中から、キャリア教育の意義を明確にする。	①進路学習の計画的実施と指導内容の充実を図る。 ②地域講師の活用を意図的計画的に行う。 ③職業・進路講演会の充実を図る。 ④職業体験日数の検討をする。 ⑤職業体験学習の時期の検討を始めていく。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ・キャリア教育の意義について共通理解が薄かった。	課題	課題 ・「生き方の学習」について3年間を見通した指導計画が必要。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑥ 福祉教育の推進	①福祉に対する理解と関心を高める学習会を開催する。 ②福祉体験学習の充実を図る。 ③教職員のコーディネーター養成を検討する。	①～②継続 ③コーディネーターの活用を試行する。 ☆実施学年や本校としての狙いなどを明確にした教育課程の編成を検討、作成する。	①福祉に対する理解と関心を高める学習会を開催し意識の向上を図る。 ②福祉体験学習の充実を図る。 ③コーディネーターを活用する。 ☆実施学年や本校としての狙いなどを明確にした教育課程の編成をする。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 ・コーディネーターを十分に活用することができなかった。	課題 ・教育活動全体において計画的な福祉教育や人権教育を進める。 ・地域と連携した体験学習を通じて、人を思いやる心、温かい人間関係を築く心を育てる。

行動プラン	H19(2007)年度実施内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑦ 環境教育の推進	①地域の環境問題に関心を高める。 ②生徒会が中心となつての身近な環境について取り組む。(MIX用紙の回収・用紙のリサイクル見学・生徒大会での取組み等) ③ディベート等で環境問題を考える。	①～③継続 ☆指導要領の改訂を踏まえて、本校における考え方やねらい、実施学年など明確にした教育課程の編成を検討、作成する。 ☆グリーンカーテンの取り組みを通して環境学習についての意識の高揚を図る。	①地域の環境問題に関心を高める。 ②生徒会が中心となつての身近な環境について取り組む。(MIX用紙の回収・用紙のリサイクル見学・生徒大会での取組み等) ③ディベート等で環境問題を考える。☆指導要領の改訂を踏まえて、本校における考え方やねらい、実施学年など明確にする。 ☆グリーンカーテンの取り組みから意識の高揚を図る。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題	課題 ・生徒会中心に身近な環境保護の実践活動を実施する。 ・地域講師による環境学習の実施。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑧ 情報教育の推進	①3学年を見通した、情報モラル教育の充実を図る。 ②情報活用能力を高める実践の工夫をする。 ③教職員の情報教育モラル向上のための研修会を開催する。	①～③継続 ☆管理マニュアルを作成し情報管理に活用する。	①3学年を見通した、情報モラル教育の充実を図る。 ②情報活用能力を高める実践の工夫をする。 ③教職員の情報教育モラル向上のための研修会を開催する。 ☆管理マニュアルを作成し活用する。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ・学校全体の取り組みとして研修等が実施できなかった。そのため、情報モラルについての充実が十分に図れなかった。	課題 ◆管理マニュアルの作成が遅れている。	課題 ・「情報活用能力」育成のための指導計画の育成。 ・ICTを活用した指導法の研究。

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	①久中だより、HPについて時期、内容、目的等を調査し、充実した情報発信に生かす。 ②メールサービス等の体制づくりと実施をする。 ③学校説明会・授業参観・学校へ行こう週間等で地域や家庭への学校経営について情報提供・公開をする。	①～③継続 ☆ホームページの計画的な更新を図る。	①久中だより、HPについて時期、内容、目的等を調査し、充実した情報発信に生かす。 ②メールサービス等の体制づくりと実施をする。 ③学校説明会・授業参観・学校へ行こう週間等で地域や家庭への学校経営について情報提供・公開をする。☆ホームページの計画的な更新を図る。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ・ホームページの更なる充実が図れなかった。	課題 ・前年度よりは充実したが更なる充実を計画的に図る必要がある。	課題 ・ホームページの構成を見直し更新を積極的に行う。 ・地域団体との関係を深め学校への理解を得る。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
② 地域教育力の活用	①人材バンクを作る。 ②長期にわたり安定した地域組織との連携づくりをする。 ③教師の専門性を生かした地域交流のあり方を考える。	①～③継続 ④定期的に地域協力者会を開催し、地域と協働の授業展開を考える。 ☆ボランティアの活用場面を検討し、教育課程の中に位置づけていく。	①人材バンクの整理、活用の仕方。 ②長期にわたり安定した地域組織との連携づくりをする。 ③教師の専門性を生かした地域交流のあり方を考える。 ④定期的に地域協力者会を開催し、地域と協働の授業展開を考える。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ・人材バンクの各領域や場面での整理が上手くなされていなかった。	課題 ・人材バンクの活用がうまくなされなかった。	課題 ・地域コーディネーターを中心とした学校支援の体制づくりを進める。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 学校評価を生かした学校の改善	①外部評価の導入を再検討する。 ②評価後の改善点を明らかにし、評価方法を検討する。	①外部評価を導入し課題検討と改善を図る。 ②継続 ☆学校評価を見直し、改善していく。 ☆関係者評価の検討	①外部評価の導入を再検討する。 ②評価後の改善点を明らかにし、評価方法を検討する。 ☆学校評価を見直し、改善していく。 ☆関係者評価の活用
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 ・関係者評価を十分検討できなかった。	課題 ・自己評価の内容を見直しわかりやすいものとする。 ・行事ごとにアンケートを実施し自己評価に取り入れる。

Ⅲ 教員の指導力向上 — 1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 授業研究の充実	①全員による授業公開を行い、外部指導者を招いての研究会の充実を図る。 ②個人、教科テーマを設定し授業力向上を推進する。 ③教員の世代間交流を通じて、教員の資質・力量の向上を図る。	研究授業を多く実施し、多数の教師の参加体制を作る。 ①～③継続 ☆指導要領改訂に伴い、教科や学年のねらいを明確にしなが授業研究を継続する。	研究授業を多く実施し、多数の教師の参加体制を作る。 ①全員による授業公開を行い、外部指導者を招いての研究会の充実を図る。 ②個人、教科テーマを設定し授業力向上を推進する。 ③教員の世代間交流を通じて、教員の資質・力量の向上を図る。 ☆指導要領改訂に伴い、教科や学年のねらいを明確にしなが授業研究を継続する。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆授業中の全教師による公開授業なのでその時間にあいている教師のみの授業参観なのが課題。		課題 ・研究授業の積極的な実施、課題研修レポートの作成を行う。 ・研究会の実施、適切な助言者の依頼を図る。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
② 授業評価の活用	①評価規準の見直しと検討を行う。 ②授業評価シート項目の検討する。 ③指導と評価の一体化をめざした授業改善を行う。 ④指導計画および評価計画を公表する。	①～②継続 ③外部講師等の専門家を活用した授業評価を取り入れる。 ④評価基準の公表をする。 ☆関係者評価の導入を進める。	①評価規準の見直しと検討を行う。 ②授業評価シート項目の検討する。 ③外部講師等の専門家を活用した授業評価を取り入れる。 ④評価基準の公表をする。 ☆関係者評価の導入を進める。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題	課題 外部講師等の専門家を活用した授業評価が十分できなかった。	課題 ・校内研究における授業を中心とした授業評価の推進。 ・生徒、保護者、外部関係者の授業評価を生かした授業づくりの推進。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	①地域教材の開発を計画する。	①地域教材活用のため、講師を招き研修会を行う。 ②行事、昔話、文化財など地域、郷土を知る活動を行う。 ☆地域教材の開発に取り組む。	①地域教材活用のため、講師を招き研修会を行う。 ②行事、昔話、文化財など地域、郷土を知る活動を行う。 ☆地域教材の開発に取り組む。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ・学校全体で地域教材活用の取り組みには至らなかった。	課題 ・地域教材の開発が十分できなかった。	課題 ・保護者、地域の外部人材の積極的な活用の推進。 ・地域団体の行事、学校との協働などの連携推進。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④ 研修事業の充実	①初任者研修や年次経験者研修等、経験年数や職務内容に応じた各種研修の積極的な参加を促す。 ②参加体制づくりを確認する。 ③研修会および研究会への参加を推進する。	①～③継続 ④研修の成果を伝達し、情報の共有化を図る。	①初任者研修や年次経験者研修等、経験年数や職務内容に応じた各種研修の積極的な参加を促す。 ②参加体制づくりを確認する。 ③研修会および研究会への参加を推進する。 ④研修の成果を伝達し、情報の共有化を図る。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆校内研究は十分成果はあったが研修の情報の共有化が不十分であった。		課題 ・教育活動全体において、教師が身につけるべきものの校内研修の計画。 ・県、市などの主催する研修会への参加を促す。 ・校内研究の計画的実施。

平成19年度～平成21年度 学校による点検及び評価の推移(沼間中学校)

I 子どもたちの学力向上 — 1 個に応じた指導の充実

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 基礎学力定着のための個に応じた指導の充実。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校おさらいテストの実施と分析 ・夏季休業期間中(10日間)に学習についての支援を実施する →従来の発展的な学習に加えて補充的な学習をさらに充実させる ・授業規律の確立(基本を大切に授業づくり) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校おさらいテスト、学習状況調査、全国学力学習状況調査の結果を分析し、学習面での課題を洗い出し、放課後(火)、定期テスト前、教育相談期間の支援を系統的に行う。 ・夏季休業期間中の補充・発展学習を強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒一人ひとりの3年間継続の個人学習支援シートを作成し、9教科を総合的に捉えた学力の向上を図る。 →読解力、思考力、発表力等
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 学習の継続性を図る。小中連携・地域連携による夏季休業中の補習学習の充実。	課題 計画通り実施できたが、補習学習の充実を検討。	課題 ◆個人学習カルテの改善と個別学習支援は充実できたが、休業中の補充学習には改善すべき点も残った。
② 読解力向上の取り組み推進	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会において、国語科の授業研究を問題提起とし、各教科での取り組みの可能性を模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教科で読解力向上推進プランを作成するなど、授業研究に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読解力向上について、さらに発展と向上を図る。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 各教科の読解力について具体的な実践研究に取り組む。	課題 校内研究で授業力向上をテーマに公開授業を行った。読解力向上については授業で意識しながら指導したが、全教科プラン作成まではできなかった。	課題 新学習指導要領を考慮し、1年で国語の少人数指導を試行した。また、各教科言語活動の指導を授業に取り入れる等、完全実施に向けて取り組んだ。
③ 読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・16年度の図書館利用授業で得た成果を再確認していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな読書推進活動を図書委員会と国語科が連携して提案し、実践していく。 ・朝読書をカリキュラムに組み入れ習慣化する ☆ボランティアを活用した読み聞かせ等に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書週間を中心に ・朝読書を生徒自らの活動で充実させる。 ・朝読書を充実させるためにブックトークの取り組みも積極的に取り入れる。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 読書習慣の向上を目指し図書ボランティアを活用した取り組みを工夫する。	課題 図書委員会、国語科、図書ボランティアの協力で読み聞かせ活動が実施できた。	課題 読書週間期間及び昼休み等を使い、読書活動や読み聞かせ等を行った。さらに充実を図りたい。
④ 支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談コーディネーターを中心に位置づけた教育相談連携計画を提案し検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆様々な教育活動の中における教育相談の充実と、担任による計画的な生徒全員との二者面談の実施。他機関との連携の推進。 ・ADHD、LD等の研修をし、特別支援教育についての具体的対策をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別に支援が必要な生徒への具体的な支援方法を学習面、メンタル面両輪で体系的に実践する。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 ◆相談しやすい環境の整備と、定期的な教育相談の充実。情報の共有と連携の推進。	課題 ◆支援委員会による支援の必要な生徒の把握とその情報の共有を教職員で行ったが、外部講師による校内研修は実施できなかった。	課題 ◆支援委員会で検討された事項を全体会で報告し全職員に共通理解を図った。また、外部講師による校内研修会を実施する必要がある。

I 子どもたちの学力向上 — 2 健やかな心と身体の育成

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 基本的な生活習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日に校門指導(あいさつ運動)を実施する。 ・基本的生活習慣に関わる全校生徒対象のアンケートを実施し、実態を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日に校門指導(あいさつ運動)を生徒会活動を中心として推進する。 ・アンケート結果を受けて、改善点を明らかにし、保護者・地域からの協力も得て改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・服装、食生活、時間、マナー面等、義務教育終了後、規範意識の高い社会人の育成を目指す。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 生活習慣のできていない部分を家庭とともに共有し、生徒が基本的生活習慣を自主的に身につけられるようにすること。	課題 生徒会、保護者の協力で毎週水曜日と定期試験の週5日間実施した。保護の協力のもと、朝のあいさつ運動は定着したが、遅刻者や服装の乱れの改善が十分ではなかった。	課題 ◆生徒会、保護者、地域の方、職員で登校指導を行ったが、服装、マナー面の指導について徹底できなかった。
② 豊かな心を育む教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・心の5か条の定着を日常的に教育活動全般において推進する。 ・3年間を見通した人権教育のカリキュラムを確立させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協力者等を招聘し、人権問題を生徒自らの課題として認識させる。 ☆人権フェスタの実施(全学年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権問題の課題を日常生活の中に見つけ、その解決に向けて行動できる力を生徒が身につけられるよう支援する。
	評価 A・B・C	評価 S・A・B・C	評価 S・A・B・C
	課題 体験を通じた道徳教育の充実と日常的な「思いやる心」「生命を大切にすること」の育成。	課題 人権フェスタの実施(全学年)、道徳の公開授業(人権教育、1年)を実施し保護者、地域の方にも参加いただいた。今後はテーマを決めて実施したい。	課題 1学年はCAP(暴力防止)カリキュラムの実施。外部講師の全学年対象の人権講話も実施した。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 豊かな体験活動の推進	・宿泊行事におけるカリキュラムと経費を見直し有効な教育活動となるようねらいを共通認識する。 ・職業体験学習の内容を発展させるカリキュラムを検討する。	☆新学習指導要領を見通した体験学習の見直し。 ・職業体験日数を2日に増やす。	☆1年生は、環境教育を年間指導の柱とし逗子海岸での清掃活動等を実施する。 ☆2年生では、自然体験学習(1泊)において、環境教育に関わる取り組みを計画・実践する。
	評価 A・B・C 課題 体験学習の充実とともに、発達段階に応じたねらいの系統化。	評価 S・A・B・C 課題 今年度2日間にし、実施したが、2日間受け入れてくれる事業所を探すのが難しかったので課題となった。	評価 S・A・B・C 課題 2学年対象の自然体験学習(1泊)、職業体験学習(1日)を実施したが、職業体験学習の期間については受け入れ先及び学校事情等が許せば2日間が望ましい。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④ 健康教育の推進	・地域講師を迎えた授業を家庭科において実践する。 ・保健体育、家庭科、養護教諭による授業の連携を深め、ねらいを深化させる。	☆かながわイキイキスクール研究指定校として保護者・地域の協力も取り入れ、学校全体で健康教育を推進する。	・健康教育全体計画にしたがって、体系的に実践する。
	評価 A・B・C 課題 県の研究指定校として地域教育力を取り入れた健康教育の見直し。	評価 S・A・B・C 課題 県指定で2年間のイキイキスクールを行い、食育授業で地域の方を講師に招いて調理実習を行った。健康教育で県から表彰を受けた。	評価 S・A・B・C 課題 今年度も食育で地域の方を招いて調理実習を行った。さらに充実を図りたい。

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 1 多様な教育課題への対応

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 子どもの安全と安心の確保の推進	・校舎危険箇所・修繕箇所を集約し、改善を図る。 ・生徒が参加する不審者対応訓練を充実させる。 ・安全管理マニュアルの見直しを徹底する。	・19年度の反省にたち、月末の『安全点検』のより効果的な方法を検討する。 ☆防犯、救急研修(職員対象)の実施。	・生徒も参加する月末の『安全点検』のより効果的な方法を検討する。
	評価 A・B・C 課題 他機関との連携による研修と実践的訓練の充実。	評価 S・A・B・C 課題 生徒の安全確保のための安全点検を複数で行うことができた。また、校内の防災、防犯研修を行ったが、定期的な安全点検の徹底とともに日常的な安全に対する意識の向上が必要である。	評価 S・A・B・C 課題 ◆学校の安全確保のため安全点検は不可欠なので、複数職員で点検する日を年間3回実施した。今年度は生徒参加の安全点検までは実施できなかった。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
② いじめ・不登校等への対応の推進	・3年間を見通した人権教育の定着を図る。 →1年 CAP講習会 →2年 イジメ防止プログラム →3年 エイズ教育 ・支援体制を検討する。	・教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、支援部長が中心となり学年・学級との連携を密にし、教育相談を必要とする生徒への早期対応が可能な支援体制を立ち上げる。 ☆一般公開による人権フェスタの実施(全学年)	・生徒が学級活動の中で互いに支援し合えるような学級集団を実現する。 ・教育相談を必要とする生徒への支援体制の充実を図る。
	評価 A・B・C 課題 各担当の連携を密にした素早い対応と被害者の立場に立った指導の充実。	評価 S・A・B・C 課題 支援委員会では支援が必要な生徒の全職員による把握、情報交換、共有の充実。人権教育の充実。1年生にCAP人権教育(暴力防止)実施。	評価 S・A・B・C 課題 人権教育の実施、支援委員会での支援が必要な生徒の把握、全職員の情報の共有、校内研修等で職員間の共通理解は深まった。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	・小中教職員研修を実施し相互理解を図る。(年3回以上) ・小中教職員協力で6年生おさらいテストを実施する。 ・新入生体験学習を10月に実施する。	・小中教職員研修を実施したり、研究会に乗り入れる等により、相互理解を図る。 ・中学校教諭が小学校にて交換授業を行う。 →体育だけではなく、英語、数学等に広げていく。	・教科毎に連絡会をもち、小中一貫カリキュラムの在り方を模索する。
	評価 A・B・C 課題 小中教職員が連携し、指導の連続性を目指した取り組みの検討。	評価 S・A・B・C 課題 沼間小学校との連携で小学校に出向いて授業、クラブ指導を実施。連携の充実。	評価 S・A・B・C 課題 沼間小学校小中連携で小学校に出向いて授業を実施した。小中連携の充実。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
④ 国際理解教育の推進	・修学旅行における生きた国際理解教育を定着させる。 ・郷土 逗子、沼間を学ぶ機会を積極的に導入する。 ・英会話教室に生徒参加を促す。	・地域講師(海外在留経験者又は日本に留学生として来られている方々等)を迎えての授業実践を導入する。	・地域講師(海外在留経験者又は日本に留学生として来られている方々等)を迎えての授業実践をカリキュラムの中に位置づける。
	評価 A・B・C 課題 英会話教室に生徒参加を促し、参加実績をつくる。	評価 S・A・B・C 課題 人権フェスタで海外支援活動の講話及び国際教育指導助手の自国文化の講話を授業に取り入れた。	評価 S・A・B・C 課題 今年度は特に海外在留経験者等の講師を迎えての授業は実施できなかった。来年度は実施したい。
行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑤ キャリア教育の推進	・特別活動、総合的な学習に止まらず、全教科においてキャリア教育を意識し、推進する。 ・職業体験学習の充実、発展を図る。(豊かな体験学習の推進と共に考える)	・職業体験日数を2日に増やす。 ☆キャリア教育について新学習指導要領を見通して検討を加える。	☆職業体験学習では内容の充実を図ることと生徒に日程及び内容の選択を広げる。
	評価 A・B・C 課題 職業体験学習を充実させキャリア教育の推進に努める。	評価 S・A・B・C 課題 今年度初めて職業体験を2日間にした。2日間の体験場所確保が課題。	評価 S・A・B・C 課題 新型インフルエンザ及び学級閉鎖による授業時数確保のため、職業体験を今年度は、1日で実施した。次年度以降2日日程で実施したい。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑥ 福祉教育の推進	・1年総合的な学習において、小学校の福祉教育を発展させ、自らの課題として意識させる。	・2年夏休みに個人選択で福祉体験学習に参加するよう学年で取り組む。	・全校の発表の場を設け、福祉体験を共有していく。
	評価 A・㉔・C	評価 S・㉔・B・C	評価 S・A・㉔・C
	課題 1年の総合的な学習の時間における福祉体験学習だけでなく、他学年にも広げ福祉教育の充実を図る。	課題 2学年で夏期休業中に総合学習の体験学習を実施。	課題 今年度の福祉体験学習は個人選択で夏休みに実施。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑦ 環境教育の推進	・環境局中心に学校版 ISOの取り組みを目指して準備を進める。	☆学校版ISO取得に向けて具体的に取り組む。 ・逗子メダカの飼育を全校の課題として意識させ、一人ひとりが環境問題に取り組めるよう促していく。	☆学校版ISO取得に向け環境局を中心に全校で取り組む。
	評価 A・㉔・C	評価 S・A・㉔・C	評価 S・A・㉔・C
	課題 環境に対する意識向上のための全校生徒による活動の取り組み。	課題 ISO取得に向けて活動中。メダカの飼育は難しかった。また、全校生徒への環境に対する意識の向上が不十分であった。	課題 生徒会(総務会)、環境局等で取り組んだが、ISO取得には至っていないので、引き続き取り組む必要がある。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
⑧ 情報教育の推進	・各教科で情報教育を推進していくことができるよう予算を確保する。	☆総合的な学習等での発表において、情報機器を活かしたプレゼンに取り組む。 ・他機関と連携して情報モラル向上に取り組む。	・情報モラル等についても生徒に課題を投げかけながら、日常の授業に生かしていく。 ☆情報モラル向上を図りつつ、インターネットを含めた情報機器の活用を広げる。
	評価 A・㉔・C	評価 S・㉔・B・C	評価 S・㉔・B・C
	課題 生徒の発表の場での情報機器の活用の推進。情報モラルの向上。	課題 情報モラルの更なる向上を図り、ICTを活用した授業づくりをめざす。	課題 情報モラルについて、技術・家庭科の授業で実施。インターネットのマナー等。

II 課題に迅速に対応する学校づくり — 2 地域に開かれた学校づくり

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 地域への情報発信と学校公開の工夫	・学校だより、学級通信、広報掲示板、回覧板を利用し、地域・家庭に情報提供の回数を増やす。 ・学校公開の広報活動や体制を整え、地域の方々が参加しやすい状況を作る。	・評議員に授業参観の機会を設定し、より多くの情報が共有できるよう評議員会を開く。 ・学校公開日を毎月指定し、地域・保護者が来校する機会を作る。	・学校へ行こう週間や公開日を利用して保護者・地域来校者の増加を図る。研究会は地域、保護者の参加を募り、意見反映を促す。
	評価 A・㉔・C	評価 S・㉔・B・C	評価 S・㉔・B・C
	課題 学級、学年、学校便りの定期的な発行と学校情報の積極的な公開。	課題 学校評価委員・評議員の来校日は授業参観してから会を行った。学校公開日は特に指定せず何時でも授業参観できるようにしているが参観者はほとんどない。	課題 授業参観年間3回実施。全教師の授業研究を実施。さらに、外部講師を招いての講演会等に保護者、地域の方にも参加いただいている。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
② 地域教育力の活用	・道徳、総合的な学習の時間に留まらず、各教科の授業においても地域講師を招くことができる教科から実施していく。 ・個別な学習支援・図書館に地域協力者の参加を実現させる。	・継続的に地域講師の協力を要請していく。 ・学校外の地域行事にも、生徒が積極的に参加するよう取り組む。	・個別な学習支援・図書館に地域協力者の参加を定着させる。 ・地域講師参画型の授業づくりを継続的に実施する。
	評価 A・㉔・C	評価 S・㉔・B・C	評価 S・㉔・B・C
	課題 道徳や各教科での地域講師参加の推進。	課題 創立20周年だったので、卒業生を含めた地域講師授業を行った。逗子市民祭り清掃ボランティアや地域のお祭りで見こしをかつぐ等の行事に参加。	課題 ◆ 地域講師授業の実施。食育では地域の方を招いて家庭科で調理実習を実施したが、園芸でも実施していきたい。

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
③ 学校評価を生かした学校の改善	・3年間行ってきた学校評価項目を精選し、授業評価も全校一斉全教科で実施し、授業改善に活かす。 ・評議員に授業参観等の機会を設定し、外部評価をより有効な評価にしていく。	・学校評価結果で重要度実現可能度等を検討し、全職員の共通理解を得て、最優先課題として解決を図る。	・客観性のある学校評価も一部取り入れ、その結果を真摯に受け止め検討し、最優先課題として解決を図る。
	評価 A・㉔・C	評価 S・㉔・B・C	評価 S・㉔・B・C
	課題 ◆ 学校評価を学校経営に活かせるよう評価方法、内容、時期を改善していく。	課題 ◆ 評価項目を見直し新しい評価アンケートで生徒、保護者、学校評価委員、評議員の学校評価を受けてポイントを絞り来年度以降にいかす方向で検討。	課題 生徒、保護者、地域の方、学校評価委員、評議員、職員のアンケートを実施し、課題を見つけ、優先課題から解決を図った。

Ⅲ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

行動プラン	H19(2007)年度予定内容	H20(2008)年度予定内容	H21(2009)年度予定内容
① 授業研究の充実	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が年3回の授業公開を実践する。 校内研究会で3回の研究授業を設定し、研究協議をもつ。 生徒・教員による授業評価を実施・分析する 	<ul style="list-style-type: none"> 19年度を継続、発展 学習状況調査や全国学力学習状況調査の結果を分析し、指導の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆基礎・基本の定着を基盤に、活用する力の育成を目指した授業研究に取り組む。
	評価 A・B・C 課題 ◆基礎基本の定着を図り、わかりやすい授業を目指した授業研究の充実。	評価 S・A・B・C 課題 ◆校内公開研究授業を実施し授業力を高めるにあたってより成果を高めるため、お互いに見合う時間の確保が課題である。	評価 S・A・B・C 課題 ◆校内研究は全教師が授業参観以外に外部講師を招いて研究授業を実施したが、さらに、校内研究会を充実させ、機会を増やしていく必要がある。
② 授業評価の活用	<ul style="list-style-type: none"> 全教科、全学年一斉に授業評価を実施し、授業改善に活かす。 (生徒・教員による授業評価を実施・分析) 	<ul style="list-style-type: none"> ☆全教科、全学年授業評価を行い、校内研究会でその結果を分析し、改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆授業評価を授業改善に生かして、授業力向上を目指す。
	評価 A・B・C 課題 ◆授業評価項目を見直し、その結果を授業改善にいかす。	評価 S・A・B・C 課題 ◆生徒、保護者による授業評価を実施し、結果を教職員に公開し授業にいかす。	評価 S・A・B・C 課題 ◆全教科、全学年の授業評価アンケートを実施し、課題解決の方針を出したが、授業に反映させるところまでには至らなかった。
③ 地域教材の積極的活用・開発の促進	<ul style="list-style-type: none"> 「沼間」についての小中合同研修会を行い、教材としての可能性を模索する。 逗子メダカの飼育を環境局が手始めに行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科指導においても地域教材を授業に積極的に取り入れ、地域にも授業公開し、協力を呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域教材を活用して、授業の充実と公開を積極的に行う。
	評価 A・B・C 課題 地域教材を取り入れた授業実践を検討する。	評価 S・A・B・C 課題 地域講師による食育の調理実習を実施し、身近な食材の活用をはかった。	評価 S・A・B・C 課題 食育で地域講師を招いての調理実習授業を実施した。地元の食材を使用(地産地消)した。
④ 研修事業の充実	<ul style="list-style-type: none"> 小中合同研修会の年3回実施を目標とし、企画・運営する。 →「郷土沼間を知る」 講師:地域の歴史家 →「支援が必要な生徒たち」講師:SC →「P&T教育講演会」 	<ul style="list-style-type: none"> 学校現場における人権の課題研修会を設定する。 ☆新学習指導要領の研修会を実施し、先取りを含めた移行を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理意識、情報モラル等の高揚等、今日的な課題についての研修会を実施。
	評価 A・B・C 課題 小中教職員の合同研修会の推進。	評価 S・A・B・C 課題 人権フェスタを実施し、生徒、保護者、地域の方、職員ともに参加し研修の場とした。移行期間に向けての各担当での検討。特に先行実施する道徳、特活、総合は3つの関連も考えて検討。	評価 S・A・B・C 課題 危機管理(安全な学校)研修として、防災では全職員対象で火災報知器等が作動した場合の対応。防犯研修では外部講師を招いての不審者対応訓練研修を行った。

○ 参 考 资 料

・平成21年度の教育委員会の活動状況

1 教育委員（右欄の（ ）内は委員任期）

教育委員長	村松 邦彦（平成 19. 6. 26～23. 6. 25）【2期目】
委員長職務代理者	五十嵐 樹（平成 17. 12. 1～21. 11. 30）【2期目】 竹村 史朗（平成 19. 11. 13～23. 11. 12）（職務代理者 H21. 11. 19～）
委員	山西 優二（平成 20. 12. 17～24. 12. 16） 桑原 泰恵（平成 21. 12. 1～25. 11. 30）
教育長	村上 裕（平成 18. 4. 1～22. 3. 31）

2 教育委員会開催状況（平成21年度実績）

定例会 12回開催

臨時会 1回開催

3 教育委員会審議案件

4月定例会 4月20日（月）	<p>日程第1 教育長報告事項について</p> <p>日程第2 報告第6号 教育委員会職員の人事について</p> <p>日程第3 報告第7号 逗子市奨学金規則の一部改正について</p> <p>日程第4 報告第8号 逗子市教育委員会職員の勤務時間の特例に関する規程の一部改正について</p> <p>日程第5 報告第9号 逗子市立学校県費負担学校職員の勤務時間の割振り等に関する規程の一部改正について</p> <p>日程第6 報告第10号 平成21年度逗子市奨学金受給者の給付決定について</p> <p>日程第7 議案第16号 逗子市立図書館協議会委員の辞任及び任命について</p> <p>日程第8 請願第2号 教科書採択に関する請願</p> <p>日程第9 その他</p>
5月定例会 5月20日（水）	<p>日程第1 3月定例会会議録の承認について</p> <p>日程第2 教育長報告事項について</p> <p>日程第3 議案第17号 平成22年度逗子市立小・中学校使用教科用図書の採択方針について</p> <p>日程第4 その他</p>
6月定例会 6月17日（水）	<p>日程第1 4月定例会会議録の承認について</p> <p>日程第2 教育長報告事項について</p> <p>日程第3 その他</p>
7月定例会 7月27日（月）	<p>日程第1 5月定例会会議録の承認について</p> <p>日程第2 教育長報告事項について</p> <p>日程第3 報告第11号 教育委員会職員の人事について</p> <p>日程第4 議案第18号 文化振興条例制定の申出について</p> <p>日程第5 陳情第1号 望ましい歴史教科書の採択を求める要望書について</p> <p>日程第6 陳情第2号 教科書採択についての要望書について</p> <p>日程第7 その他</p>
第1回臨時会 8月3日（月）	<p>日程第1 6月定例会会議録の承認について</p> <p>日程第2 教育長報告事項について</p>

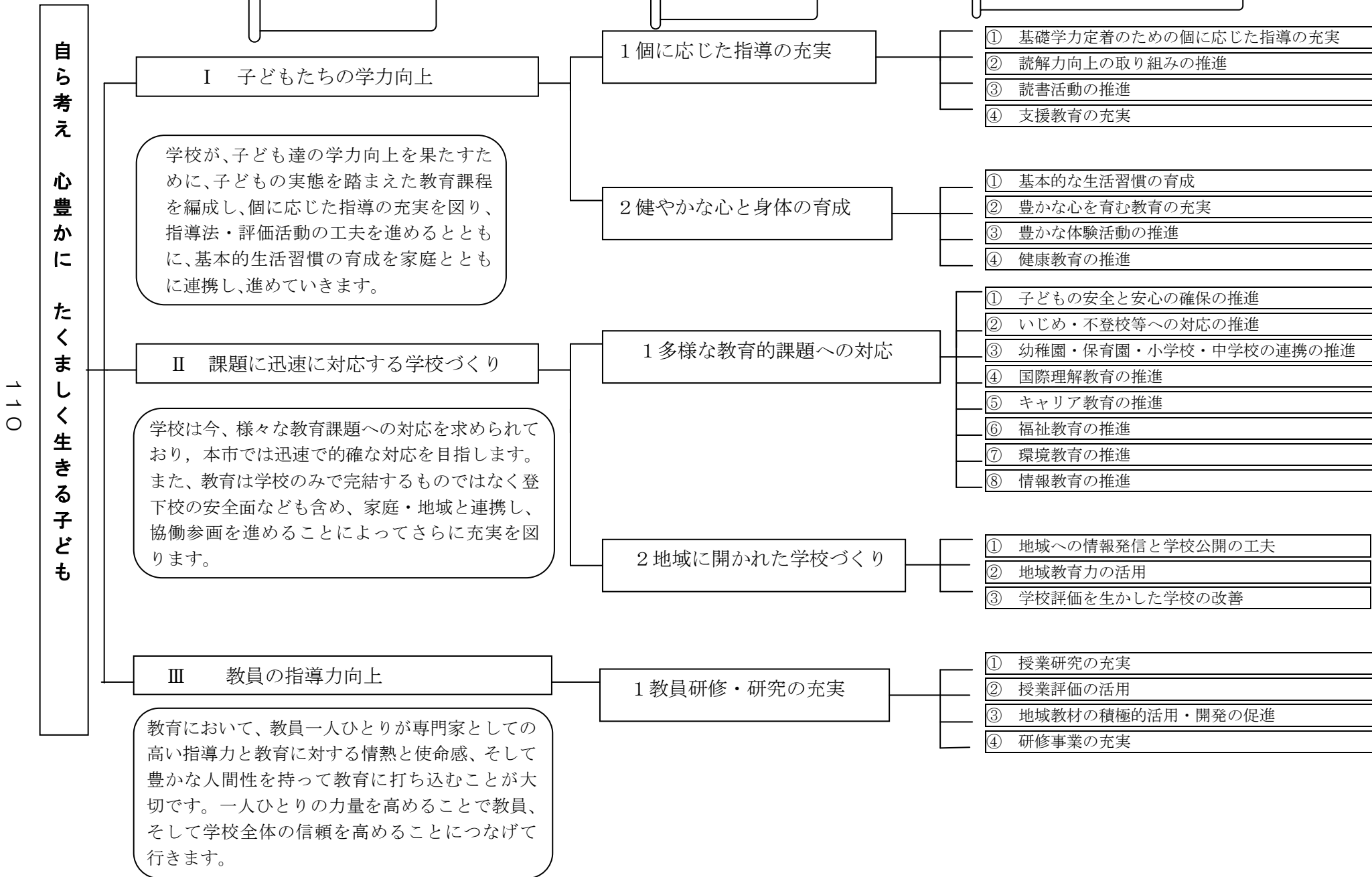
日程第3	議案第19号 教科用図書の採択について
日程第4	その他
8月定例会	8月17日(月)
日程第1	教育長報告事項について
日程第2	議案第20号 議案(逗子市文化振興条例の制定について)作成に伴う逗子市教育委員会の意見聴取について
日程第3	その他
9月定例会	9月30日(水)
日程第1	7月定例会会議録の承認について
日程第2	第1回臨時会会議録の承認について
日程第3	8月定例会会議録の承認について
日程第4	教育長報告事項について
日程第5	報告第12号 議案(平成21年度逗子市一般会計補正予算(第4号))作成に伴う逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第6	議案第21号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方針について
日程第7	議案第22号 平成21年度工事計画の策定について
日程第8	議案第23号 逗子市文化振興基本計画策定等検討委員会設置規則の制定について
日程第9	その他
10月定例会	10月21日(水)
日程第1	教育長報告事項について
日程第2	その他
11月定例会	11月18日(水)
日程第1	9月定例会会議録の承認について
日程第2	教育長報告事項について
日程第3	報告第13号 議案(平成21年度逗子市一般会計補正予算(第5号))作成に伴う逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第4	議案第24号 逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書について
日程第5	議案第25号 逗子市社会教育委員の選任について
日程第6	委員長の選挙について
日程第7	委員長職務代理者の指名について
日程第8	その他
12月定例会	12月16日(水)
日程第1	10月定例会会議録の承認について
日程第2	教育長報告事項について
日程第3	その他
1月定例会	1月25日(月)
日程第1	11月定例会会議録の承認について
日程第2	教育長報告事項について
日程第3	報告第1号 平成22年度全国学力・学習状況調査の実施について
日程第4	その他
2月定例会	2月26日(金)
日程第1	12月定例会会議録の承認について
日程第2	教育長報告事項について
日程第3	報告第2号 議案(平成21年度逗子市一般会計補正予算(第6号)及び平成22年度逗子市一般会計予算)作成に伴う逗子市教育委員会の意見聴取に対する回答について
日程第4	報告第3号 県費負担教職員の任免の内申について
日程第5	議案第1号 「学区希望制」の今後の方向性について
日程第6	その他

3月定例会	3月23日(火)
日程第1	1月定例会会議録の承認について
日程第2	教育長報告事項について
日程第3	議案第2号 逗子市学校教育総合プラン(第Ⅱ期)について
日程第4	議案第3号 逗子市非常勤の図書館長の職務等に関する規程の制定について
日程第5	議案第4号 逗子市文化財保護委員会委員の任命について
日程第6	議案第5号 逗子市社会教育委員の選任について
日程第7	その他

4 教育委員 主な活動状況

	教育委員会会議	その他の主な活動
4月	定例会(4/20)	神奈川県市町村教育委員会連合会(4/14)
5月	定例会(5/20)	市長との懇談(5/20) 文化プラザフェスティバルパーク記念式典(5/30)
6月	定例会(6/17)	小学校運動会(6/7) 市長との懇談(6/17)
7月	定例会(7/27)	
8月	臨時会(8/3) 定例会(8/17)	神奈川県市町村教育委員会連合会役員会(8/11) 市長との懇談(8/31)
9月	定例会(9/30)	中学校体育祭(9/20) 小学校運動会(9/27)
10月	定例会(10/21)	小学校運動会(10/17) 市長との懇談(10/21) 小・中学校「学校へ行こう週間」(10/19~11/10) 戦没者追悼式(10/23) 逗子市文化祭(10/23)
11月	定例会(11/18)	神奈川県市町村教育委員会連合会研修会(11/5) 市内小中学校合同音楽会(11/6) 久木小わくわくフェスティバル(11/28)
12月	定例会(12/16)	
1月	定例会(1/25)	市内一周駅伝(1/10) 成人式(1/11) 市長との懇談(1/25) 公民館大会(1/28)
2月	定例会(2/26)	手作り絵本コンクール表彰式(2/13)
3月	定例会(3/23)	中学校卒業式(3/12) 小学校卒業式(3/19) 社会教育委員との面談(3/24)

○学校教育総合プラン 21世紀を生きる逗子の子どもの育成 「未来を切り拓く子どもの成長を支えるために」



○ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（事務の委任等）

第二十六条 教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事務は、教育長に委任することができない。

一 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。

二 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。

三 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。

四 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。

五 次条の規定による点検及び評価に関すること。

六 第二十九条に規定する意見の申し出に関すること。

3 教育長は、第一項の規定により委任された事務その他その権限に属する事務の一部を事務局の職員若しくは教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員（以下この項及び次条第一項において「事務局職員等」という。）に委任し、又は事務局職員等をして臨時に代理させることができる。

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当っては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

（教育委員会の意見聴取）

第二十九条 地方公共団体の長は、歳入歳出予算のうち教育に関する事務に係る部分その他特に教育に関する事務について定める議会の議決を経るべき事件の議案を作成する場合には、教育委員会の意見をきかなければならない。

- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について（抜粋）
（19 文科初第 535 号 平成 19 年 7 月 31 日 文部科学事務次官通知）

第一 改正法の概要

1 教育委員会の責任体制の明確化

(3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととしたこと。点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとしたこと。（法第 27 条）

第二 留意事項

1 教育委員会の責任体制の明確化

(3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

- ① 今回の改正は、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものであること。
- ② 現在、すでに各教育委員会において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するなどの取組を行っている場合には、その手法を活用しつつ、適切に対応すること。
- ③ 点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることについては、点検及び評価の客観性を確保するためのものであることを踏まえ、例えば、点検及び評価の方法や結果について学識経験者から意見を聴取する機会を設けるなど、各教育委員会の判断で適切に対応すること。

逗子市教育委員会教育部教育総務課

〒249-8686

神奈川県逗子市逗子5-2-16

TEL046-873-1111

FAX046-872-3115

E-mail kyouiku@city.zushi.kanagawa.jp